

フォークリフトを小起因物とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小)	事故の 型	労働 者規 模
2021	1	14 ～ 16	段積みされたパレットをフォークリフトで運搬し、バックで旋回しながら検査台に載せようとしていたところ、運搬していたパレットが崩れ、検査台でパレットの点検作業をしていた被災者の頭上に落下し負傷したもの。なお、被災者は、災害発生後に呼吸不全で死亡した。また、災害発生時に、構内下請けの労働者2名も、同様にパレットがぶつかり負傷した。	80409	4	10～ 29
2021	2	12 ～ 14	被災者は、テント倉庫の入口カーテンが屋根の上に捲れ上がっていたため、それを元に戻そうとフォークリフトの爪に木製パレットを差し込み、その上に乗り、他の労働者が上昇させ、カーテンを引き下ろそうとしたところ、約3メートル下のアスファルト上に墜落した。	10602	1	10～ 29
2021	3	2 ～ 4	被災者は、事業場の製造過程において発生する木材の廃材を集積する作業を行うため当該廃材置場内を通行していたところ、木材を廃棄するために廃材置場内を走行していたフォークリフトにはねられ死亡した。	10402	6	100～ 299
2021	3	14 ～ 16	丸太の運搬作業を行う際、フォークリフトで丸太（長さ11m、重量約730kg）を2tトラックに載せる作業を行っていた。被災者がトラックの荷台に乗り、フォークリフト運転技能講習を修了していない労働者がフォークリフトを運転し丸太を載せていたところ、丸太が転がり被災者に接触、丸太とともに荷台から墜落したものの。	70101	1	1～9
		14	事業場Aの構内において、事業場Bの労働者（以下、被災者という。）が、フレコンバックを吊ったフォークリフトを運転し、ステンレス製の			

2021	4	～	床面を走行させていたところ、突然ステンレス製の床が凹み、バランス	150102	2	1～9
		16	を崩して転倒したことにより、被災者の頭部がフォークリフトと床の間に挟まれ死亡したもの。			
2021	6	8 ～ 10	被災者が工場から補修テントに移動していたところ、後方からフォークリフトに激突されたもの	50101	6	50～ 99
2021	6	10 ～ 12	被災者が、工場から約200メートル離れた塗装場から、塗装する製品を取りに行くため、工場に向かって、公道（道幅4.9メートル）上を、最大荷重2.5トンのフォークリフト（ナンバー付き）で荷を積まずに走行していたところ、公道脇にある水路にフォークリフトが横転し、ヘッドガードと水路の壁（コンクリート製）の間に被災者の頭がはさまれたもの。	11209	17	10～ 29
2021	6	～	路上で停まっているフォークリフトの横で被災者が倒れているのを同社	80109	1	1～9
		14 ～ 16	の労働者が発見した。被災者は頭部を激しく損傷しており死亡していた。被災者は飼料販売会社の労働者であり、トラックに積んできた飼料を牛舎にフォークリフトを使用して搬送している最中に、坂道を転落したと推測される。			
2021	7	～	圧延作業の前準備として、被災者がアルミのコイル（以下「コイルA」と記載する。）を梱包している段ボールを外す作業を行っていた。被災	11101	7	10～ 29
		14 ～ 16	者が作業を行っていた場所に、別の労働者Cがフォークリフトを使用してもう1つアルミのコイル（以下「コイルB」と記載する。）を運んできた。労働者Cは進行方向前方にいた被災者に気付かず直進し、コイルBが被災者と接触し、そのまま被災者がコイルAとコイルBに胸部をはさまれたもの。			
2021	7	8 ～ 10	事業場で整備したフォークリフトを約1キロメートル離れた所有者の車庫へ自走により移送中、道路（公道、アスファルト舗装）脇の水田に転落、横転した。その際、被災者はフォークリフトの下敷きとなり死亡した。	11701	17	1～9

2021	7	14 ～ 16	鶏糞を原料とした肥料をつくる作業場で、一人で作業していた被災者が、攪拌機とフォークリフト（バケットを取り付けたもの）の間に挟まれているところを発見された。	80209	7	1～9
2021	7	6 ～ 8	配送先において、被災者は、配送先事業場所有のフォークリフトを使用して荷物の搬入を終え、フォークリフトを敷地内の坂道の途中で止めて降り、トラックのあおりを閉じるためにトラックへと向かって歩いていたところ、フォークリフトが突然坂道を下りだし、それに気づいた被災者がフォークリフトを止めようとしたが止められず、トラックの側面とフォークリフトの間に挟まれて被災したものの。	40301	7	50～ 99
2021	7	8 ～ 10	当該事業場は地中に埋設する導管等を製造する事業場である。被災者ほか3名は、運送業者のウイングボディ型トレーラーの荷台に積み上げられた導管を荷卸しするため、フォークリフトのフォークにパレットを挿して高さ約2.3mに上げ、上の導管をずらしてパレットに積む作業中、被災者が地面に墜落したものの。災害発生直前の状況を見た労働者はいない。被災者を含め、全員がヘルメットを着用していなかった。	10805	1	1～9
2021	8	16 ～ 18	営業所内倉庫において、検品作業を終えた運転者がフォークリフトを所定の駐車位置に戻そうとバック走行していたところ、被災者に激突し、被災者は2メートル飛ばされ床に頭部を強打し、後日死亡した。ヘルメットを着用していなかった。	80401	6	30～ 49
2021	8	14 ～ 16	被災労働者が1人でフォークリフトを使用して工場から段ボール加工紙をトラックに積み込み作業中、工場と駐車場の間の傾斜がある通路で、停止しているフォークリフト後方に倒れている被災者を工場内作業員の同僚が発見した。	10602	1	1～9
2021	8	10 ～ 12	ピッキングフォークリフトを用いて倉庫棚から商品取出し作業中、ツメを約2.8mの高さまで上昇させた状態で棚の商品を取り出そうとしたところ、バランスを崩して墜落し、頭蓋骨骨折、頸椎骨折等を負ったものの。救急搬送により病院へ搬送され処置を受けていたが、後日死亡が確認された。	80109	1	30～ 49

2021	10	12 ～ 14	被災者は平ボデートラックの荷台の鳥居部と後あおりに斜めにかけて渡して積まれたリップ溝形鋼（C形鋼）30本の束（長さ12m、重さ1.5t）を降ろす作業において、荷台上でフォークリフトを誘導していた。フォークリフトが鋼材の束を持ち上げたところ、鋼材が滑り、被災者とともに地上に落下し、被災者は鋼材の下敷きになったもの。被災者はトラックの運転者で、フォークリフトを運転していたのは荷主先の労働者であった。	80109	4	10～ 29
2021	11	14 ～ 16	倉庫整理のため、フォークリフト（最大荷重2250kg）で段ボールに梱包された冷凍庫（約55×60×100cm、37kg）をパレット1段当たり8台3段重ね（高さ約7m）にして移動をしていたところ、荷崩れを起こし、何らかの理由で運転席の外に出た運転手の頭部に激突したものの。	50101	5	30～ 49
2021	11	8 ～ 10	被災者は、荷積みされた線材の脇に荷崩れ防止のための角材を入れる作業を行っていたところ、フォークリフトで抱えた重さ約2トンの線材と荷積みされた線材の間に挟まれたもの。	50202	7	10～ 29
2021	11	10 ～ 12	積み荷を運搬する為にフォークリフトのフォークを積み荷の上段（1枚あたりの重量が約15キログラムの木製パレットを15枚で1組とし、上下に3組ずつ積まれていた。）に差し込んだ際に、フォークリフトの誘導をしていた被災者が、フォークリフトの運転を一時停止させた上で積み荷の前方へ移動した後に、何等かの原因で積み荷（木製パレット1組）が崩壊して下敷きになり、救急搬送されたが病院にて死亡が確認されたもの。	30209	5	1～9
2021	12	14 ～ 16	被災者が休憩のため解体作業場所から現場事務所に向かう途中、本件工事の発注者の労働者が運転するフォークリフトと接触し轢かれたもの。フォークリフトは専用アタッチメントでフレコンバッグを4つ吊っており、前の視界が制限された状況であった。	30209	6	10～ 29
		16	第一倉庫内において、最大荷重2.5トンのフォークリフトのフォークにパレットを差し込み、約3メートルの高さまでリフトし、そのパレッ			

2020	1	～ 18	トの脇に梯子を立てかけていたそばで、被災者が倒れているところを発見され、救急搬送された。被災者は後日脳挫傷により死亡した。発見時、被災者は保護帽、墜落制止用器具は着用していなかった。	170209	1	10～ 29
2020	1	14 ～ 16	被災者は、フォークリフトのパレットに乗って工場の中二階に登り、そこにある籠を取り出して籠とともにパレットに乗った。そして被災者と籠を降ろすためパレットを上げた状態でフォークリフトを後進させたところ、被災者が床面に墜落したものの。	10102	1	1～9
2020	1	10 ～ 12	配送先の敷地内で、トラックを停車し、フォークリフトによる足場材の荷下ろし作業を手伝っていたところ、配送先の労働者が運転するフォークリフトと接触し、トラックとフォークリフトの先端に右脇腹を挟まれ、死亡したものの。	40301	7	1～9
2020	2	14 ～ 16	被災者は、外構工事で使用する堆肥を、トラッククレーンで運搬する業務に従事していた。後日、被災者は、自社倉庫でトラッククレーンの荷台とフォークリフトのパレットに挟まれているのを発見され、病院へ搬送されたが死亡した。	30309	7	1～9
2020	2	8 ～ 10	敷地内にある資材置場において、被災者はフォークリフトにより足場等の資材を卸した後、荷を積まずフォークを最大に上げた状態で北東方向に直進し、南東方向に旋回したところ、フォークリフトが傾き始め、運転席左側から外に放り出された被災者が、転倒してきたフォークリフトの運転席フレームに頭部を挟まれ死亡したものの。	170209	2	10～ 29
2020	3	6 ～ 8	鋳型用の再生処理砂を運搬してきたトラック運転手が荷主事業場内を徒歩で移動中、他の運送事業者の労働者が運転するフォークリフトに轢かれた。なお、フォークリフト運転者は、廃棄物の入った鉄箱（縦1.2 m・横1.5 m・高さ1 m）の運搬作業中であった。	40301	6	30～ 49
		8	倉庫入口で防鳥ネットの上部の補修作業を同僚1名と行っていたところ、前進させたフォークリフトと壁に挟まれ死亡したものの。被災者はネットの紐を倉庫入口上方の滑車に通すため、フォークリフトのパレッ			

2020	5	5 ~ 10	トに乗って作業ができる高さまで同僚にパレットを上昇させた。同僚が作業位置までフォークリフトを前進させたところ、パレット上の被災者が倉庫入口上の壁とフォークリフトのバックレスト又はマストの間に挟まれた。	11301	7	1~9
2020	5	6 ~ 8	配送先での荷下ろし作業が終了し、被災者は大型トラックのウイングを格納するため、大型トラック荷台左後部のスイッチを押していた際、配送先の事業場のフォークリフトが後退し、被災者がフォークリフトと大型トラックとの間にはさまれた。	40301	7	1~9
2020	5	8 ~ 10	市内にある工場（荷主）敷地内において、同社労働者がフォークリフトを運転し、被災者が運転してきた車両積載形トラッククレーンの荷台にコンクリート製品2枚1束（1枚700~900kg）を積み込んでいたところ、フォークに載った製品が荷台上で位置決め作業していた被災者の方向へ倒れ掛かり、製品と一緒に荷台上から地面に転落し、製品の下敷きとなって死亡したものの。	40301	6	30~ 49
2020	6	8 ~ 10	古紙等の卸売業者に廃段ボールを持ち込み、トラックから段ボールを降ろす際にトラックのあおりを固定する部品が破損したため、古紙等の卸売業者の労働者が運転するフォークリフトの作業装置を用いて補修した後、フォークリフトを後進させようとしたが、誤って前進させてしまい、フォークリフトの前方で作業していた被災者が、フォークリフトとトラックの間にはさまれた。	40301	7	50~ 99
2020	6	12 ~ 14	事業場付近の道路において、最大荷重1.75トンのフォークリフトを使用しゴムホースのドラムを運搬中、下り坂でブレーキが利かなくなり山肌に取り上げて横転した。その際、運転手及び同乗者が投げ出され、運転手が横転したフォークリフトの下敷きとなり死亡、同乗者は頭部挫創した。	70101	17	1~9
2020	7	16 ~ 18	事業場敷地外の農道（公道）をフォークリフトで走行し、草刈機を運搬していたところ、農道脇の側溝に横転した。その際、運転手が投げ出され、横転したフォークリフトの下敷きとなり死亡した。	60101	17	1~9

2020	7	10 ～ 12	魚市場の岸壁上で、別の事業場の者が水揚げされた魚が入ったコンテナをフォークリフトで運搬していて、エンジンを掛けたままの状態です。停車し運転席を離れたため、無人の状態のフォークリフトが逸走して約7m先の岸壁から落下。岸壁に接岸した船の甲板上で水揚げ作業を行っていた被災者が、落下してきたフォークリフトの下敷きとなった。	70201	4	10～ 29
2020	7	14 ～ 16	工場内において、プレス機械の金型を交換するため、被災者が金型を載せたフォークリフトをプレス機械正面に停車させ、運転席から降りてプレス機械スライド下面の清掃を行っていたところ、フォークリフトが突然動き出し、プレス機械とフォークリフトに載せられた金型との間に被災者の腹部が挟まれたもの。フォークリフト停車時にはエンジンは停止しておらず、ギアがロー（前進）に入れられ、サイドブレーキは掛けられていたもの。	11209	7	1～9
2020	8	14 ～ 16	製品の原料が積載されたパレット（約600kg）をトラックの荷台の左側後方に積み込もうとしたところ、トラックがゆっくりと前進を始めたため、トラックの荷台とフォークリフトが接触してフォークリフトが横転し、被災者がフォークリフトの下敷きになったもの。	10899	2	100～ 299
2020	9	8 ～ 10	被災者は、フォークリフトを運転し、空パレットの移動作業を行っていたところ、前進操作中にプラットホーム端部からフォークリフトごと転落し、下敷きになり死亡したもの。	50101	1	30～ 49
2020	9	12 ～ 14	被災者は、フォークリフトを運転しソーラーパネルを設置する架台の運搬作業をしていた。昼休み終了後、降雨により運搬作業を中断し、空荷状態のフォークリフトを駐車場所へ戻すため、傾斜のある作業道（アスファルトの上を泥が覆っている状態）を下っていたところ、斜面でフォークリフトが滑り、バランス崩し横転した。このときフォークリフトに挟まれ死亡したもの。	30209	2	1～9
2020	9	14 ～	フレコンバックにフィルムを詰める作業において、使用していた1.27tある円柱状の鉄柱がフォークリフトのフォークから落下し、フレコンバックの周囲でこぼれたごみをフレコンバックに詰めていた男性従業員	80109	4	1～9

		16	員に落下し、下敷きになった。			
2020	10	6 ～ 8	事業場内において、被災者は、酸洗するためのコイル状の伸線（約2 t）を、フォークリフトにより運搬中フォークリフトが転倒し、運転席左側から外に放り出された被災者が転倒してきたフォークリフトのヘッドレスト部に頭部を挟まれたもの。	11001	2	30～ 49
2020	10	10 ～ 12	トラックの荷台上に幅30cm×高さ30cm×長さ3.5mの鉄骨を3段4列積み込んだ上（地上高2.4m）にりん木を敷き、連結した2本の鉄骨（荷姿：幅40cm×高さ80cm×長さ3.5m、重量1.4トン）をフォークリフトを用いて積み込んでいた際、当該鉄骨がフォークリフトの反対方向に倒れ、同所でフォークリフトの誘導を行っていた被災者ととも地上まで落下し、被災者が鉄骨の下敷きとなって死亡したもの。	30105	4	30～ 49
2020	10	10 ～ 12	会社敷地内において、被災者が穀物の検査検量作業を行っていたところ、工場内から後退してきたフォークリフトに激突された。被災者は後日、腹部鈍的外傷に伴う敗血症により死亡した。	170209	6	30～ 49
2020	10	12 ～ 14	本件事業場原料ヤードにおいて、本件事業場の労働者が、本件事業場から荷役作業を請け負う事業場の労働者の運転するクランプリフト（フォークリフト）にて運搬中の古紙をまとめたブロック（約1トン）4個と、すでに積置きされていた古紙をまとめたブロックとの間に挟まれたものである。	10602	7	100～ 299
2020	10	8 ～ 10	廃棄段ボールを圧縮成形した梱包品（100×100×180cm、重量約980kg）のはいについて、出荷のため運送事業者の運転者がフォークリフトを運転し、はいくずし作業をしていたところ、フォークリフトで横づかみした3段目の梱包品の上に位置していた4段目の梱包品が325cmの高さから落下し、段ボールの油染みの有無確認及び除去作業をしていた被災者に激突したもの。	80109	4	10～ 29
			深夜、事業場4階倉庫フロアーにおいて、オーダピッキングトラックを			

2020	11	2 ～ 4	<p>運転し、荷下ろし作業に従事していた被災者が倒れているところを発見された。発見当時、オーダピッキングトラックの運転席は地上約4メートルの高さに停止しており、被災者の傍には荷の段ボール箱が1箱落下していたことから、作業中に墜落したものと思料される。被災者は首の骨を骨折しており、後日死亡した。</p>	50101	1	50～ 99
2020	11	12 ～ 14	<p>被災者は、事業場敷地内の倉庫内において、リーチ型フォークリフトを使用して荷をラック（荷を補完するために設置されている棚）の下に置く作業を行っていたところ、背後にあった別のラックとフォークリフトの運転席との間に胸部を挟まれたもの。なお、被災者は病院から県病院に搬送、入院していたが、後日死亡した。</p>	80401	7	1～9
2020	11	18 ～ 20	<p>冷凍室内にてリーチ式フォークリフトを用いて食肉の搬出する作業を終えてパレット等の片づけ作業を行っていたとき、リーチリフトのフォークを上げた状態で後進したところ、マスト上部が冷凍室の出入り口の上部に激突し、運転していた被災者が運転台から投げ出された。災害発生の5日後に死亡した。</p>	50101	3	10～ 29
2020	11	8 ～ 10	<p>ダイスポットティングプレスに金型をセットする際に発生した。同僚がフォークリフトを運転し金型（約7トン）をボルスターにセットしようとしたところ、プレスの裏側にいた被災者の方に金型が滑り落ち、背面の棚及び床との間に挟まれた。被災者は金型の位置を調整するためにプレスの裏側から運転者に合図を行っていた。</p>	11203	4	30～ 49
2020	12	18 ～ 20	<p>被災者は、フォークリフトを運転して、鉄製の箱に入った廃棄物を運搬していたところ、横転したフォークリフトのマストに頭部が下敷きになり死亡したもの。現場は街灯のない市道で、霧のため視界不良であった。また、被災者はシートベルトを装着せず、保護帽も着用していなかった。</p>	70101	17	30～ 49
2020	12	12 ～ 14	<p>冷蔵倉庫に横付けしたトラックからフォークリフトで荷下ろし中、後進していたフォークリフト後方を歩行していた被災者が後輪に巻き込まれ、死亡したもの。なお、フォークリフト運転者は無資格であった。</p>	40301	7	10～ 29

2020	12	14 ～ 16	被災者がフォークリフトを使用してトラックに荷の積込み作業を行っていたところ、荷がトラックの荷台内部に接触し積荷が歪んだ。被災者は、エンジンをかけたまま運転席から離れ、ヘッドガードとマストとの間から荷の歪みを修正しようとしたところ、身体の一部がチルトレバーに接触したことにより、マストが後傾し、ヘッドガードとマストの間ではさまれたもの。	40301	7	10～ 29
2020	12	12 ～ 14	被災者は、コンクリートブロック（重量：約2 t）をフォークリフトで運搬していたところ、下り坂（勾配約10度）をバックで走行中に法面にフォークリフトが乗り上げて横転したことにより、運転席から投げ出され死亡した。	20201	2	1～9
2019	1	14 ～ 16	金属やプラスチック等の廃品を回収加工して販売している事業場内で、被災者がフォークリフトを運転していたところ、何らかの理由で傾斜のある路肩に乗り上げて、フォークリフトが横転し、座席から投げ出された被災者がフォークリフトのヘッドガードと地面に頭をはさまれた。	11209	2	1～9
2019	2	12 ～ 14	倉庫内において、トラック荷台上のコンテナから多量の木（長さ約2 m、径5 cm）を降ろす作業を4人で行っていた。コンテナの一つの面の差し込み式の柵をフォークリフトで引き抜こうとしたところ、荷崩れ防止用に設置していた木がはじかれ、車両近くの地上にいた被災者の頭部を直撃した。意識不明で病院へ搬送され入院加療中であったが、後日急性硬膜下血腫により死亡した。被災者は保護帽を着用していなかった。	60101	4	1～9
2019	2	10 ～ 12	岸壁において、外国から輸入されたコークスの入ったフレコンバッグの検数作業を行っていた被災者が、A社の作業員の運転するフォークリフトに激突されたもの。	170209	6	10～ 29
2019	2	14 ～ 16	被災者は、トイレに行くために作業場所から事務所へ敷地内を歩行していたところ、後方から走行してきた同僚が運転するフォークリフト（最大荷重：3,550 kg）に激突されて、倒れた後、当該フォークリフトの前輪に胴体をひかれた。	80109	6	10～ 29

2019	3	10 ～ 12	フォークリフトの爪の部分に労働者を乗せて、棚に置かれた荷物（5キロ）を取ろうとしたところ、爪の部分から足を踏み外して約2.5メートル下のコンクリート床上に墜落し、頭部を強打し死亡した。	11709	1	1～9
2019	4	4 ～ 6	被災者は、プラットホーム上に仮置きしていた荷（パレット2段積み）のうち、2段目の荷を所定の位置へ運搬するため、フォークリフトを運転し、フォークを2段目パレットの高さまで上昇させた後前進させたところ、急加速し、プラットホーム端部から1.3m下の地面までフォークリフトごと転落した。運転席から投げ出された被災者は、フォークリフトの下敷きとなり死亡した。	40301	1	30～ 49
2019	4	14 ～ 16	出張先の構内で、プレス機械（800kg）の移設のため、フォークリフト（最大荷重2t）を用いて搬送中、床面に段差（最大4.5cm）がある部分を通過した際、プレス機械が左側に横転し、誘導していた被災者が建物の壁とプレス機械に挟まれて死亡した。	170209	4	30～ 49
2019	5	14 ～ 16	事業場が所有するフォークリフトが横転し、機体と地面の間に挟まれた状態で倒れていた被災者を事業場に隣接する会社の関係者（取引先）が発見したもの。	150103	2	1～9
2019	5	10 ～ 12	工場内で、最大荷重15トンのフォークリフトを使用して、母材コイルの運搬作業をしていたフォークリフトの運転者が、梱包を外す作業のためフォークリフトを降り工場内を歩行中に安全靴が落ちている事に気づき、確認したところ当該フォークリフトの車体の真下に倒れている被災者を発見した。その後、病院へ搬送されたが死亡した。	11209	7	30～ 49
2019	5	14 ～ 16	被災者は、飼料工場内で2.5tフォークリフトを用いてフレコンバックに入った飼料（500kg）をサイドクランプの片方の爪で吊って運搬作業をしていた。夕方ごろ、大きな音が響いたため同僚が駆け付けたところ、フォークリフトが横転し、フォークリフトの後方フレームに胸部を挟まれ下敷きになっている被災者を発見したもの。なお、現場に段差はない。	11709	2	1～9
			被災者はフォークリフトを使用して鉄の廃材を運搬する業務を行ってい			

2019	6	16	たところ、廃材のツルハシの金属部がバックレストの下部に引っかかっていることに気づいたため、フォークを上げてバックレストの下部に入り込み、ツルハシを引き抜いたところ、フォークが降下し、被災者の頭部がバックレスト部と地面に挟まれたもの。	150102	7	10～ 29
2019	6	8 ～ 10	フォークリフトを運転してパレットの運搬作業中、敷鉄板上を後進していたところ、左後輪が敷鉄板から脱輪した。フォークリフトが左側に傾いたため、被災者は運転席から飛び降りたが、転倒したフォークリフトと地面との間に挟まれ、搬送先の病院にて死亡した。	40301	2	10～ 29
2019	7	14 ～ 16	スクラップ用鉄製空パレット（約100kg前後のもの）を、被災者及び同僚2名にて顧客先に出向き、トラック荷台上に搬送作業中、被災者がフォークリフトを運転し、当該空パレットを顧客先の敷地境界付近に降ろした後、敷地外の市道方向に後進させたところ、市道脇に添った用水路（市道より約1.6m下にあり側溝深さは約30cm）にフォークリフトごと転落し、当該フォークリフトの下敷きになったもの。	11009	1	1～9
2019	7	8 ～ 10	被災者は同僚2人と倉庫内の整理作業を行っていた。同僚の1人が倉庫内から倉庫外のアスファルト路面にフォークリフトを移動し、停車させていたところ、被災者と当該フォークリフトが路面の路肩から約60センチメートル下の水田に転落し、被災者の顔が水田に埋没している状態で発見され、翌日死亡した。死因は、被災者がフォークリフトに頭部を強打し、外傷性くも膜下出血を発症して意識を失い、窒息死したものと推定される。	60101	6	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	フォークリフト（オーダーピッキングトラック）の傍で、被災者が頭部から出血して倒れている状態で発見されたもの。災害発生直後にフォークリフトの運転席が高さ約3mの位置にあったことから、運転席の位置でラックから荷を取ろうとした際に墜落したものと推定される。	50101	1	100～ 299
		10	鉄骨造の倉庫解体工事において、被災者は門型に組み立てられた鉄骨の梁部分にスリングベルトにて玉掛するために、フォークリフトのフォークに差し込まれたパレットに乗り、高さ約3.1メートルの個所で作業			

2019	9	～ 12	を行っていたところ、当該鉄骨の基礎部分が腐食していたため、当該鉄骨が突然倒れ、被災者は当該鉄骨と共に地上に墜落し、当該鉄骨と地面との間に挟まれ、死亡したものである。	30209	1	1～9
2019	10	8 ～ 10	被災者は操縦席とともにフォークが上下に昇降するピッキングフォークリフトを使用し、地面からの高さ2メートル以上に上昇した操縦席上で、隣接した棚から製品の補充作業を行っていた際に地面に墜落したものの。ピッキングフォークリフトの操縦席には可動式の手すりが設置されていたが、被災時には当該手すりは上にあげられており、また、ヘッドガードには安全帯が取り付けられていたが、被災者は使用していなかった。	11305	1	1000 ～ 9999
2019	10	14 ～ 16	農作業等の受託先の敷地内で、側溝の清掃作業を終え、作業現場から300メートル程度離れた詰所に戻るため、フォークリフトのフォークに被災者が乗車し、移動している際何かの拍子でフォークから落ちた被災者がフォークリフトの後輪に頭部を轢かれ死亡したものの。	60101	7	10～ 29
2019	11	10 ～ 12	被災者は倉庫内に保管されている敷料（厩舎内に敷く草）をフォークリフトを用いて2トントラックに積み込む際、資材掴み用アタッチメント（カスケード）を最大揚程に上げたまま勾配6°の斜面を後進している時にフォークリフトと共に転倒した。転倒後、ヘッドガードの下敷きになり身動きが取れない状態で燃料タンクからガソリンが漏れ被災者に引火したものの。	80209	2	10～ 29
2019	11	10 ～ 12	被災者は工場内において床の掃除をしていた。一方、別の者がフォークリフト（最大荷重3.5トン）でコンクリートホッパーを「鋼製型枠」へ向けて前進で移送していたところ、傍らで、別の型枠の準備作業をしていた者がフォークリフトの下部に被災者が巻き込まれているところを目撃し、フォークリフトを停車させたが、被災者はバックレストの後方の下部に頭部、体が車体の下にある状態で発見された。	10901	7	10～ 29
		12	廃棄する船舶用のアンカーチェーン（約1.6t）をフォークリフトで			100～

2018	1	13	保管場所まで運搬中、フォークリフトが横転し、被災者の頭部が地面とフォークリフトのフレームに挟まれ被災した。	11501	2	299
2018	1	18 ～ 19	被災者が、倉庫のラック3段目（高さ約2.3m程度）の荷物を取るため、ピッキングリフトを昇降させ、ピッキングリフト運転席からラック上の荷物を取ろうとしたところ、バランスを崩し墜落した。被災者は、保護帽を着用していたが、安全帯は着用していなかった。	80401	1	30～ 49
2018	2	8 ～ 9	酸洗いた鋼線コイルを次工程である伸線工程の作業場に運搬するため、線材製造二課の班長がフォークリフトを運転して酸洗いの作業場でコイルを積載し、伸線工程の作業場に運搬作業中、工場内の詰所（設備の運転管理室を兼ねる）付近を走行したときに被災者の悲鳴が聞こえ、班長がフォークリフトを降りて確認したところ、被災者が骨盤付近から出血して倒れていたもの。	11009	6	50～ 99
2018	2	18 ～ 19	工場敷地内のリサイクル家電品の積置用ヤードにおいて、荷降ろされた家電品を分別及び搬送するため用いていたフォークリフトを運転者が後退させた際、終業後同敷地に隣接する駐車場へ向かって歩いていた被災者が当該フォークリフト左後輪に接触し左半身を負傷したものの、その後左手首切断手術、内臓損傷修復手術等を行ったものの、後日死亡した。	150102	6	100～ 299
2018	2	8 ～ 9	被災者がフォークリフトのカウンターウエイトの上に設置されたワイヤロープの位置を直そうと、カウンターのウエイトの上に登っていたところ、ふらついて後ろ向きに倒れ地上まで落下し、一時心肺停止となった。その後、被災者は心肺停止蘇生後脳症と診断され、後日死亡した。所属事業場は、荷役作業に使用する道具の運搬業務のみを委託されたものである。	50101	1	10～ 29
2018	2	8 ～ 9	事業場敷地内において、生コンクリート製造工程で排出された砂利を廃棄するため、同砂利の入ったバケットを、フォークリフトのフォークに巻き付けたフック付きワイヤロープで吊り上げ、フォークリフトのフォークをほぼ最大限まで引き上げた状態で走行していたところ、フォークリフトが横転し、運転席から投げ出された被災者頭部にヘッド	10901	2	10～ 29

			ガード支柱が激突し死亡したもの。			
2018	2	8 ～ 9	被災者が、フォークにバケットを装着したフォークリフト（最大荷重1,250kg）を使用し、事業場に隣接する農道で除雪作業を行っていたところ、路肩より、約4メートル下にある用水路に、フォークリフトごと転落し、フォークリフトの下敷きとなり死亡したもの。	11305	1	10～ 29
2018	3	16 ～ 17	事業場敷地内の足場用資材置場において、空荷でフォークリフトを走行させていたところ、フォークリフトが横転し、運転していた被災者がフォークリフトの下敷きになった。	30209	2	1～9
2018	4	8 ～ 9	被災者は集荷先の構内において、コンテナ（幅1.7m、奥行き1.1m、高さ1m）入り馬鈴薯の積み込み準備作業のため徒歩で移動していたところ、荷主従業員が運転する前進してきたフォークリフトの荷（コンテナ2個をロングフォークで水平に保持）に接触、転倒し、轢かれて死亡したもの。	40301	7	10～ 29
2018	4	0 ～ 1	使用済みの原紙紙管を片付けるため所定の紙管置き場へ歩いて移動していた被災者が、原紙置き場を通りかかったところ、既に置かれていた別の原紙ロールの横に原紙ロールを置こうと前進したクランプリフト（アタッチメントに回転クランプを使用したフォークリフト）で運搬していた原紙ロールと置かれていた原紙ロールとの間に挟まれたもの。	10602	7	100～ 299
2018	4	4 ～ 5	フォークリフトでプラスチック原料を運搬後、空荷でフォークリフトのマストを高く上げた状態で走行移動中、減速せずに急ハンドルを行った為、フォークリフトが転倒し、負傷した（負傷原因詳細不明）。後日びまん性脳損傷により死亡した。	10805	2	30～ 49
2018	5	14 ～ 15	バッテリー式フォークリフトのマスト部の修理作業中、身体がティルトレバーに触れ、後傾したマストとヘッドガードの間に頭部をはさまれ、死亡した。	11701	7	10～ 29
		0	製造作業終了後、被災者はフォークリフトを用いて廃材を入れたスクラップ缶を屋外の所定の置き場に運んだ後、置き場より北側の幅6.2mの構内道路で、フォークリフトを旋回させている時、右後輪が側溝			100～

2018	6	～ 1	(幅20cm、深さ19cm)に脱輪し、フォークリフトが転倒。その際、ヘッドガードのフレーム部分の下敷きとなったもの。なお、被災者は別会社からの出向者。	11502	2	299
2018	6	～ 22 23	鉄骨部材(躯体梁となるH形鋼)を搬入したトラック荷台よりフォークリフトで降ろす作業中、鉄骨部材が荷台から落下し、この付近にいた被災者が当該鉄骨部材(約680kg)の下敷きとなり、死亡したもの。当時、鉄骨部材は全22本搬入されており、うち21本は降ろし終え、残された1本が落下したものであった。	30209	4	1～9
2018	7	12 ～ 13	被災者がフォークリフトを運転して、トラック荷台からロールボックスパレットを下ろそうとした際、隣に置かれていた別のロールボックスパレットが当該ロールボックスパレットに引っかかっていたためトラックの荷台から落ちそうになり、被災者がフォークリフトから降りてロールボックスパレットをトラック内へ押し戻そうとしたがかなわず、ロールボックスパレット上部の角が側頭部に当たった。	40301	5	10～ 29
2018	7	～ 12 13	廃棄物収集運搬を行う事業場の有価物置場敷地内において、有価物(ラジオ等小型家電)を詰め込んだフレキシブルコンテナバック(重量123kg)の紐をフォークリフトの爪で引っかけて、吊り下げた状態でバック走行により運搬作業中、敷地と公道の出入口部分に傾斜した箇所があり、当該傾斜箇所にフォークリフトがバックで進入したことによりバランスが崩れて公道側に横転し、被災者の頭部が道路とヘッドガードに挟まれた。	150102	2	10～ 29
2018	8	～ 16 17	倉庫1階天井の蛍光灯を交換するため、パレット上に被災者を乗せ高さ約5mの位置までフォークリフトで上昇させた。被災者は蛍光灯の交換後、周辺の蜘蛛の巣を取り除く為、フォークリフト運転者が濡れ雑巾を持って来るまでの間、上昇したパレット上で待機していたところ墜落した。	40301	1	1～9
			被災労働者が、荷主の敷地内で、フォークリフトを運転する荷主の労働			

2018	9	10 ～ 11	者と共に、フォークリフトを使用して貨物自動車の荷台に建築用鉄骨を積む作業を行っていた際に、荷台に載せようとした鉄骨と共に荷台から墜落し、落下した当該鉄骨の下敷きになり、頭蓋骨を骨折し死亡したものの。	80409	4	10～ 29
2018	9	16 ～ 17	運転中のフォークリフトが転倒し、頭がい骨骨折を受傷（頭部より出血、詳細不詳）した被災者を事業主の家族が発見したものの。	150102	2	1～9
2018	10	16 ～ 17	フォークリフトが左折した際、フォークリフト背後にいた被災者が、当該フォークリフト右側後部と積み上げられた鉄製パレットの間に挟まれ被災したものの。	80401	7	100～ 299
2018	10	14 ～ 15	被災者が倉庫内の荷を移動させるため、ピッキングリフト（運転者が荷台に乗り昇降して荷役作業できるフォークリフト）に乗り、高さ2.43m上のパレット又は運転席（どちらで作業していたかは不明）で荷役作業をしていたところ何らかの理由で墜落した。なお、ピッキングリフトの運転席には手すりが設けられ、ヘルメット及び安全帯が置かれていたが、被災者は安全帯及びヘルメットを着用していなかった。	11301	1	30～ 49
2018	11	10 ～ 11	当該事業場内倉庫において、高さ約3.8メートルのフォークリフトのパレット上に乗って、商品をピッキングしていたところ、誤って墜落し、頭部を強打して被災したものの。	50101	1	30～ 49
2018	11	6 ～ 7	荷主の営業所が営業を開始する直前に、同営業所前の路上で、トラック（積載荷重11.6t）の荷台に積まれたフォークリフトを降ろすため、被災者が同僚と荷台後方の荷降ろし用スロープをセットしていたところ、荷台に縦列に積まれていたフォークリフト3台のうち、最も後方にあつたフォークリフト（最大積載荷重3.5t）1台が逸走し、荷台後方のスロープ上で、フォークリフトに腰から下を挟まれて死亡したものである。	40301	7	1～9
			納品先にて、トラックの荷台から荷（ロール状フィルム（50kg×20ロール＝1t）を積んだパレット）を納品先労働者が運転するリーチ			

2018	11	14 ～ 15	フォークリフト（最大荷重1.35t）で下ろす際、荷台奥の荷にフォークが届かないため、ワイヤロープをパレットとフォークリフトのバックレストに掛け、フォークリフトを後退させ引いていたところ、荷台から荷が落ちそうになり、被災者が止めようとしたが支えきれず荷の下敷きになったもの。	10701	4	1～9
2018	11	14 ～ 15	構内（屋外）を徒歩で移動中に、後方から来たフォークリフトの左前輪に轢かれたもの。	11501	6	30～ 49
2018	12	14 ～ 15	フォークリフトを用いて農業機械の運搬作業に従事していた労働者が、横倒しになった当該フォークリフトのフォークに頭部を激突され、死亡したもの。	80109	6	1～9
2017	1	10 ～ 11	被災者が倉庫内で荷（フィルムロール）の積み卸し作業をフォークリフトで行っていたが、作業中にフォークリフトの積み荷が崩れ、下敷きになった。	50101	5	1～9
2017	1	0 ～ 1	被災者は、事業場内出入口付近の傾斜地に駐車したフォークリフトが動き出したため、停車しようと飛び乗ったが停車できなかった。その後、当該場所をとった労働者が事業場出入口の門が破損していることに不審におもい上司に連絡し付近を捜索したところ、敷地外の側溝に落ちた被災者と横転したフォークリフトを発見した。	11209	3	300～ 499
2017	1	10 ～ 11	舗装工事中用振動ローラー（重量580Kg）にチェーンを掛けフォークリフト（2.5t）でつり上げ、走行してコンテナ内に積み込もうとしていた。同僚が運転するフォークリフトを被災者が誘導していたところ、フォークリフトに激突され、フォークリフトのマストとコンテナ入口の内壁の間に頭部をはさまれた。	80109	6	1～9
2017	2	10 ～ 11	構内において、同事業場の電気設備定期点検に訪れていた被災者が作業通路を移動中、後方から走行してきたフォークリフトバックレスト部に接触し前方にうつぶせで倒れたところにフォークリフトでひかれた。	170209	7	10～ 29
			工事現場で使用した外部足場機材を搬入してきた貨物自動車から、			

2017	3	16 ～ 17	フォークリフトを運転し荷卸しし、所定の保管場所に運搬する途中の同僚作業員の後方を、被災者は荷を積載していないフォークリフトを運転し追走していたが、その途中、被災者はフォークリフトを右旋回させたところ、当該フォークリフトが進行方向左側に横転し、被災者は投げ出され、路面とフォークリフトのヘッドガードのフレーム部分に頸部を挟まれ死亡した。	40302	2	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	被災者が、フォークリフトで、フォークにペットボルトの圧縮品を上げたまま運搬中、後方旋回させたため、バランスを崩し右横転した。被災者は、フォークリフトから投げ出され、フォークリフトの下敷きになり病院に搬送されたが、死亡した。	80109	2	30～ 49
2017	3	8 ～ 9	被災者は、古紙等の運搬業務に従事するトラック運転手であり、災害発生場所に古紙を運搬し、トラックから荷下ろしをする際に、トラック荷台には作業するスペースがなかったことから、パレットをフォークリフトのツメに差し込み、当該パレット上を作業床として荷下ろし作業を行っていたところ、何らかの原因でパレット上から墜落し、コンクリート地面に頭部を強打した。	40301	1	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	被災者はビニールハウスの屋根を張り替える作業を行う際に、フォークリフトのフォーク部分にパレットを9段積み、パレット上で作業を行っていたところ、墜落し死亡した。	70101	1	1～9
2017	4	16 ～ 17	コンテナ内において、被災者が1番奥に積込まれた荷の固定状況をカメラで撮影していたところ、荷を載せたフォークリフトの運転手がそれに気づかずコンテナ内に進入したため、激突された後、1番奥の荷とフォークリフトで運ばれた荷の間に挟まれたままとなったものと推定される。行方不明となった被災者を捜すため、本牧ふ頭に運ばれた当該コンテナを開梱したところ、被災者が挟まれ死亡しているのが発見された。	40309	6	10～ 29
			工場内解体作業中に水道管が破損したために、被災者は同僚男性としめしあわせて、水道管補修作業の足場としてフォークリフトのフォークを			

2017	4	10 ～ 11	使用する目的でフォークリフトをスロープ（こう配33%）を前進走行で上っていた。スロープ頂上付近でフォークリフトのエンジンが突然停止してフォークリフトが後退を始めたため、被災者はとっさに飛び降りたが、スロープの縁石に激突したフォークリフトが横転し、被災者が下敷きとなった。	30309	2	10～ 29
2017	4	14 ～ 15	敷地内の作業道の舗装作業を行うため、被災者は舗装に使用するセメントが入ったフレコンバックを、フォークリフトのフォークの片方で吊り下げながら走行していたところ、作業道のくぼみに差し掛かった時にフォークリフトが横転し、被災者は運転席から投げ出されフォークリフトの下敷きとなった。	70101	2	1～9
2017	4	2 ～ 3	トラックからフォークリフトを用いての荷下ろし作業において、フォークリフト運転者がフォークリフトを後方移動させた時、トラックの荷を確認していた被災者に激突した。	10103	6	100～ 299
2017	4	14 ～ 15	工場解体現場において、被災者は5階フロアでフォークリフトを運転し外部足場の部材を集積場所まで運搬していた。同フロアで作業を行っていた作業者が休憩に行こうとしたところ、フォークリフトの下敷きになっている被災者を発見した。病院に搬送されたが同日死亡が確認された。	30201	2	10～ 29
2017	5	8 ～ 9	製品検査場にて、検査が終了した製品の入った金網製ボックスパレットをハンドリフトで後方へ引きながら運搬していたところ、金網製ボックスパレットを2段積んで前進中のフォークリフトに激突され、反動でフォークから落下した2段積みボックスパレットの下敷きとなった。	11509	6	50～ 99
2017	5	10 ～ 11	空の40ftコンテナ（重量3.84t）をスプレッダー仕様のフォークリフトにて積載し、3m程度まで上げてバックしたところ、突然緊結保持していた左右のスプレッダーの突起部がコンテナから続けて外れ、コンテナが落下した際、付近を通行していた被災者が下敷きになった。	50202	4	1～9
		10	被災者は、フォークリフトで魚のアラを岸壁沿いにあるゴミ捨て場へ運			10～

2017	6	～	んでいたところ、フォークリフトごとコンクリートの岸壁から2.75	70209	1	29
		11	メートル下の海底に転落し、フォークリフトと海底に挟まれ死亡した。			
2017	6	～	トレーラーのシャーシに積載されたコンテナ（幅約2.3m、長さ約1	80401	1	30～
		8	2m、高さ約2.7m）内から梱包された輸入製材（幅約1.1m、長			
		9	さ約3.8m、高さ2.4m、重さ約4.8t）を、フォークリフトで			49
		9	荷卸しする作業中に、コンテナの後方に設置した作業台（幅約2.6			
			m、長さ約9.2m、高さ約1.3m）上からフォークリフトが転落			
			し、当該フォークリフトを運転していた被災者がその下敷きになり被災			
			した。			
2017	8	～	フォークリフトを操作して荷のピッキング作業をしていた被災者は、後	50101	1	50～
		6	進中のフォークリフトごとプラットホーム（高さ99cm）から墜落し			
		7	死亡した。			99
2017	8	～	高さ約11メートルの天井に取り付けられている水銀灯の電球の交換を	40301	1	1～9
		16	行うため、パレット37枚（1枚の高さ15センチメートル）の上に被			
		17	災者を乗せ、別の作業者がフォークリフトでパレットを上昇させたが、			
			電球を交換できなかったため、フォークを下ろしていたところ、右前方			
			にパレットが崩れ、被災者がパレットから飛び降りて墜落し、地面に頭			
			を打ちつけた。			
2017	9	～	災害発生当時、現場では船舶からコンテナの陸揚げ、運搬等荷役作業が	50202	7	10～
		8	行われていた。被災者（元請）は、フォークリフト運転者（下請）にコ			
		9	ンテナの荷の置き場所を指示していたところ、24トンフォークリフト			29
			に巻き込まれ、死亡した。			
2017	9	～	最大荷重4.5トンのフォークリフトを作業員Aが運転し、荷（重さ	40301	5	30～
		12	2.75トンの射出成型機）をコンテナより工場の外に仮置きするた			
		13	め、コンテナから引き出した。その際、荷の側面で作業員B、Cが誘導			49
			を行っていたが、急に荷がバランスを崩したため、作業員Aは退避を促			
			した。作業員Bは退避したものの、作業員Cは荷を手で抑えようとした			
			が、荷の下敷きとなった。			

2017	9	14 ～ 15	被災者は、事業場構内でコンテナの荷役作業に伴うトレーラー等の車両の誘導業務を行っていた。被災者は、待機中の移動式クレーンに構内侵入を伝えに行った。その後の被災者の行動経路は不明であるが、荷降ろしのために向きを変えようと旋回（前輪を軸に後輪を駆動させ転回）していたフォークリフト（24トン）の後部と接触し、倒れたところを当該リフトの後輪でひかれた。	50101	7	10～ 29
2017	9	14 ～ 15	産業廃棄物処理場で、被災者がトラックのあおりを直していたのを見たフォークリフト（以下「フォーク」という。）運転者は、手伝うためにフォークのエンジンをかけたまま停車させ、下車した。その際、フォークが自走し始め、運転者が止めようとしたが間に合わず、被災者はフォークの爪とあおりに挟まれた。	20201	6	1～9
2017	9	14 ～ 15	廃棄物を入れたロールボックスパレットをフォークリフトに載せて廃棄物用コンテナまで運んだ後、フォークをコンテナ上端まで上昇させて廃棄物をコンテナ内に投棄していたところ、バランスを崩してロールボックスパレットごと転落した。	11709	1	30～ 49
2017	9	4 ～ 5	当該事業場の使用する漁港内（屋外）において、被災者がフォークリフト（2.5t）を運転しトラックの脇を通り抜けた直後、上げてあったフォークリフトのマストの右側が地上約4mの位置に設置されたパイプラインに接触したため、フォークリフトがバランスを崩し左側へ転倒した。先に投げ出された被災者がフォークリフトのフレームに胸部をはさまれ死亡した。	70201	2	10～ 29
2017	10	12 ～ 13	ヤード内で鉄箱（縦1.2m横1.75m高さ1.0m）に入った空缶を回転フォーク付リフトで所定の置場に投下するため、スロープ（傾斜約6度）を横切り、置場へ近づいたところ路肩から転落（高さ0.98m）し、運転していた被災者がリフトと置場のコンクリート壁にはさまれた。	150102	1	50～ 99
		10	清掃センター内において、分別が終わったごみをごみ焼却場までバケット付フォークリフトで運搬中、左前タイヤ付近に血が広がっていたた			10～

2017	10	～ 11	め、フォークリフトを停車させ、タイヤ付近を確認すると、被災者の頭部を轢いていた。被災者は病院へ搬送中に死亡が確認された。	150102	7	29
2017	11	8 ～ 9	工場内で破砕機の防音工事中、労働者がフォークリフトを動かしたところ、操作を誤りフォークリフトが暴走し、壁に激突しそうになったため急にハンドルを左に切ったところ近くにいた被災者（同僚）に激突した。	30203	6	1～9
2017	12	8 ～ 9	現場内資材置き場の太陽光パネル（重量：約1トン）を運搬中、トラックからフォークリフト（積載荷重2トン）を使用して、荷降しをしていた。その際に荷崩れしそうになったため、被災者は手で押さえようとしたが、荷崩れした太陽光パネルの下敷きになった。	30301	4	1～9
2017	12	6 ～ 7	事業主とともに社屋屋外に取り付けられた外灯の電球交換中、被災者はフォークリフトのヘッドガードの上で事業主に新品の電球を渡した。その後、「ドン」という音に気付いた事業主がフォークリフト後方で倒れている被災者を発見した。	30199	1	1～9
2016	1	14 ～ 15	作業場内でトラックの荷台に毛布を積むため、フォークリフトを使用していた。フォークリフトのマストを階段代わりに使用して昇降していた際に足を踏み外して操作レバーに接触、マストと運転席との間に身体を挟まれた。	40301	7	1～9
2016	2	11 ～ 12	事業場倉庫の建設のため、同僚が長さ12mのH鋼の梁（約500kg）をフォークリフトで運搬中、被災者は、梁が揺れて落ちないように手添えしながら移動していたところ、フォークリフトが前後に揺れ、フォークに乗せていた梁が左右に天秤状になったため、被災者が大きく上方に揺れあがった梁を両腕を伸ばして抑えようとした際、当該梁の下敷き（頭部を挟まれ）となった。	10109	6	1～9
2016	3	14 ～ 15	フォークリフトを運転し、小型貨物自動車に積まれた牧草束（約900kg）の積み下ろし作業を行おうとしていたところ、高さ76cmのプラットフォームからフォークリフトが転落し、フォークリフトの下敷きと	170209	1	1～9

			なった。			
2016	3	17 ～ 18	リーチ型フォークリフトを使用しミネラルウォーターの入った段ボールを倉庫上段に運搬後、マストを上げたまま走行し、マスト上段が建物の梁（高さ約4m）に接触した為、フォークリフトが横転し、ヘッドガードと床面に挟まれ死亡した。	80401	3	10～ 29
2016	3	13 ～ 14	鶏舎で雛の出荷準備中、鶏舎2階にあった雛の入ったラック（約210kg）をトラックに乗せるため、フォークリフトで専用のパレット（金属製の手すり付き）を高さ約2.2mの2階床面まで持ち上げ、被災者がパレット上にラックを運搬して載せていたところ、パレットがバランスを崩して傾き、被災者がコンクリート地面に墜落、さらに、ラックが一度地面でバウンドしてから被災者の上に落下し、被災者が下敷きとなった。	70101	1	30～ 49
2016	4	13 ～ 14	倉庫内において、ピッカー車（バッテリー式フォークリフトで、運転席がフォークとともに上下するもの）から、約3m下の床に墜落した。	50101	1	10～ 29
2016	4	17 ～ 18	被災者が荷積みを行うため、トラック（バンボディ）の荷台の扉を開けていたところ、近くでフォークリフトを運転していた労働者が、フォークリフトをバックさせたところ、被災者がフォークリフトとトラックに挟まれた。	40301	7	10～ 29
2016	5	18 ～ 19	副組長（加害者）は、最大荷重32tのスプレッダーリフトを運転し空のコンテナを移動するため荷を無積載の状態で1号倉庫事務所前からデバン作業エリアに向かって走行中、1号倉庫からデバン作業エリアに向かって移動中の被災者と接触し、スプレッダーリフトの左前輪に轢かれた。副組長は、被災者と接触したことに気付かずそのまま作業をしていたところ他の作業員が敷地内で服臥位の状態の被災者を発見した。	50201	7	10～ 29
		8	倉庫内において、フレコンバック（1.0t）をフォークリフトの爪を利用してつり上げ、トラックに荷積みしていた。トラック運転手は、爪が外れたことを確認せずにトラックを前進させたが、フォークリフトの			10～

2016	5	～ 9	爪がトラックの荷台上の荷物にかかった状態であったため、荷積み中のフォークリフトが転倒し、フォークリフトの運転手がヘッドレストに挟まれた。	40301	2	29
2016	5	～ 16	被災者は、敷地内の作業道（幅員4.7m）をフォークリフトで後進走行中、路肩から逸脱し、高さ1.8m下の沢へフォークリフトと共に転落し、車体の下敷きとなり死亡した。	10103	1	50～ 99
2016	5	～ 15	自社のリサイクル工場において、被災者は雑草を刈るため、最大荷重2.5トンのフォークリフトに芝刈り機を載せ、工場入り口付近へ向かったが、運転操作を誤り、3.3m下の調整池の縁にフォークリフトと共に転落した。	150102	1	10～ 29
2016	5	～ 12	工場敷地内の砂利にフォークリフトのタイヤが入り込んで動かなくなったため、貨物自動車を使用しフォークリフト後部をロープで引っ張った際、フォークリフトが転倒し搭乗していた被災者がフォークリフトと地面に挟まれた。	10701	2	1～9
2016	6	～ 11	有機廃棄物堆肥化施設の工場内において、フォークリフトを使用し、フォークのパレット上（高さ2.26メートル）に登り、高さ約4メートルの工場出入口天井付近に、鳥よけのロープを取り付けた後、パレット上から、降りる際、足が操作レバーに接触したことにより、マストが傾き、マストと車体との間にはさまれた。	150103	7	1～9
2016	6	～ 14	被災者は、大型バスの窓枠を修繕するため、フォークリフトでパレットを高さ2m20cmまで上げ、その上に乗って作業を行っていた。作業終了後、他の労働者に命じてフォークリフトを後退させたところ、パレットから墜落した。	40301	1	1～9
2016	6	～ 11	地上から283cmの高さにあった、特殊寝台用のマットレスを取り出すため、オーダーピッキングトラックに搭乗して上昇した被災者が、バランスを崩し地面に落下した（フォークが停止していた高さは、地上から182cmであった）。	80409	1	1～9

2016	7	17 ～ 18	2階の冷凍倉庫内で、立ったまま運転するフォークリフト（リーチ式）を用いて荷物の整理を行っていた労働者が、フォークリフトの操作台とフォークリフトの後ろに設置されていた棚の間に背中から挟まれ、胸などを強く打って死亡した。	50101	7	100～ 299
2016	7	14 ～ 15	工場の製品倉庫内で、労働者Aが最大荷重13.5tのフォークリフトを使用し、梱包された角材（約1トン）を出荷場所へ運搬していた際、同社嘱託社員の清掃員Bをバック走行中に轢き死亡させた。	10401	6	300～ 499
2016	7	10 ～ 11	フォークリフトを移送するためトラックに積み込む作業中、フォークを3.8mの高さに上げ、後進で道板を登っていたフォークリフトがバランスを崩して横転し、道板から転落する際にフォークリフトを運転していた被災者が投げ出され、その下敷きとなった。	80209	2	1～9
2016	8	6 ～ 7	被災者は、事業場所有の資材置場にて、倉庫入口の軒下（高さ276cm）に保管した栈木を地上に降ろす作業中、フォークリフトのフォークの上に渡したコンパネの上（高さ168cm）から地面に墜落し、死亡した。	30209	1	1～9
2016	8	10 ～ 11	攪拌機にペレットを入れ、フレコンバックに詰める作業を行っていた。フレコンバックに適度な量が入ったところで、攪拌機の底の蓋を閉じて、残りのペレットを入れるために、フォークリフトで攪拌機を持ち上げたところ、攪拌機が落下した。その際、近くで作業を行っていた被災者が攪拌機の下敷きとなり、負傷した。事故後、救急車で搬送されたが、死亡が確認された。	10805	4	10～ 29
2016	9	8 ～ 9	資材置場に仮置きされていた束ねた金属スクラップ品をフォークリフトで吊り上げて別の資材置場へ運搬中、フォークリフトの前方で吊り上げられた金属スクラップ品が振れないよう押さえながら移動していたところ、被災者が転倒し、フォークリフトの前輪に轢かれた。	80109	17	1～9
2016	9	16 ～ 17	陶芸工場内において、フォークリフトのフォークの上に乗って、高さ4メートルの梁に固定されたブルーシートを外す作業をしていたところ、約2メートルの高さから床に墜落して頭を強打した。	11301	1	1～9

2016	10	21 ～ 22	被災者は、最大荷重1トンのラックフォークを運転し、パレットに段ボール箱（約200Kg）を積んで、1階から3階にある倉庫のラックに移動する作業を行っていた。3階F区画のラックに荷を納めるため、ラック間を後進したところ、高さ3.5cmの車止めを乗り越え、高さ1.65mの車止め用のバー（金属製）とラックフォークとの間に身体が挟まれた。	80401	7	30～ 49
2016	10	19 ～ 20	精米器の更新のため本社から10名が来ていた。当日の作業を終えて退出する際、客先の工場機械室入口のシャッターが閉まらなくなった。当該事業場の労働者がフォークリフト（最大荷重1.8トン）のフォークにパレット6枚（高さ86cm）を積み重ねて上に2人が乗ると、高さ約3.5mの箇所では被災者はバールを使用して修理をし、もう一人は状況を見ていた。このとき被災者がバランスを崩して地上に転落した。	30302	1	10～ 29
2016	11	14 ～ 15	高台にある資材置き場に停車していたフォークリフトを約1km先にある別の資材置き場に移動させるため、当該フォークリフトを空荷状態で運転し、勾配11度のアスファルト舗装された直線の私道を前進で下っていたところ、フォークリフトがバランスを崩して横転し、被災者が投げ出され車体の下敷きとなった。	30209	2	10～ 29
2016	11	10 ～ 11	貯木場にて、材木の計測等のために材木を仮置場所から計測場所にフォークリフトで移動させ、次の材木を移動させる為にそのままフォークリフトで仮置場所に向かって後退したところ、休憩室から材木の仮置場所へ向かっていたと思われる被災者に激突した。	60209	6	1～9
2016	12	17 ～ 18	木造建築現場で使用する部材を事業場に隣接した加工場に搬入するために、事業場前の道路にトラックを止め、荷台横にフォークリフトを寄せ、フォークリフトの運転をしていた労働者が、フォークリフトから降りて荷のカバーのゴムバンドをはずしていたところ、フォークリフト後部が動き、同労働者が、フォークリフトとトラックに挟まれた。	30202	7	1～9
		15	第2倉庫1階入庫検品場のレイアウトを変更したのに伴い、配線を新たに設けるため、倉庫天井の配線工事をしようと、フォークリフトの			100～

2016	12	～ 16	フォークにパレットを8段積み、パレット上で作業をしていたところ誤って墜落（約5m）し、頭部を強打し死亡した。	40301	1	299
2015	1	2 ～ 3	工場内で不要になった木型や廃棄物等が入ったフレコンバックをフォークリフトで所定の場所へ移動させるため、フォークリフトの運転者と被災者の2名でフレコンバックの吊りベルトにフォークリフトの爪を引っ掛ける作業を行っていたところ、フォークリフトが前進した際、フォークリフトの爪と被災者の立ち位置の後方部にあった鋳物枠との間に被災者が挟まれて被災した。	11002	7	100～ 299
2015	6	10 ～ 11	某センター内の倉庫前において、トラックで搬入されたバグフィルター（円筒形、高さ228cm、直径150cm）をフォークリフト（最大荷重3.0t）で積み下ろすときに、バグフィルターをパレットごと持ち上げ後退した時に、バグフィルターがパレットから落下し、近くで誘導していた被災者に激突したもの。	30302	4	50～ 99
2015	10	1 ～ 2	被災者は、フォークリフト（最大荷重1.4t）を運転操作中、何らかの原因でフォークリフトが横転し、車体と地面との間に頭部を挟まれ死亡した。当時、フォークリフトの作業装置は地上より約3mの高さにあり、荷は積載されていなかった。また、路面にはタイヤ跡が残されていた。なお、災害発生時は、休憩時間中にあり、物音を聞いた同僚が、被災者を発見したもの。	10805	2	100～ 299
2015	2	15 ～ 16	派遣労働者の被災者は、午後3時の休憩後、工場内の作業場所に現れず、事務所付近でドンと大きな音がし、工場敷地内で横倒しとなっていたフォークリフトのヘッドガードと地面の間に、首から後頭部にかけて挟まれていたところを発見されたもの。	10103	2	30～ 49
2015	10	10 ～ 11	産業廃棄物処理施設において、被災者はパレットに積んだ空フレコンを移動させるため、フォークリフトを用いて、当該センター構内隣の農道を後退しての走行中、当該フォークリフトが農道から外れて田に転落し、横転した。その際、被災者は当該フォークリフトの下敷きとなり死	150102	1	10～ 29

			亡した。			
2015	1	13 ～ 14	被災者は、牛にエサをあたえるため、エサをあたえるための装置を積載したフォークリフトを運転していた。牛舎出入り口を後進して出て、約10度の勾配の通路途中で右にハンドルを切ったところ、フォークリフトは左側に横転した。被災者は、緊張性気胸により、1月1日午後5時ごろ死亡した。	70101	2	1～9
2015	10	18 ～ 19	青果市場で積み荷を13トントラック（ウイング車）に積載し終え、荷台上部の隙間に緩衝剤を入れるため、フォークリフトのパレットを足場にして約2.4メートルの高さで作業を行っていた。作業を始めて2～3分後に被災者がパレット上から地面に墜落した。	40301	1	10～ 29
2015	12	16 ～ 17	運送会社が倉庫業務を請け負って管理する倉庫内において、同社の労働者がフォークリフトを運転して、荷を当該倉庫から隣接する倉庫に運搬して戻ってきたところ、倉庫敷地境界付近にて被災者が轢かれ死亡したもの。被災者は、他社から派遣され当該倉庫で荷（線材）の検品、研磨作業に従事していた。	50202	7	30～ 49
2015	2	8 ～ 9	サイドクランプを着けたフォークリフトで鉄製コンテナ（横1.9m×縦1.0m×高さ0.9m。内容物を含め重量約610kg）を運搬し、中身を出すためにコンテナを傾けたところ、サイドクランプからコンテナが外れた。コンテナが床に落ち、倒れる際に、近くで分別作業を行っていた被災者が下敷きとなった。同日の午後9時30分頃、被災者は搬送先の病院で死亡した。	150102	4	10～ 29
2015	6	11 ～ 12	被災者がフォークリフトを運転して、トレーラーから卸すにあたり、トレーラーに取り付けられた道板付近で脱輪し、フォークリフトが進行方向の左側に倒れ、共に転落した被災者の首付近がフォークリフトのヘッドガード付近の下敷きとなり被災したものである。	40301	1	10～ 29
		15	事業場の第3工場棟から第2工場棟へ機械設備を移設作業中、機械設備の一部であるミストコレクター（重さ20kg程度）を繊維ベルトで玉掛けし、同ベルトの一端をフォークリフト（最大荷重1500kg）の			10～

2015	9	～ 16	フォークに引っ掛け、つり上げた状態で第2工場に向けて運搬していたところ、ミストコレクターの介添えのためにフォークリフトに併走していた作業員がフォークリフトの右前輪で轢かれ死亡したものの。	40303	7	29
2015	9	～ 15	米の集荷で農家へ向かうため、フォークリフトで公道（歩道）を走行していたところ、脱輪してフォークリフトと共に法面のある用水路側へ転落し、胸部及び腹部が住宅の塀とフォークリフトの間に挟まれたもの。	170209	17	10～ 29
2015	5	～ 9	太陽光パネル据付工事。廃棄物入れの金属枠を、フォークリフトを用いて仮置き場へ運搬中に、道路から斜面にフォークリフトごと転落したものの。	30301	1	10～ 29
2015	1	～ 13	最大荷重2.1tのフォークリフトを、所定の場所に戻すために走行し旋回させた時に、フォークリフトが転倒し、運転していた被災者が運転席から投げ出され、フォークリフトと地面の間に挟まれたもの。なお、フォークの高さは地面から約1.5m程度の位置まで上昇させた状態で走行していたものと思われる。	10602	2	50～ 99
2015	10	～ 11	荷積先の労働者が、フォークリフトを使用し積み荷（古紙、高さ97cm、幅200cm、奥行70cmの立方体、重量約400kg）を2段重ねにしてトレーラー（ウイング車）に積み込む作業中、積み荷を荷台上に降ろす際に荷が倒れ、荷台上にいたトレーラーの運転手が、倒れてきた荷と荷台の壁との間に胸部を挟まれた。病院にて入院治療中であったが、被災より2日後の10月24日に死亡したものの。	40301	5	10～ 29
2015	5	～ 9	資材置場である倉庫において、修理を終えた建設現場で使用する機械を、運送業者のトラックから荷卸しするために、フォークリフトを運転していた被災者（無資格）が、下り坂のスロープ（傾斜は3～6度）で、フォークリフトのエンジンを停止後、下車してトラックに近づいたところ、スロープを逸走してきた無人のフォークリフトとトラックとの間にはさまれて死亡したものの。	30105	7	10～ 29
		10	上屋に保管する鋼板コイルを舁に積み込むため、積載荷重が20トンの			

2015	6	～ 11	フォークリフトを使用して鋼板コイルを上屋から岸壁に運搬していたところ、沿岸にて作業場所に移動中の被災者をフォークリフト左前輪で轢いたもの。	50202	7	100～ 299
2015	4	15 ～ 16	被災者は事業場内の荷捌き場にてフォークリフト（最大荷重：1000kg）を用いてトラックから荷物を降ろす作業に従事している際に、トラックの荷台奥に積み残されている荷物（重量：約800kg）をワイヤーロープを使用しフォークリフトにて荷台手前まで牽引していたところ、フォークリフトがバランスを崩し右側に大きく振れたため、フォークリフトから投げ出され建物の柱に激突したもの。	80109	3	1～9
2015	7	16 ～ 17	被災者がフォークリフト（最大荷重2.9t）を運転し、トラックの荷台から円盤状の鋼材スクラップ（重量3.15t）を荷下ろし作業中、フォークリフトが前方に傾いたため、フォークリフト後部（カウンターウェイト）に浮き上がり防止用に載せていたおもり（重量0.94t、固定なし）が運転席側へ倒れ、被災者の背中にのし掛かり、腹部をハンドルとおもりにはさまれたもの。	11009	6	10～ 29
2015	6	10 ～ 11	被災者（外国人技能実習生）は、屋外にて、最大荷重2トンのフォークリフトを用いて、ゴミの片づけ作業を行っていたところ、フォークリフトのタイヤが地面（土）の窪みに落ちて横転した。運転していた被災者は、横転したフォークリフトから投げ出され、フォークリフトと地面の間に挟まれて死亡した。	170209	2	10～ 29
2015	12	14 ～ 15	屋内の荷捌き場内で、年末大掃除の一環として作業場内の一角を天井からシートで囲う作業をしようと、本来は魚を入れるタンク（長さ2m、幅1m、高さ80cm、重量77kg）に被災者が乗り込み、別の労働者が運転するフォークリフトで高さ約4メートルまで上昇させてブルーシートを天井のレールに緊結する作業をしていたところ、バランスを崩してタンクごとフォークから墜落し、頭を強く打ち死亡したもの。	170209	1	10～ 29
			労働者はフォークリフト（最大荷重3トン）を運転して、倉庫内に製品を搬入した後、倉庫から出るときにシャッターを閉めようとフォークリ			

2015	10	7 ～ 8	フトに搭乗したまま体を乗り出して、出入口横にある開閉ボタンを押そうとした。その時にブレーキペダルの踏み込みが完全ではなかったため、労働者が体を乗り出したままフォークリフトが前進し、シャッター前の衝突防止用ポールとフォークリフト左後部にはさまれ死亡した。	11209	7	100～ 299
2015	9	8 ～ 9	クランプリフトで機械加工原紙を荷降ろしした後、バックで走行中、同じ建屋内にある廃棄物の圧縮処理を行うベレー室から出てきた被災者と激突したものである。激突された被災者はそのまま床面に倒れ、頭部を打撲したことが原因で死亡した。	10701	6	100～ 299
2015	5	13 ～ 14	リフトマンがフォークリフトに荷を積載し、鉄製の棚（幅：約5m、奥行き：約1m、高さ：約3m、重量：約400kg）の上部に置いてあるパレットをフォークで押したところ、当該棚が倒れ、倒れた位置でゴム成形作業を行っていた被災者の後頭部に激突し、被災したものの。	10806	6	300～ 499
2014	1	10 ～ 11	資材置き場にて、作業員がフォークリフトを運転し、アルミ缶をプレスした塊（幅1m×1.2m、高さ2m、重量1t）をコンテナ内に積み込む作業中、被災者が塊の側でフォークリフトを誘導していたところ、塊が被災者側に倒れ、被災者が塊とコンテナ内壁との間に挟まれて死亡した。	150102	5	10～ 29
2014	1	10 ～ 11	工場敷地内の構内道路（斜度6度）に設置されたマンホールから泡（※製造の過程で使用した洗浄液が発酵し、発生すること）がわき出ているのを巡回の際に見かけた被災者は、自ら泡消しを行うため、噴霧器を使用して薬液を散布していたところ、立方体の形状のタンクを載せて直進してきたフォークリフト（最大荷重2トン）に轢かれた。	10899	6	100～ 299
2014	1	13 ～ 14	被災者は、倉庫の底下に木製パレットを限界まで積み上げるため、フォークリフトで高さ2.24mにリフトしたパレットに乗り、庇の構造材に取り付けた角材に干している魚を作業の支障にならないよう移動していたところ、地面に墜落した。	10102	1	30～ 49
		16	工場内にて、古畳を解体するためフォークリフトを用い仮置きしている			

2014	2	17	古畳のはいから、荷卸しして移動中、積荷の古畳が不安定な状態であったために崩れ、付近でフォークリフトの誘導をしていた被災者に荷が激突しそうになり、荷を避けようとした被災者が転倒し頭部を強打した。	11709	2	10～29
2014	2	18	走行中のラムトラックという車両系荷役運搬機械の左前輪に、労働者が巻き込まれ死亡した。尚、ラムトラックとは、いわゆるフォークリフトの爪が一本になったような運搬機械で、1本のラムと呼ばれる爪を、「コイル」という鉄板がコイル状に巻かれた物の穴に刺し、持ち上げ、移動する機械である。	11009	7	100～299
2014	2	14	工場内にて、コンクリート擁壁を製造する生コンクリートが入ったコンクリートバケットをフォークリフトで搬送していたところ、直進中のフォークリフトの前方に立ち入った被災者に接触した。	10901	6	1～9
2014	3	13	重量約1.2トンの脱気装置を、最大積載荷重1.5トンのフォークリフトでバック走行させながら運搬していたところ、フォークリフトの左前輪部の路盤が陥没し、フォーク上に積まれた脱気装置が落下。フォークリフトの左前輪部周辺にいた被災者に倒れかかり、地上を通っていた水管との間で挟まれた。	10106	4	300～499
2014	3	13	バンニング場内にて、コンテナに荷札を取り付けようと、構内を歩行していた被災者は、後進してきたフォークリフトに激突され、死亡した。	40301	6	30～49
2014	3	8	フォークリフト運転者が、サイドブレーキを引かずに運転席を離れた際、作業面が傾斜していたため、フォークリフトが斜面を下り、大型トラック方向に動き出し、フォークリフトを止めようとしたフォークリフト運転者である被災者が、フォークリフトと大型トラックの間に挟まれ、死亡した。	70101	6	10～29
2014	4	17	クランプ式アタッチメントを備えたフォークリフトにて、圧縮された古紙を運搬中、フォークリフトが転倒し、被災者が投げ出された。	10601	2	30～49
			製氷工場内にて、製品をリーチフォークリフトでコンベアに置き、			

2014	4	11 ～ 12	フォークリフトを後退させた際、被災者が運転席から身を乗り出していたため、ヘッドガードの主柱とせり出した壁の間に頭部から胸部にかけて挟まれた。	10109	3	30～ 49
2014	4	3 ～ 4	リーチフォークリフトに乗り、トラックに荷の積み込み後、ハンドルを切りながら後進したところ、停めてあった別のトレーラーの架台にフォークリフトごと背中から滑り込み、フォークリフトの運転操作盤と架台に上半身を挟まれた。	40301	7	50～ 99
2014	5	10 ～ 11	フォークリフトのフォークに積み上げられた4個の漬け物容器の最上段の容器内を足場とし、天井に設置されている火災報知器の取付け、取り外し作業中、バランスを崩し、最上段の容器とともに墜落した。	30209	1	10～ 29
2014	5	19 ～ 20	荷主側構内にて、クールボックスの積み込み作業中、フォークリフトオペレーターがクールボックスをフォークリフトでトラック荷台へ積み込んだ際、クールボックスが荷台上にいた被災者側に倒れ、被災者の頭部に当たった	40301	6	50～ 99
2014	6	13 ～ 14	製材工場にて、フォークリフト前輪付近を点検していた際、製品を積込に来ていた同僚がトラックに製品を乗せるため、点検中のフォークリフトのエンジンをかけ前進させたところ、被災者は前輪に轢かれ、死亡した。	80409	6	10～ 29
2014	6	15 ～ 16	被災者がフォークリフト運転者に対し搬器を下すように合図をし、搬器を下した際、被災者が意識を失った状態で倒れ、脳挫傷により死亡した。	50101	1	1～9
2014	8	9 ～ 10	喫煙場所まで歩いていたところ、背後から前進中のフォークリフトに激突され、轢かれた。	11002	6	100～ 299
2014	8	16 ～ 17	店舗倉庫入口の庇の下で、フォークリフトのフォークにパレットを差し込み、その上に乗り、フォークを上昇させたところ、バックレストと庇屋根の波板の間に胸部を挟まれた。	80209	7	1～9

2014	9	15 ～ 16	ダストボックスをフォークリフトに積載し、ボックスを地面から30cm程上昇させた状態で前進走行中、前方を歩行中の被災者がボックスの下に巻き込まれた。	150102	6	10～ 29
2014	9	10 ～ 11	フォークリフト運転手が、トラックからアルミパレットの荷下ろし作業を行い、フォークリフトを後進させた際、フォークリフト後部に接近してきた被災者と接触。被災者は後方に転倒し、頭部を地面に強打し、死亡した。	40301	6	100～ 299
2014	9	9 ～ 10	フォークリフトを運転し、高所作業車の荷台後部からフォークを差入れ、被災者が荷台上で高所作業車を運転し、フォークに乗せた際、高所作業車に被災者を搭乗させたままフォークリフトを移動させたところ、高所作業車が転倒。地上高さ約1.8mの作業床上から投げ出された。	40301	1	10～ 29
2014	9	6 ～ 7	配送先のフォークリフトを使用し、積み降ろしを行い、飲料物の空容器をトラックの空いたスペースに積み込みした際、マストとヘッドガード上部フレームに挟まれた。	40301	7	30～ 49
2014	10	12 ～ 13	フォークリフトを運転し、木材の端材が入った鉄箱の運搬作業中、フォークが下降しなくなったため、鉄箱の直下に入り、マストの下部を点検していたところ、下降してきたフォークと地面の間に頭部がはさまれた。	10409	7	10～ 29
2014	10	13 ～ 14	フォークリフト作業中、フォークの油圧パイプがマストにからまる不具合でフォークが降下しなくなったため、被災者がフォーク下に入り、フォークの油圧パイプ部の修理を行ったところ、油圧パイプ部が破損し、フォークが急降下し、被災者がフォークの下敷きになった。	11209	7	10～ 29
2014	11	21 ～ 22	トラックターミナル内のホーム上にて、同僚が、荷の積み込みをフォークリフトで行っていた際、荷台内でバックレストから爪が外れたため、被災者が爪を取り付けるのを手伝っていたところ、ホームと荷台の隙間にフォークリフトの前輪が落ち込んだため、同僚がアクセルを踏み込み、被災者がバックレストと荷台の内壁に頭部を挟まれた。	40301	6	100～ 299
			フレコンバッグに米を充填中、フォークリフトのフォークにフレコン			

2014	11	14 ～ 15	バグの吊りベルトを掛けようとした際、充填中の米がこぼれ出し、被災者がこれに対処するため、フォークの前に出ようとしたところ、フォークリフト運転者が踏み込んでいたクラッチを上げ、前方に動いたフォークリフトのフォークが被災者の腹部に激突した。	10109	6	1～9
2014	12	22 ～ 23	構内のプラットホーム上にて、フォークリフトを使用し、パレットの整理中、フォークリフトとともにプラットホーム下まで墜落。横倒しになったフォークリフトの下敷きとなった。	40301	1	100～ 299
2013	7	10 ～ 11	敷地内でアルバイト作業員が、同社社員が運転するフォークリフトにひかれ、約1時間後、搬送先の病院で死亡した。尚、フォークリフトで木製パレット17段(約2.4m)を運んでいて、前進した時に発生した。	80109	7	10～ 29
2013	5	11 ～ 12	勤務場所である冷凍倉庫内で、立ち乗りタイプのフォークリフトを使用して作業を行っていた被災者は、フォークリフトをバックさせた状態で、冷凍製品を置くための金属製の棚とフォークリフトの運転台の間に挟まれていたところを、出入りの業者に発見された。	10109	7	1～9
2013	7	10 ～ 11	被災者は、フォークリフトを運転し、切断機用の電源を運び出すため、鉄構工場に向っていた。鉄構工場の床は約0.58m高いため、フォークリフトが上がるためのスロープ(勾配約8度)があった。被災者は、スロープを上ったが、旋回半径内に製品が置いてあったため、それを避けようとした運転操作をした際、スロープ近くの段差から転落した。	11209	1	100～ 299
2013	4	18 ～ 19	被災者は、集じん機の調子が悪かったので、単独で集じん機の点検作業を行っていた。点検時に集じん機内の粉が落ちるため、箱型容器をフォークリフトに乗せた状態で、集じん機の下に置き、点検終了後、一旦フォークリフトをバックさせ停車し、発じん防止のため、集じん機の架台にブルーシートを掛ける作業を行っていたところ、傾斜のため逸走してきたフォークリフトと集じん機の架台に胸部を挟まれた。	10901	7	10～ 29
2013	6	18 ～	被災者は、積込みを終えてシート掛けをしようと、フォークリフトのつめに足をかけ作業していたところ、誤って足を踏み外し、路上に落下し	40301	1	30～

		19	頭部を強打した。			49
2013	11	13 ～ 14	フォークリフトを使用して、仮置きされていた廃棄物のプレス機械を移動させる作業が行われていた作業場で、フォークリフト運転士が仮置き箇所から引き出す際、フォークの差し込みが浅かったことから、プレス機械をいったん地面に降ろし、フォークを差し込み直そうとしていたところ、プレス機械を突き倒してしまい、近くを通りかかった被災者がその下敷きとなった。	80109	5	10～ 29
2013	7	11 ～ 12	積み荷を待っている際、フォークリフトの後部がパレット積みしていた荷（紙束）に当たり、荷が落ち、被災者が荷の下敷きになった。	80109	4	10～ 29
2013	8	11 ～ 12	アタッチメントを回転クランプに交換したフォークリフトにて、原紙（ダンボールロール状にしたもの）を所定の場所に運搬・仮置きし、次の原紙運搬のために移動する際、右後方旋回したところ、左側後輪が原紙供給器の安全柵として取り付けられたストッパー（高さ27cm）に乗り上げ、フォークリフトが転倒。運転していた被災者は、転倒したフォークリフトの下敷きになり、死亡した。	10602	2	50～ 99
2013	5	14 ～ 15	冷蔵庫の棚に保管されているお茶の入った段ボールを取るため、フォークリフトのフォークに差したパレット上に労働者が乗り、高さ4mの棚から段ボール3個をパレット上に乗せた。フォークリフトの運転手は、パレット上の労働者がリフト側を向いて座ったことを確認し、フォークを下げることの了解を得て、フォークを下げ始めた。10～20cmほど下げたところ、パレット上の労働者が背中側から地上に墜落した。	10109	1	10～ 29
2013	5	15 ～ 16	トラックからの荷卸し作業を行うため、フォークリフトを移動させ敷地内の通路を走行中、通路の端に寄りすぎたためフォークリフトの車輪が15センチ下の田に落ち、フォークリフトが転倒し、被災者が地面とフォークリフトの間に挟まれた。	11209	2	10～ 29
			被災者は、原料置場付近を通行していた際、既に荷卸しされていた原料			

2013	1	11 ～ 12	の古紙ブロックと、その横に荷卸しようとしたベールクランプ付リフトの荷側面と接触し、左側の古紙ブロックとの間に挟まれて死亡した。尚、運搬中の荷で死角となっており、リフト運転者は被災者との接触に気付かなかつたため、発見が遅れた。また、古紙ブロックは重量約700kgで、これを4個運搬していた。	10601	6	30～ 49
2013	2	10 ～ 11	工場内の通路を歩行中、側方から走行してきたフォークリフトと接触し、被災者が倒れたところをそのままフォークリフトで轢かれた。尚、フォークリフトのアタッチメントとして使用していたバケットは、地上から1.6mの高さがあり、前方が見えにくくなっていた。	10909	6	50～ 99
2013	2	12 ～ 13	フォークリフトの修理のため、4tの油圧ジャッキを使用して車体の後方を持ち上げ、車体の下に頭部を入れて行っていたところ、油圧ジャッキが外れ、降下した車体と地面に頭部をはさまれた。左後輪の下に安全ブロックとしてまくら木を置いていたが、地面から車体までの高さは最大箇所で16cmであった。	11701	7	1～9
2013	8	16 ～ 17	最大荷重2トンのフォークリフトで塩ビパイプ管の束10本（重さ12.5kg）を運搬するため、傾斜角8度のコンクリート道路上を前進走行中、フォークに乗せた塩ビパイプ管が道路脇に置いた資材に当たり、バランスを崩したため右にハンドルを切った際フォークリフトが横転し、横転したフォークリフトの下敷きになった。	10901	2	1～9
2013	10	4 ～ 5	アルミ溶解作業に必要な炉の装入台を探すため、被災者はフォークリフト（最大荷重2.8t）に乗り工場敷地内を後ろ向きに走行していたところ、アルミインゴット置場に置かれていたアルミインゴット（重量約1t）に激突しフォークリフトが横転、被災者が同機体の下敷きとなった。	11101	3	100～ 299
2013	7	8 ～ 9	傾斜部（8度）を走行中のフォークリフトが転倒し、運転者が運転席から投げ出され、ヘッドガード部に胸部を挟まれた。	80109	2	1～9
			物流倉庫構内において住宅外壁材を各現場用に仕分け、3トントラック			

2013	12	12 ～ 13	で配達する業務を行う事業場の労働者2名が、2枚ずつ結束された外壁材63束を2列に積み上げた木製パレットをトラック荷台に積み込む作業中、同僚がフォークリフトを運転し被災者は積載位置の誘導を行っていたが、荷台にいったん乗せたパレットにフォークを浅く差し直してさらに奥へと移動させようとした際、外壁材が崩れて下敷きになった。	40301	5	30～ 49
2013	1	8 ～ 9	馬ふんを発酵させ堆肥とする事業場において、バケットをアタッチメントとして付けたフォークリフトのバケットと壁に首をはさまれた状態の被災者が発見された。被災者は、発酵のため堆肥の山をフォークリフトで入れ替える作業を1人で行っており、目撃者はなく、被災直前の行動については不明である。	11709	7	1～9
2013	9	8 ～ 9	トラック荷台上で一人作業にて原材料（シート状の段ボール、箱状）をフォークリフト上（荷台と同じ高さのパレット上）に降ろしていた被災者は、トラックを降り、エンジン稼働状態にあったフォークリフトの運転席に乗り込むため、マストと車体間をくぐりフォークリフト前方より乗り移ろうとした。その際ティルトレバーに当たり、マストが後傾、マストと車体の間に頭の部分を挟まれた。	40301	7	30～ 49
2013	8	2 ～ 3	産廃を焼却炉などで燃焼しやすい塊に加工する事業場での労働災害。被災者は、アームロール式のコンテナ（フックアームを使ってトラック後部に引っ張り上げる方式のコンテナ、片側底面にのみコロが付いている）に製品を積み込むため、フォークリフトを使用し後ろ手にコンテナをけん引していたところ、バランスを崩しフォークリフトが横転、下敷きとなった。	150102	2	30～ 49
2013	12	8 ～ 9	被災者は、空荷のフォークリフトを運転して道路幅2.8mの直線の未舗装の公道を走行中、路肩から約50cm下の畑に転落した。	60101	1	1～9
2013	9	8 ～	乾燥し終えたラミナ材（以下「乾燥材」という。）の間に挟んでいる栈木を取り除く作業を行うため、フォークリフトを用いて所定の位置に乾燥材をおろし、次の乾燥材を取りに行くため後進したところ、後方にい	10409	7	50～ 99

		9	た被災者を轢いた。			
2013	4	8 ~ 9	ホッパーでフレコンに飼料を詰め込む作業を、労働者5名（うち職長2名）で実施していた。作業完了後、ホッパー内に余った飼料を除去するため、被災者が職長の運転するバケット付きフォークを誘導し、ホッパー下に配置。被災者がホッパーを開口。バケット内に山積みになる飼料でホッパーの口部が閉塞しないよう、職長が独自の判断でフォークリフトを運転しバケット位置をずらしたところ、被災者がバケットとホッパー架台の間に挟まれた。	50201	7	50~ 99
2013	11	18 ~ 19	被災者は、ウイングトレーラを運転し、荷主先にバンドで結束された板（一束は重さ1.5t程度）14束を運送した。荷主先の労働者が、トレーラ奥側の2段に重ねられた板の束をフォークリフトで手前に引きずっていた際、板の束の片側の台木が外れていたため、被災者が台木を入れ直そうとしたところ、被災者の上に上段の板の束（127枚）が落下し、下敷きになった。	40301	4	50~ 99
2012	3	22 ~ 23	被災者がフォークリフト（最大荷重2.2t）を運転し、圧縮した再生固形燃料（縦1.05m、横1.05m、長さ1.05m、重量590kg）を専用のアタッチメントで挟み、高さ約3.4mに持ち上げ後進したところ、フォークリフトが転倒し、運転席天蓋のフレームで胸部をはさまれ胸部圧迫により死亡した。	11709	2	30~ 49
2012	6	18 ~ 19	埠頭の岸壁に停泊していた貨物船上での玉外し作業を終了した被災者は、貨物船を降りて、倉庫の横に駐車してあるフォークリフトの方へ埠頭を歩いて移動している途中、後ろから走行してきた同僚が運転するフォークリフト（最大荷重22.5t）にひかれた。	50202	7	50~ 99
2012	9	10 ~ 11	敷地内でセメントの原料をプラントに入れる作業をしていた被災者は、別の労働者が運転するフォークリフトに轢かれた。なお、フォークリフトは生コンを入れるホッパーを運搬中であったが、その前方を被災者が横切った。	150102	6	1~9

2012	9	7 ～ 8	パーテクルボード（1枚約18kg、50枚梱包）をフォークリフトにてトラックから降ろす作業をしていたところ、ボードを留めていたPPバンドが外れ、崩れたボードが対面にいた被災者を直撃した。	80109	5	30～ 49
2012	12	11 ～ 12	鉄骨造の倉庫を解体する作業現場で、フォークリフトの爪にパレットを差し込み、パレットの上に乗って、地上高さ2.8mで作業を行っていた被災者がバランスを崩し、フォークリフトのマストとパレットの間から地面に転落した。	80109	1	1～9
2012	8	9 ～ 10	同僚労働者がフォークリフトで木材を運搬中、油圧オイルが漏れていたため、被災者とともに点検を行っていた。被災者は、フォークが下降しないように廃材（4.5cm×5.5cm×94.5cm）でフォークを支え、フォークリフト前方にもぐりこんで点検していたが、廃材が折れて降下したフォークに前頭部を挟まれ、脳挫傷により死亡した。	10409	7	1～9
2012	2	10 ～ 11	2 tトラックに積まれていた木材1本（土地丸太、長さ12m、胸高直径35cm）をフォークリフトで降ろす作業中、フォークリフトで木材を地上から約2mの位置に持ち上げた状態で、フォークリフトの運転者が運転位置から離れていたところ、その木材（丸太）が転がり落ち、近くにいた被災者を直撃した。	30202	4	1～9
2012	7	8 ～ 9	被災者はフォークリフトに取り付けられた作業台で船体の外板塗装作業を行っていたところ、フォークリフトがバランスを崩して横転、その衝撃で被災者も作業台から投げ出され、地面に体を強打して死亡した。	11501	2	1～9
2012	9	15 ～ 16	被災者は倉庫に出張し、倉庫内で荷出し後に清掃・片付け業務を行っていたところ、出張先の労働者がりん木1本の上に置かれたコンクリート製の衝立（高さ2m、幅2m、重量1.9 t）をフォークリフトを運転して移動させようとしたところ、その衝立が近くで作業中の被災者の上に倒れ、下敷きになって死亡した。	80401	5	1～9
2012	7	3 ～	トラックから荷を降ろすため、プラットホームよりフォークリフトをトラック荷台に進入させたところ、フォークリフト前輪が荷台に乗った際にトラックが前方に動き出したためフォークリフトがバランスをくずし	40301	1	50～

		4	て落下し、その際に飛び降りた運転手が落下してきたフォークリフトの下敷きとなった。			99
2012	1	12 ～ 13	フォークリフト運転の技能を有しない労働者が、災害発生事業場でフォークリフト（TCM FD-30T3）を運転し、廃材仮置場からリサイクル用廃材置場に木屑等を構内運搬していた際、回転式アタッチメントを使って縦1m、横4mの鉄製の籠を縦向きにしていたが、当該籠が爪から外れて落下し、周辺で分別作業をしていた被災者が下敷きになり死亡した。	150102	4	1～9
2012	7	13 ～ 14	被災者は結束機で束ねられたパルプ製品（約1 t）を結束機の横に仮置きしようと、フォークリフト（2.5 t）のクランプではさんだ製品を地上から約2.3mの高さに上げたまま、後方に積まれた別の製品をかわすため、バックしながらS字のように右から左にハンドルを切ったところ、急旋回動作となって車体が転倒し、ヘッドガードと床面の間に腰部をはさまれた。	10601	2	10～ 29
2012	10	6 ～ 7	のり採苗場において、被災者は同僚が運転するフォークリフトのフォークに乗り、場内に張っている高さ3～4mの日よけ網を直そうとしていた際、1.7mのフォーク上から体勢を崩し、頭からコンクリート床に墜落した。	70209	1	10～ 29
2012	5	12 ～ 13	工場内の水銀灯交換のため、フォークリフトにパレットを13枚を重ね、その上に被災者が乗ってマストを上げ電球の交換作業をしていたところ、被災者がパレットから、約7m転落した。	11209	1	30～ 49
2012	3	8 ～ 9	鋳造工場2階より鋳造屑を搬出するため、フォークリフトでスロープをバック走行していたところ、ガードレールに激突してフォークリフトと共に転倒し、ヘッドガードの下敷きになった。	11102	2	10～ 29
2012	5	15 ～	被災者は単独でフォークリフトを使用し、4 tトラックに積んだフレコンの位置の調整をしていた。フォークにフレコンのベルトを通し持ち上げるため、トラック荷台に上がり通そうとしたがフォークの位置が高す	40301	7	30～

		16	<p>ぎた。そのためトラックの荷台から手を伸ばしフォークリフトのレバーを操作したところフォークが下がりすぎ、フォークとトラックのあおりの間に腹部を挟まれた。</p>			49
2012	6	9 ～ 10	<p>事業場構内のLPガス充填場において、フォークリフトを使用して配管の塗装作業を行っていた被災者は、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に挟まれ意識がない状態で発見され、救急搬送された病院で死亡した。</p>	80109	7	10～ 29
2012	2	11 ～ 12	<p>被災者は荷主先にて、フォークリフトのヘッドガードの上に乗し、上方からフォークリフトの崩れた荷を直そうとしたところ、マストとヘッドガードの支柱の間に墜落した。その際、両下肢がフォークリフトのテイル操作レバーに当たり、結果的に動くマストとヘッドガードの支柱に押しつぶされる状態となった。被災者は救急搬送されたが、意識不明の状態となり、死亡した。</p>	40301	7	10～ 29
2012	6	15 ～ 16	<p>被災者がピッキングフォークリフトを用いて入荷した製品（反物、約14kg）の棚入れ作業に従事していたところ、高さ約2mの位置から製品とともに墜落した。なお、当該フォークリフトは運転者席が昇降するタイプのものであるが、運転者席に手すり等は設けられていなかった。</p>	80401	1	10～ 29
2012	7	18 ～ 19	<p>圧縮した廃棄物（一辺が約1mの立方体、重量約1t、「ブロック」と称する）の積み込み作業中、クランプリフト（最大荷重2t）で挟んだブロックを高さ約3mまで揚げた状態でクランプリフトを右旋回したところ、クランプリフトが横転し、クランプリフトのヘッドガードと地面の間に体はさまれた（クランプリフト：フォークリフトのフォークをクランプに換装した車両で、積荷を挟んで荷役を行う）。</p>	150103	2	100～ 299
2012	10	7 ～ 8	<p>出勤した従業員が、事業場の建屋入り口付近のアスファルト上で仰向けに倒れている被災者を発見した。被災者が強い腰の痛みを訴えたため救急を要請したが、骨盤骨折に起因する動脈破裂により、搬送先の病院で死亡した。なお、被災者はフォークリフトの運転を誤り、後方の柱との間に体はさまれた。</p>	11709	7	1～9

2012	11	12 ～ 13	トラック荷台から重量約1tのフレキシブルコンテナ（フレコン）をフォークリフトで吊り、4段積みされているパレット上に載せたところ、フレコンが建物にもたれかかるように傾いた。これを直そうとフレコンの吊り具にロープを通しフォークリフトの左フォークに掛け、上げたところフォークリフトが左側に転倒し、作業を補助していた被災者（トラックの運転者）が下敷きになった。	40301	2	10～ 29
2012	12	16 ～ 17	被災者は工場の壁面の隙間を埋める作業を単独で行っていた際、壁面の前に置いてあった野菜を茹でる機械をフォークリフトで持ち上げ、その下で作業を行っていたところ当該機械が突然落下し、被災者に激突した。	10103	4	50～ 99
2012	1	16 ～ 17	被災者はフォークリフトを使用して事業場の除雪を行っていた（除雪した雪は、駐車場と道路の間にある用水路に捨てていた）ところ、右前輪が傾き運転席から放り出され、その上にフォークリフトが倒れてきて、頭部がフォークリフトの下敷きとなり死亡した。	30301	2	30～ 49
2012	8	15 ～ 16	被災者は食品倉庫内作業場にて仕分け作業を行っていた際、当該作業場に配送業者が仮置きしていたフォークリフトを運転中、フォークリフトのフロントピラーとラックの支柱に頭部をはさまれ被災した。	50101	7	100～ 299
2012	9	10 ～ 11	倉庫内にて入荷の商品を仮置きする作業中、既に置かれている製品の上にフォークリフトを使用し製品1パレットを荷積みしようとした際、既に置かれている製品の一部の荷ずれに気付き、フォークリフト運転席より身を乗り出して修正しようとしたところ、誤って操作レバーに触れ、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に挟まれた。	40301	7	50～ 99
2012	11	9 ～ 10	庄延工場の敷地内において、夜勤を終えた被災者が同敷地内を通勤用の原動機付き自転車で走行中、ビレットを運搬するため、他の労働者が運転していたフォークリフトの右爪部分が被災者の腹部に激突し、出血多量で死亡した。	11001	6	100～ 299
2012	2	13 ～	駐車場に停めた自家用車内で昼休みを過ごした被災者が事務所に戻る途	80202	7	10～

		14	中、荷の積み込み作業中のフォークリフトに轢かれ、死亡した。			29
2012	12	16 ～ 17	被災者は、勤務を終え帰宅しようとして事業場構内の通行道を横断中、後方から走行してきた事業場所属労働者の運転するフォークリフトに轢かれた。	11204	7	10～ 29
2012	4	9 ～ 10	被災者は自動車解体業の事業場敷地内で、トラックに古タイヤを積み込む作業を行っていた。解体した軽トラックの荷台をパレットの代わりとしてタイヤを積み、フォークリフトにより持ち上げ、トラックの荷台に寄せた。被災者は、軽トラックの荷台の上でタイヤをトラックへ移し替えていたところ、軽トラックの荷台が転倒し、荷台とともに地面に墜落し頭部を強打した。	150102	1	1～9
2012	8	15 ～ 16	工場からフォークリフトを移動するために、被災者がフォークリフトを運転し、町道の交差点を右折しようとしたところ、町道から約50cm下の水田に転落した。被災者は横転したフォークリフトの下敷きとなり、外傷性心肺停止により死亡した。	60101	17	1～9
2012	11	18 ～ 19	被災者はフォークリフトを運転中、運行経路上に置かれていたローディングランプ（コンテナ車に直接フォークリフトで荷受けするためのスロープ付き架台）のスロープに左前輪部を乗り上げてしまい右方向に横転、運転席から投げ出され、ヘッドガードと地面との間に胸部を挟まれ死亡した。なお、被災者は保護帽を着用していた。	11409	2	300～
2012	5	13 ～ 14	被災者は工場内にて、研磨機の投入バケットへ製品の移し替え作業を行っていたところ、前進してきたフォークリフトに両足を轢かれ骨折し、入院中、肺血栓塞栓症を発症し死亡した。なお、フォークリフトの運転者は、前方の視界を確保していたが、運搬していた荷に気を取られ、前方にいた被災者に気付かなかった。	11502	7	100～ 299
2012	10	8 ～ 9	買い付けた魚を工場へ運搬するために魚市場に来ていた被災者が、水揚げに使用する氷の入ったプラスチック製のボックス（2段積み）を運んでいた他社のフォークリフトと接触した。	80209	17	10～ 29

2011	1	12 ～ 13	フォークリフトにて、一般道路を走行中、中央線を越え、さらに対向車線の縁石に乗り上げ転倒したものの。	10109	17	10～ 29
2011	4	9 ～ 10	事業主事務所兼自宅の植木が枯れてきたため、栄養剤を散布しようとして被災者がフォークリフトを運転し、フォークのパレット上に噴霧器を乗せてパレットを地上から77センチメートル上げたところで、フォークリフトを停止させた。その後、パレットの上に自らが乗り、噴霧作業を行っていたところ、フォークリフト横に倒れて頭部から出血していた被災者を発見したもの。業務上外については調査中であったが、10月に業務上と判断した。	10109	1	10～ 29
2011	1	8 ～ 9	倉庫内において、フォークの昇降と共に運転席が昇降する型式のフォークリフトを使用して、棚に置かれている製品を降ろそうとしていた被災者が、当該フォークリフトの運転席から約2.5メートル下の倉庫の床面に墜落し倒れているのを、同倉庫内で他の作業を行っていた同僚が発見した。その後、病院へ搬送されたものの災害発生より10日後に死亡したものである。	80109	1	10～ 29
2011	9	11 ～ 12	木材乾燥機内に木材を入れる作業を行うため、乾燥機挿入用台車に木材の束を積み重ね、フォークリフトで乾燥機の中へ台車を押し込んだところ、当該乾燥機の扉の付近で作業していた被災者を台車とともに乾燥機内へと押し込んだ。数分後、乾燥機の中からの被災者の声が出たため、台車を引き出したところ、木材に引きずられた状態の被災者を発見した。	10401	7	1～9
2011	4	17 ～ 18	被災者は、フォークリフト運転手とツーバイフォー材の（高さ74.5cm、奥行き109cm、幅233.6cm、重さ0.8t）積荷運搬作業の補助作業を行っていた。フォークリフト運転者は、既に仮置きされていた資材の上に重ねて積載するために、被災者は、リングを一段目の資材の上に置き、フォークリフトを誘導中にフォークリフトで運搬していた資材と仮置き場所の背後にあった鉄柱との間に頭部を挟まれ被災	10409	6	30～ 49

			したもの。			
2011	8	14 ～ 15	プレス機械に金型をセットするため、フォークリフトにて敷台を移動中、横に置いてあった治具（円筒形芯金：長さ2 m、直径0. 2 5 m）に敷台の先端部分が接触し、これが動き、プレス機械の横に居た被災者の足に当たった。両足骨折にて療養中のところ、9月4日、容体急変し、死亡した。司法解剖によると、死因は足にできた血栓が肺に詰まったことによる肺塞栓症とされた。	11209	6	30～ 49
2011	1	15 ～ 16	被災者は、充電を終えたリーチフォークリフトを運転し、工場内の通路をバックで走行していたところ、充電箇所から約1 5 mの通路上でフォークリフトが仰向けに転倒し、ヘッドガードと床に首を挟まれ死亡したもの。	11305	2	300～
2011	11	14 ～ 15	わかめ加工を行う工場内において、清掃片付け作業に従事していた被災者が、高さ約2. 8メートルの中二階の片付け作業を行うに当たり、自らフォークリフトを運転し、同フォークリフトのマストを昇降設備として使用して、降りていたところ、マスト操作レバーを作動させてしまい、マストとヘッドガードの間に挟まれ、死亡したもの。	10102	7	1～9
2011	10	9 ～ 10	設備の搬出、運搬のため、フォークリフト（最大荷重1. 5トン）を運転していた被災者は、運転席を離れてマストとヘッドガードの間で何らかの作業をしていたところ、リフトレバー（フォークを上昇、下降させるレバー）及びティルトレバー（マストを傾斜させるレバー）に誤って触れ、マストが上昇及び運転席側への傾斜をしたため、マスト上部の横架材とヘッドガード前部フレームとの間に頭部を挟まれ、被災した。	50101	7	1～9
2011	12	10 ～ 11	倉庫内に保管されている5 0 0キログラムの肉骨粉が入っているフレコンバッグを倉庫の外にあるホッパーまでフォークリフトで運ぶためフォークリフトを降りて作業中、フォーク（爪）とフレコンバッグ上部に挟まれたものである。	50201	7	10～ 29
			トラックで搬入されてきた材料（約2 t）の荷を倉庫へ運搬するため、被災者はリーチフォークリフト（最大荷重1. 5 7 t）でトラック荷台			

2011	10	13 ～ 14	上の荷をフォークに積み、後方へ下がってフォークを下に下げたところ、後輪が浮き上がって前方に傾いた。被災者は後方に飛び降りたが、フォークが地面に激突し、その後荷がフォークから外れて車体が元に戻ったため、被災者は車体の下敷きとなり死亡した。	11209	7	100～ 299
2011	5	8 ～ 7	被災者は、ダンボール製造設備に供給する原紙を倉庫へ取りに行こうとフォークリフト（最大荷重1.7トン）を空荷状態で運転していたところ、倉庫入口にある鉄骨柱の基礎部（高さ12cm）にフォークリフトの右前輪が接触し、その状態から基礎部の補強材の上を走り抜けたため、フォークリフトの車体が横転し、乗車席から投げ出された被災者はフォークリフトのヘッドガードの下敷きとなり被災したものである。	10602	2	50～ 99
2011	7	14 ～ 15	被災者が、バケットアタッチメントを装着したフォークリフトを運転し、搬入されたリサイクル用廃棄物の荷寄せ作業中、バケットを上げたまま後進し左後方へ旋回したところ機体が傾き、被災者が運転席から飛び出した（あるいは飛び出した）ところへ機体が転倒、ヘッドガードの枠に胸部から首を挟まれ、救急搬送されたが同夜に死亡したものの。	150102	2	10～ 29
2011	12	10 ～ 11	フォークリフトを使用し作業場の照明を取り替えるため、フォークで上げたパレット上に乗り作業をしていたところ、昇降時に墜落し、マストの一部に腹部を強打したことによる失血死と推定される。	80209	1	1～9
2011	3	8 ～ 9	資材置場で清掃作業中の被災者が動き出したフォークリフトとコンテナにはさまれて負傷、死亡した。詳細は不明だが、災害直前に他の作業者が作業の支障となっていたフォークリフトを運転して、移動、停車させ、エンジンを停止せずに運転席を離れたところ、当該フォークリフトが動き出したという。	150102	7	1～9
2011	11	16 ～ 17	被災者及びフォークリフト運転者の2名で、前日に解体し、仮置きしていた柱システム型枠を次の設置場所へ移動するため、型枠をフォークリフトの専用アタッチメントに固定しようと、被災者がフォークリフト本体とマストの間に入り、金物を締め付けをしていたところ、被災者の尻	30201	7	10～ 29

			部がフォークリフトの操作レバーに接触し、マスト部分が後方に傾斜し、頭部がマストとヘッドガードに挟まれた。			
2011	12	15 ～ 16	運送業トラック運転手である被災者が、配送先事業場内で配送先事業場のフォークリフトと運搬台車の間で牽引アタッチメント取り付け作業を行っていたところ、フォークリフト運転手（配送先事業場構内下請所属）がフォークリフト操作を誤り、アクセルを踏んだため、被災者の頭部がフォークリフトと運搬台車に挟まれたもの。	40301	7	30～ 49
2011	4	13 ～ 14	事業場敷地内の木材置場の建物の梁に防鳥ネットを張るため、事業主が運転するフォークリフトの爪上に乗せた板の束を作業床（縦約0.9 m、横約4.2 m、地上からの高さ約3.5 m）として、被災労働者山中俊雄を乗せ作業をさせていたところ、事業主がフォークリフトを左方向へ後退させた際、被災者がバランスを崩し墜落したもの。	10401	1	1～9
2011	6	9 ～ 10	被災者が鉄製の空パレットを積み上げた荷をフォークリフト（最大積荷重2.5 t）にてバック走行で運搬中、スロープのある仮設の荷台に右後輪を乗り上げ、フォークリフトが転倒した。フォークリフトが転倒した際、被災者が運転席から放り出され、その上にフォークリフトが倒れてき、はさまれたもの。	80401	2	10～ 29
2011	4	2 ～ 3	40 tトレーラの運転手である被災者はトレーラ荷台からフォークリフト（最大荷重2.8 t）を使用し荷物（原木約70本を束ねたもの）を降ろす作業を行っていたところ、突然トレーラが前方に動き出したため荷台の支柱にフォークリフトの爪が接触、横転した。フォークリフトを運転していた被災者が運転席から地面に投げ出され、地面と横転したフォークリフトのヘッドガードとの間に挟まれ受傷し、その後死亡した。（出張作業）	40301	2	1～9
2011	12	8 ～ 9	操作室2階の手すりを外してある開口部から、フォークリフトのパレットに上がり、ごみの入った袋を載せていたところ、パレットが壊れ高さ4.1 mから墜落し床に頭部を強打した。	170209	1	1～9
			被災労働者は、オーダーピッキングトラックを用いて、ピッキング作業			

2011	2	13 ～ 14	中、ラック3段目から、ダンボール1ケースをピックアップする際に、運転席床面高さ約3メートルから、墜落したもの。オーダーピックアップトラック運転席には、取り外し可能な手すりが両脇と正面に設けられているが、正面の手すりは、使用されていなかった。また、被災労働者は、安全帯は着用していたものの、使用していなかった。	50101	1	50～ 99
2011	2	13 ～ 14	荷を積載し構内の道路をバックで直進していたフォークリフト（最大積載荷重8トン）が突然進路を外れ縁石を乗り越え、屋外でプラント移設のための配管工事の準備作業が行われていたところに突っ込み、作業していた作業員1名を轢いたもの。	30203	7	10～ 29
2011	5	19 ～ 20	10tトラックの荷台左側下部に燃料タンクを取り付ける作業中に発生。被災者はフォーク先端に燃料タンクを載せたフォークリフトのフォークの間でバックレストの前に入り、燃料タンク取付場所に位置を合わせるため、フォークリフトの運転手に合図をしていた被災者がバックレストとトラック荷台の間に頭を挟まれ死亡した。	11701	7	1～9
2011	6	9 ～ 10	構内において、転倒したフォークリフトのヘッドガードとコンクリートの地面の間に頸部を挟まれている被災者を同僚が発見したもの。フォークリフトは荷を積載していないが、走行したと思われる場所は南側に行くほど角度が大きくなる傾斜地であった。南側前輪が通過したと思われる場所は12度の傾斜地で凹凸があり、北側前輪が通過したと思われる場所は7度の傾斜地であった。	10901	2	10～ 29
2011	5	13 ～ 14	被災者は、バケットを取り付けたフォークリフト（最大荷重1.8t）をエンジンがかかったまま停車させ、付近の材料置き場にいたところ、フォークリフトが横転し、バックレストの下敷きになったもの。被災者が運転していたフォークリフトのバケットには、チェーンフックにより荷（重量150kg）が吊られている状態であった。被災者は災害当日、病院で死亡が確認された。	11002	6	10～ 29
2011	7	17 ～	被災者は、災害発生時、プレス機で空き缶をつぶす作業に従事していたが、空き缶をプレス機に投入するために使用していたフォークリフトの	11209	7	1～9

		18	マストとプレス機の壁の間に挟まれて死亡していたものである。			
2011	4	11 ～ 12	棚卸作業において廃車部品の重量を計量するため、フォークリフトのフォークにフレコン（約30キログラム）をつり下げ運搬し台貫で計量した。この時次に台貫を使用する業者が待機していたため、急ぎ荷を元の位置に戻すべく、後進し方向転換をしたとき、フォークリフトが転倒し運転していた被災者がその下敷きとなって死亡したものの。	11002	2	100～ 299
2011	5	14 ～ 15	物流倉庫内で、仕分けした製品の運搬のため、製品ラックの間（通路）をフォークリフト（リーチフォーク）で運行中、方向転換をするため製品ラック方向にバックしていたところ、製品ラックに置かれた積荷パレット（重量約360キログラム）に激突、フォークリフトとパレットの間に挟まれ、胸部圧迫により死亡した。	50101	3	30～ 49
2011	4	15 ～ 16	倉庫内において、フォークとともに運転席が昇降するタイプのフォークリフトの運転席に乗って、ラックに置かれた商品を取り出す作業中、4. 2mの高さから墜落した。安全帯は着用していたが使用していなかった。ヘルメットは着用していた。	80109	1	50～ 99
2011	12	8 ～ 9	廃車となった2tトラックのアルミ製の荷箱（長さ：約4m、縦横：約2m）を地面に下ろすため、事業者がフォークリフトを操作して荷箱後方を少し持ち上げ、また、被災者は車体と荷箱の間に台木を挿入するため、荷箱脇で待機していた。その際、荷箱が地面に横転し、被災者がその下敷きとなって死亡したものの。なお、トラックの車体と荷箱部分は、災害発生前に溶断等により切り離された状態となっていた。	80109	6	1～9
2011	9	8 ～ 9	事業場敷地内において、フォークリフト2台を使用して冷凍機本体（重量1トン）を工場内へ搬入しようとしたところ、冷凍機本体が倒れ、付近にいた労働者が冷凍機本体の下敷きになった。	10102	5	30～ 49
2011	3	12 ～ 13	平成23年3月28日12時15分頃、配送センター倉庫内で、労働者がピッキングフォークリフトを使用し、荷役作業に従事していたところ、高さ3メートルから4メートルにあった運転台から墜落し死亡したものの。	40301	1	1～9

2010	12	14 ～ 15	1000 t プレス（鍛造プレス）の上部を清掃するためフォークリフトのアタッチメント（鍛造品をはさむクランプ）の上に乗リアタッチメントを上昇中、フォークリフトの運転手がアクセルを踏み込んだ際、フォークリフトが前進し、テルハのレール（I ビーム）とフォークリフトのバックレストとの間に腰部分がはさまれた。	11209	7	30～ 49
2010	12	8 ～ 9	被災者は、事業場の敷地内にある製品置場において、トラックの荷台の紙製品（重量約 1 t）を横持ち作業するため、フォークリフトを運転し、トラックの荷台の紙製品をクランプ（アタッチメント）で挟み、一旦左後方にバックした後、紙製品を挟んだ状態でリフト（上昇）させながら右旋回動作で前進していたところ、フォークリフトの安定度が失われて転倒し、ヘッドガードの支柱の下敷きとなり死亡したものの。	50101	2	10～ 29
2010	12	16 ～ 17	被災者はフォークリフト（最大荷重 2.95 t）を運転し、ユニックの荷台にあった足場用単管パイプ 4 束のうち 3 束（総重量 1196 kg）をフォークに載せたが、うち 1 束（長さ 3.5 m × 50 本。重量 364 kg）がフォークの先端からはみ出していたため、フォークに単管の束を載せたままエンジンを止めずにフォークリフトを降り、単管の束の下に敷く枕木の 1 本をフォークの下に差し入れたところ、はみ出していた 1 束が被災者に落下した。	30199	4	1～9
2010	12	9 ～ 10	フォークリフトを使用して、造作中の船体に資材を運び入れる作業を行っていた。300 t 橋形クレーンが接近していたことに気づき、あわててフォークリフトを移動させようとしたが間に合わず、クレーンの接触によりフォークリフトの運転手（被災者）は地面に投げだされ、その直後、フォークリフトが横転、被災者がその下敷きになったもの。作業箇所はクレーンの走行レール沿いに設けられた立ち入り禁止区域であった。	11501	6	1～9
2010	11	10 ～	被災者は倉庫においてロールクランプを運転する労働者 2 名の積み込み作業の作業指揮を行っていたところ、バック走行してきたロールクランプの運転者が後方をよく確認しておらず、ロールクランプに接触されて	50101	6	1～9

		11	被災者が転倒し、コンクリート床面に頭を強打したもの。			
2010	11	7 ～ 8	トラック運転手である被災者は、運送先事業場構内において、荷役で使うフォークリフトに乗車（使用）する前に、エンジンをかけ、マストと車体フレームの間に乗り、ヘッドガード上に雨天で溜まった水を雑巾で拭き取る作業を行っていたところ、マストの操作レバーに何らかの原因で被災者の体の一部が接触し、本体側に動き出したマストと車体フレームの間に腹部を挟まれ死亡した。	50101	7	10～ 29
2010	11	14 ～ 15	鉄骨製のビニールハウスを補修作業中、屋根部分の小梁をビス止めするためフォークリフトのパレットを足場代わりに作業をしていた。被災者が同僚にパレットを少し上げるよう指示したため同僚がフォークリフトのエンジンをかけたところ、ギアが入っていたためフォークリフトが前進し、ビニールハウスの鉄骨骨組みとの間に腹部を挟まれた。被災者を含め3人で作業を行っていたが、フォークリフト運転の資格者はいなかった。	170209	6	30～ 49
2010	10	11 ～ 12	製材工場内で、のこ屑集塵用のダクト（高さ4.6m）が詰まったため、これを改善しようと、フォークリフトのフォークに鉄製の箱（重量200Kg）を載せ、その箱内に被災者が搭乗し、高さ3.14mまでフォークを上げて清掃を行っていたところ、箱がダクトのバンド部に引っかかって箱が浮き、箱がバランスを崩してフォークリフトのフォークから箱が脱落、箱とともに被災者がコンクリート床及びチェーンコンベア上に墜落した。被災者は病院へ搬送されたが死亡した。	10401	1	50～ 99
2010	10	9 ～ 10	被災者は、リーチフォークリフトの後輪にうつ伏せの状態の下敷きとなっているところを発見され、救急搬送されたが、搬送中に死亡した。 被災者は、最大積載荷重1.8tのリーチフォークリフトを用いて亜鉛鉄板を梱包した荷（1219×2438×110、重さ2t）を運搬していたが、災害発生時にリフトが前のめりになり、フォークの先端が刺さった跡が地面に残されていた。最大積載荷重を超過したためフォークリフトが前方に傾き、その際に運転手が転落し、リフトに挟まれたもの	11203	7	10～ 29

			と思われる。			
2010	10	14 ～ 15	農業用機械（コンバイン）の回収のため、フォークリフトで公道を走行中、何らかの原因でハンドル操作を誤り、路肩から田んぼにフォークリフトと一緒に転落し、フォークリフトのヘッドガードに挟まれ死亡した。	11702	1	10～ 29
2010	10	15 ～ 16	事業場の資材置き場にて、労働者がフォークリフトを使って廃棄物の運搬作業中、フォークリフトを後退させたところ、すぐ後ろで作業をしていた被災者が轢かれ、死亡した。当初は、被災者がフォークリフトを運転していたが、前輪がぬかるみにはまったため、運転を交代していた。運転者は無資格であった。	30201	7	10～ 29
2010	10	13 ～ 14	フォークリフトを用いて粃をライスセンターから別棟の保管場所へ運搬し、保管場所からライスセンターへ戻る際、フォークリフトの右前輪タイヤが、運行経路途上にあった粃殻排出塔の基礎土台にのり上げ、バランスを崩し、当該フォークリフトが横転した。当該フォークリフトを運転していた被災者が運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなり死亡した。	170209	2	50～ 99
2010	9	8 ～ 9	被災者はフォークリフトのフォークの上に載せたプレカット材の上に乗る、高さ約4mの高さに保管してあった埋木用の枝の束を降ろそうとしたところ、バランスを崩し、約3mの高さから墜落した。被災者は安全帽を着用していなかった。	10401	1	10～ 29
2010	9	17 ～ 18	被災者は、フォークリフト（最大荷重1.5t）を用いて、事業場営業所の屋根（高さ2.71m）の雨漏りを止めるため、ビニルシートを敷設する作業をしていた。フォークリフトの運転席からフォークのパレット上に乗り移ろうとした際、誤って足を踏み外し、ティルトレバーを足で踏んでしまい、原動機を停止させていなかったためにマストが後斜し、ヘッドガードとマストの間に挟まれた。1人作業のため目撃者はいない。	40301	7	1～9
			事業場構内にてフォークリフト(最大荷重3.5t)の運転作業に従事し			

2010	9	14 ～ 15	<p>ていた労働者が、フォークリフトのマストに取り付けたアタッチメント下部と地面との間に頭部を挟まれているところを発見され、その後死亡が確認された。当該フォークリフトはマスト昇降用の油圧ホースが破断し作動油が漏れていた。被災者が単独で作動油の漏れを点検中、アタッチメントが被災者の上に降下、頭部を挟まれたとみられる。</p>	150102	7	50～ 99
2010	8	9 ～ 10	<p>コンテナ修理作業場所の移転準備として、新規作業場所を表示するための白線を引く作業（被災者を含め2名がロープの端をそれぞれ持ち直線を出し、これを目安に労働者1名がチョークにより地面（アスファルト）に線引きする）を行っていたところ、隣接する位置にあった空コンテナを移動させようとした他事業場労働者が運転するスプレッド付きフォークリフト（最大荷重7 t）にはねられたもの。</p>	11209	6	10～ 29
2010	8	16 ～ 17	<p>被災者は、夏季休暇前の工場内の排水溝内の清掃作業で出た堆積・固化したコンクリートのノコを入れたトンパック1袋をフォークリフトの右側フォークに片掛けで吊り下げて、構内の集積場に向かい走行していた。その途中の坂道を右カーブする際に、偏荷重となり車体バランスが崩れ、フォークリフトが右側に横転した。被災者は、運転席から投げ出されてヘッドガードと地面に身体を挟まれ、同日搬送先病院で死亡が確認された。</p>	10901	2	1～9
2010	8	13 ～ 14	<p>被災者は、フォークリフトを使用してコンテナ車から荷降ろし作業中にドックレベラー（プラットホームからコンテナ車への渡り板）上で幅寄せ（バックしながら右側に寄せていた）を行っていた時、右後輪がドックレベラーから脱輪したため、フォークリフトの体勢を立て直す操作を行っていたところ、プラットホーム端部から90 cm下のアスファルト路面上へフォークリフトとともに転落し、フォークリフトの下敷きになった。</p>	40301	1	50～ 99
2010	8	17 ～	<p>事業場敷地内において、被災者がフォークリフトを空荷の状態運転して坂道を後進で下りていたところ、右後輪が坂道右側の土手に乗り上げフォークリフトごと横転した。その際に、被災者はフォークリフトの</p>	60101	2	1～9

		18	ヘッドガードのフレームに胸部をはさまれ死亡した。			
2010	7	5 ～ 6	工場の労働者が朝、出勤したところ、運送会社所属の被災者が、フォークリフトの前面パネルに立ち上がり、マストと運転席の屋根の間に胸部を挟まれて死亡しているのを発見したもの。荷（グラスファイバー、1袋15kg）の位置を調整しようとして前面パネルに立ち上がった際、足がチルトレバーに触れて挟まれたものとみられる。	40301	7	50～ 99
2010	7	11 ～ 12	倉庫会社の倉庫前の路上において、A社の労働者Aが、B社の代表者Bと共に、当該倉庫建屋にある雨どい（高さ6.55m）を見るために、倉庫会社の労働者Cが運転するフォークリフト（最大荷重1t）のフォークに載せたパレットに乗り、地上3mまで上がったところ、労働者AとBがパレットと一緒に墜落し、労働者Aが死亡したもの。	80409	1	1～9
2010	5	10 ～ 11	事業場構内のコンクリート舗装された下り坂（勾配約15度）の通路において、被災者の運転するフォークリフトが、前進走行で坂を下っていたところ、フォークリフトが操作の誤り（スピードの出し過ぎ、急ブレーキ、急ハンドル等）のため、横転した。被災者は横転したフォークリフトの下敷きになり死亡した。	70101	2	10～ 29
2010	4	16 ～ 17	被災者は、工場内にある建設会社土木作業場の警備員詰所において、入退場者の管理を行っていたが、何らかの原因により警備員詰所を離れたところ、約85m離れたコンクリート製品のストックヤード付近において、構内下請会社の労働者が運転するフォークリフトに轢かれたもの。被災者は、直ちに救急搬送されたものの、5日後に収容先の病院で死亡した。	170201	7	30～ 49
2010	2	17 ～	被災者は、フォークリフトを充電するための所定の位置（約8度のコンクリート斜面のスロープ）で、口から血を出して倒れているのを発見された。被災者の傍にあったフォークリフト（カウンターバランスフォークリフト、電気式、最大荷重1.5t）は、スロープ下の壁へ激突し停止した状態であった。被災者を発見した時、フォークリフトの電源ス	50101	7	30～ 49

		18	イッチは入っておらず、サイドブレーキがかかっていなかったことから、被災者が充電をするためフォークリフトを降りたところ、サイドブレーキが完全にかかっていなかったため、フォークリフトが後退し挟まれたとみられる。			
2010	2	12 ～ 13	配送先の牧場敷地内において、トレーラー上のコンテナから梱包された干し草を降ろすため、コンテナの前に金属製の作業台を設置し、そこに金属製の道板（約5 m）を2本取り付けて、フォークリフトを運転して、当該道板を登っていたところ、道板が外れてフォークリフトが転落し、被災者がその下敷きとなった。	40301	1	30～ 49
2010	2	8 ～ 9	被災者を含め5名で、肥料の入ったフレコンバック（乱袋、重量約1 t）の詰め替え作業において、1台のフォークリフトでホッパー（鉄製、重量約330 kg）を上げ、もう1台のフォークリフトで同フレコンを吊り上げながら、ホッパー上からカッターで切ったところ、塊となった肥料が落下し、その反動でホッパー側のフォークリフトが前方に傾き、ホッパーを爪に固定していなかったためホッパーが滑り落ち、下敷きとなったもの。	50101	6	10～ 29
2010	1	9 ～ 10	コイル形状の鋼線材を焼鈍する工程において、外側に膨らんだコイル材を炉内に納まる寸法に整形するため、当該コイル材を圧縮機で加圧し、さらに上方からフォークリフトのラム（円柱状のアタッチメント）に通した別のコイル材（重量約1.8 t）を上下させて外側に膨らんだ線材を絞めていたところ（用途外使用）、コイル材がフォークのラムから外れ、付近で研修を受けていた被災者の上に落下し、下敷きとなったもの。	11001	4	100～ 299
2010	1	10 ～ 11	新設工場の冷凍庫にて高さ6 mの天井に取り付けられた冷却用配管の霜を除去するために、リーチフォークのフォークの上にプラスチック槽を載せ、その中に労働者を入れて持ち上げ、霜をスコップにて払う作業中、プラスチック槽を固定していなかったため作業時の振動などによりバランスを崩し、約4 mの高さから床面に墜落したもの。	10102	1	100～ 299

2010	1	10 ～ 11	当該事業場の工場内において、労働者が最大荷重1.25tのフォークリフトを使用し、パレットに積まれた印刷物を4段（高さ3m）に積み上げ、荷置き作業を終えた。その高く荷置きされた印刷物付近を被災者が空パレットを運搬するために通行していたところ、当該印刷物の上方2段が被災者上に崩れ落ち、被災したものである。荷置き方法の問題もしくはパレットの損傷により荷崩れが起きたとみられる。	10702	5	50～ 99
2009	1	13 ～ 14	畜産施設の敷地内において作業中の作業者が、アスファルトにより舗装され、勾配約4度で、積雪により埋もれた状態となっているスロープの路肩から脱輪し、転倒している最大荷重2.38tのフォークリフトに近づいたところ、当該フォークリフトのヘッドガードと地面との間にはさまった状態で倒れている被災者を発見した。その後被災者は病院へ搬送されたが死亡した。	70101	2	1～9
2009	5	12 ～ 13	被災者は、班長と2人でフォークリフトを使用し、倉庫のシャッター上部（高さ約4m）に取り付けてある蠅取り紙を取り外す作業を行っていた。班長がフォークリフトを運転し、フォークリフトのフォークにプラスチック製の箱を載せ、その箱に被災者を乗せた状態でフォークを上げたところ、被災者がバランスを崩し、乗っていた箱とともに約1.7m墜落した。	10102	1	100～ 299
2009	4	20 ～ 21	被災者は工場内の冷鍛プレス前にフォークリフトを停車させ、フォークに挿して2.10mまで上昇させた手すり付きの鋼製パレット上で、同プレスの油圧ホースの補修作業を行っていた。フォークリフトのヘッドガードとマストの梁の間にはさまれた。	11301	7	30～ 49
2009	7	10 ～ 11	ペットボトルリサイクルセンターの事業場内ヤードにおいて、事業場のトラックにて運搬してきたペットボトル・ベール（プレス品、重量約400kg）を、客先のフォークリフト（クランプ式）を運転して荷下ろしの作業を実施していた。その際、フォークリフトに荷を積載し、マストを上げ、前進、右旋回操作中に左側へ転倒した。被災者（運転者）はフォークリフトヘッドガードフレームと地面にはさまれた。	40309	2	10～ 29

2009	8	9 ~ 10	整備・修理のために工場に持ち込まれた変成器（電力供給にかかる機器）を、フォークリフト運転手が工場ヤード内に移動させて並べ、被災者がパレットに乗っている変成器のボルトの取り外し作業を行っていた。フォークリフト運転手が変成器の載ったパレット10枚ほど移動させた後、後進した際、被災者をフォークリフト（バッテリー式、最大荷重1.5t）でひいた。	11409	7	30~ 49
2009	6	16 ~ 17	営業所内において、バッテリー式電動フォークリフトの修理作業を被災者一人で行った。被災者がキャビネットの上に乗る、マストからシリンダーを外す作業を行っていた時、被災者の足がチルトレバーに接触したため、マストが後傾し、マストとベッドガードの間にはさまれた。	11702	7	1~9
2009	8	13 ~ 14	最大荷重3.5tのフォークリフトを運転し、フレコンバッグに入れたゴミを搬送した被災者が、構内の道路上（道幅約6m、傾斜約6度）で方向転換のためにバックしたところ、フォークリフトの右側後輪が路肩に乗り上げるとともに、カウンターウエイトが路肩にぶつかってフォークリフトが転倒し、運転席から放り出された被災者はヘッドガード部分の下敷きとなった。	40301	2	1~9
2009	7	14 ~ 15	被災者が養鶏団地のビニルハウス増築工事現場で使用するセメントを当該団地内の資材置場までフォークリフトで取りに行き、当該工事現場に戻っている途中にフォークリフトが横転し下敷きになった。なお、資材置場から当該工事現場までの道路は下っており、また、横転した箇所は下りの緩やかなカーブで勾配は8度であった。	30201	2	1~9
2009	5	8 ~ 9	被災者は、工場出入口のシャッターボックス上部の鳩の巣を確認のため、フォークリフトに挿入したパレット上に搭乗し、付近までリフトアップしてもらった。そこから、被覆電線に足を掛けのぞき込もうとしたところ、たるみ防止用に止めていたクリップが外れ、バランスを崩し約4m下の床上に転落した。	150102	1	10~ 29
2009	7	17	当該事業場において、最大積載荷重2tのフォークリフトを運転していたところ、敷地に隣接する河川敷へ転落し、フォークリフトの下敷きに	70101	1	1~9

		18	なった。			
2009	8	12 ～ 13	フォークリフト（最大荷重7t、コンテナ用アタッチメント付）の運転者に連絡事項を伝えるため、作業中のフォークリフトに近づいた被災者が、後進して来たフォークリフトにひかれた。	170201	6	10～ 29
2009	4	9 ～ 10	被災者は、ボディー工場構内を歩行中、構内で空のパレットを搬送していたフォークリフトに激突された。	40301	6	300～ 499
2009	11	16 ～ 17	工場内においてフォークリフトを使用して合板材の積上げ作業を行っていた被災者が、当該フォークリフトの「マスト」と「ヘッドガードの支柱」にはさまれた。フォークリフトを運転していた被災者は無資格であった。	10409	7	1～9
2009	4	8 ～ 9	被災者は、フォークリフト（機体重量10t、最大荷重3t）のフォーク（フォークの代わりにマニピュレーターが取り付けられている）を上下する油圧システムのパイプから油漏れしているとの同僚の報告を受けて、単独で当該パイプの交換作業を始めた。フォークを上にあげ、被災者はその下で作業を行ない当該パイプを取り外したことから、圧力が抜けてフォークが落下し、被災者はその下敷きになった。	11001	4	100～ 299
2009	1	13 ～ 14	作業者がフォークリフトを後進させて加工場から荷受場に製品を運搬していたところ、鋼管置場の4段積み鋼管の束（長さ4m、高さ約1.7m）の上に仮置していた別の鋼管の束（長さ約5.5m、重さ約600kg）に運搬中の製品が接触して仮置していた鋼管の束が落下した。この鋼管が、空パレットを歩いて取りに行く途中にフォークリフトが通り過ぎるのを鋼管置場の付近で待機していた被災者へ激突した。	11209	4	30～ 49
2009	11	9 ～ 10	製品出荷のプラットホームにおいて各配送先毎に荷物を仕分ける作業中、次の製品を取りに行くためフォークリフトを後進運転し、方向転換するためプラットホームの端に向かって切換えた時、プラットホームからフォークリフトとともに高さ1m下の地面に転落し、フォークリフトの下敷きになった。	10803	1	300～ 499

2009	11	15 ～ 16	被災者は、自転車に乗りボイラ室のボイラーの点検に向かう途中で、パルパー室前の構内道路（幅員9.7m）を走行していたところ、被災者が、最大荷重3.5tフォークリフトで紙製造用パルプ（1.8m×1.5m×1.2m、重量約2.4t）を積載し前進の状態では運搬中のフォークリフトに後方から追突され、横転して荷と路面との間にはさまれた状態で引きずられた。	10601	6	300～ 499
2009	10	10 ～ 11	被災者は輪転印刷機用の巻取用紙を運搬中、工場入口のシャッターの前に降ろした2本の巻取用紙が動いたため、フォークリフトを降りて巻取用紙を止めようとしたが、サイドブレーキを引かず、エンジンを切らずに降りたため、前進してきたフォークリフトとシャッター枠支柱との間にはさまれた。当該フォークリフトはマニュアルトランスミッションで、ギアはローギアに入っていた。	10701	7	300～
2009	8	9 ～ 10	被災者がフォークリフトのパレットの上に乗って、抽出室の天井付近の冷風の出るフレキシブルホースの補修作業をしていた。フォークリフトのレバー操作をした作業者は、補修に使うガムテープを取りに行くためその場を離れたが、クラクションの音を聞いたので戻ったところ、被災者が抽出室から出てきて倒れるところを目撃した。発見時フォークは上昇し、マストは運転席側に傾斜していた。	10106	1	100～ 299
2009	10	9 ～ 10	飼料運搬車のタンクに飼料を投入する作業中、運転していたフォークリフトが横転し、運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなった。	40301	2	30～ 49
2009	3	8 ～ 9	被災者は一人でフォークリフトのバケット（370kg）の下に入って油圧パイプの修理作業を行っていたところ、バケットが不意に下降し、バケットと油圧ジャッキのシャフトの間にはさまれた。救急搬送されたが死亡が確認された。災害発生状況から、被災者は、油圧ジャッキを使ってインナマストを上昇させようとしていたと思われた。	11702	7	1～9
		11	河川敷にある工場敷地内で被災者がフォークリフトを運転して製品をトラック荷台に積込みし、フォークリフトを工場建屋に収納する際に、			10～

2009	1	～ 12	フォークリフトに乗車したまま誤って工場敷地から河川敷の公道を横断して路肩から川に転落し、おぼれた。	40301	17	29
2009	12	～ 14	出荷口ホームにおいて、最大荷重1tフォークリフト（リーチタイプ）を使用し、パレットで2段積みされた荷のうち、上部の1パレットを降ろすため、フォークに積んで後進したところ、そのまま出荷口ホームからフォークリフトとともに落下し、投げ出された被災者は落下したフォークリフトのヘッドガードと路面にはさまれた。	10104	1	300～ 499
2009	4	4 ～ 5	プラスチック押出成形ラインにおいて、被災者が原料投入ホッパーと原料の入ったフレコン（重量1t）にはさまれているところを発見された。被災者は、当該ラインの運転補助業務に従事し、原料を補充するため、フォークリフトでフレコンをつり上げて運搬、投入ホッパー上部につり下げた状態でフォークリフトを停車、フレコンの底部を開放すべく底の結びひもを解く際、フレコンが落下してはさまれた。	10805	4	50～ 99
2009	10	～ 12	11 事故現場に出張し、2.5tフォークリフトの年次点検及び修理作業をして いた被災者が、点検中のフォークリフトのマストとヘッドガードのサイ ドフレームにはさまれた。	50202	7	1～9
2009	4	～ 14	13 設置されているプレス機械の搬出のために被災者所属事業場から6人が 災害発生場所へ出張して作業をしていた。フォークリフトでプレス機械 を搬送しようとしているとき（同プレス機械上部とフォークリフトをワ イヤで緊結していた）に、前進したフォークリフトと同プレス機械の 間にはさまれて死亡した。	30302	7	1～9
2009	3	10 ～ 11	トラッククレーンを用いて電柱の積み込み作業中、作業場内で変圧器の 運搬を行っていたフォークリフトと激突した。	30301	6	30～ 49
2009	12	～	被災者は、倉庫内でフォークリフト（最大荷重1.1t）のパレットの上に 15 乗り、商品を棚から取り出す作業を行っていた。パレットの高さを約 2.5m上げたまま、通路を後進していたところ、パレット上の被災者が	80109	1	50～ 99

		16	天井のシャッター部分に当たり、その反動で被災者は地面に墜落し死亡した。			
2009	1	16 ～ 17	合板製造工程中にあるドライヤー機械の清掃作業（毎週1回木端等を取る）にあたり、清掃開始前の打ち合わせに向かった際、後進してきたフォークリフトに接触し、同後ろボディの下部分に両足がかかった状態で仰向けに倒れた。なお、被災者は、ヘルメットは着用し顎紐も掛けていたが、倒れたところから5m離れたところに転がっていた。	10402	6	100～ 299
2008	12	9 ～ 10	荷卸し先で積荷のシート外しを終えた後、荷卸し先の作業者が運転するフォークリフトで荷台前方の積荷(幅66cm、奥行き1m、高さ1.2m、重さ800kg)を降ろしていた。その際、フォークに載せた荷物がバランスを崩して落下して、そばにいた被災者に当たり、被災者はその反動で飛ばされて地面（コンクリート上）に激突した。	40301	4	10～ 29
2008	8	13 ～ 14	飼料の荷揚用のバケツ（2枚のバケツが上部を支点に開閉する構造、背部の幅1.7m、開閉部の高さ1.3m、容量2.3立米、重量2t）をトラックに積み込むため、バケツ背面をフォークリフトで押して閉じようとした。その際、バケツ内部でギア部分の清掃を行っていた被災者が、バケツの開閉部分にはさまれて死亡した。	50202	7	30～ 49
2008	6	16 ～ 17	1名がフォークリフトのフォーク部分に乗り、高さ3.6mの位置にある大型冷蔵庫のモーター部分の修理をする作業を3名で行っていた。その際、フォークリフトの右前方に立っていた被災者が運転者の操作ミスにより前進したフォークリフトと大型冷蔵庫の壁との間にはさまり死亡した。	40301	7	10～ 29
2008	3	11 ～ 12	被災者は、工場敷地外より敷地内へ伸びた雑木の枝打ちをするため、フォークリフトのフォークにパレットを搭載してパレット上で作業中に負傷した。同僚が運転席にうずくまっていたところを発見して医療機関へ搬送後、死亡した。	10202	7	50～ 99
		13	被災者はフォークリフト（最大荷重2.8t）を運転して工場で製造されたコンクリートブロックを製品置場に運搬して戻ってくる際、傾斜7度の			10～

2008	3	～ 14	上り勾配に出て右折しようとしたところフォークリフトが横転してフォークリフトのヘッドガードと道路面にはさまれて死亡した。	10901	2	29
2008	12	～ 8	被災者は、構内の事務所でタイムカードを押し、被災者の作業場所である組立工場へ行くため構内の道路（幅約8.8m）上を歩いていた。その際事務所から約100m北側の工場と工場間のコーナーで、被災者の後方から荷を積んで前進して来たフォークリフトの前輪にひかれ死亡した。	11501	6	100～ 299
2008	9	～ 13 14	廃タイヤを破砕したものを容器（縦1.6m、横1.9m、高さ1.4m）に入れて屋外の置場にフォークリフトで前進方向に搬送していたところ、屋外で作業をしていた被災者をフォークリフトの前輪でひき、被災者は車体の下敷きとなり死亡した。	10806	7	10～ 29
2008	3	～ 19 20	フォークリフトの油圧ホースが劣化していたため新しいものと取り替える作業を被災者が一人で行っていた。エンジンはかけていなかったが、修理中にレバーに触れてしまったためキャビンの前とマストのベースにはさまれているところを発見された。	150102	7	10～ 29
2008	4	～ 6 7	能力7tのフォークリフトで走行中に左折した時、フォークリフトの右側マストが付近を歩行中の作業者と接触し、倒れたところをひいた。	11502	7	10000 ～
2008	11	～ 16 17	被災者はフォークリフトに乗り、倉庫内の2段目の棚の商品の出し入れを手作業で行おうとした際、フォークリフト上から墜落し死亡した。フォークリフトは最大積載荷重が800kgで、フォークと一緒に運転席も上昇する型であった。	40301	1	50～ 99
2008	5	～ 16 17	被災者が仰向けに倒れているのが発見された。声をかけると返事があったが搬送先の病院で死亡した。なお発見者は、被災者がフォークリフトを運転して建屋内に保管していたコンテナを建屋入口付近へ押して移動させていたところを確認している。発見時において当該フォークリフトは無人で動いていた。	40409	7	1～9

2008	3	14 ～ 15	ドラムクリッパーのフォークにドラム缶（242.9kg）をつり上げて運搬中、つり上げたドラム缶の介添えをしながらフォークリフト（最大荷重3t）と併走していた作業者が転倒し、当該フォークリフトにひかれて死亡した。	30309	7	1～9
2008	4	18 ～ 19	フォークリフトでパレットに積まれた高さ1.6mの梱包資材（発泡スチロール）を三段積みにするため、積載した二段積みのパレットを上昇させながら一段目のパレットに近づいたところ、上段のパレットがずれたので、フォークリフトを止め運転席前方のマストの間から身を乗り出してパレットを直していた際、バランスを崩して操作レバーに尻込みをしたためマストが運転席側に傾斜して、マストとヘッドガードの間にはさまれた。	80401	7	100～ 299
2008	4	11 ～ 12	フレコン（牛の配合飼料、1袋500kg）を倉庫内に運ぶため、フォークリフトのフォークにフレコンを2袋つるした状態で作業者がフォークリフトを運転し前進走行をしていた。その際、出勤のため工場入口から食堂がある建物内に向かって歩行していた被災者とフレコンが接触し被災者が転倒し死亡した。	150109	6	100～ 299
2008	11	6 ～ 7	フォークリフトの運転席前方から運転席に乗り込もうとした際、チルトレバーを押したため、マストとヘッドガードの間に身体をはさまれた。	80109	7	30～ 49
2008	8	20 ～ 21	被災者は一人でフォークリフトを用い、巻き取りロールの損紙を運搬していた。その際抄紙機ラインの側面に設けられた昇降階段と被災者が運転していたフォークリフトにはさまれているところを同僚に発見された。	10601	7	50～ 99
2008	11	16 ～ 17	丸太の廃材（直径35cm、長さ80cm）を鋼製のコンテナに入れるため、フォークリフトの右側のフォーク先端箇所に丸太を立てて載せ、被災者は左右のフォークの間に立ち入って丸太がフォークから落下しないように押さえていた。運転者がフォークリフトを操作しコンテナに近づけようとした際、丸太が落下しそうになったため運転手がハンドルを操作し	10401	6	1～9

			たところ、左側のフォークとコンテナとの間に被災者がはさまれ死亡した。			
2008	8	17 ～ 18	フォークリフトで荷（ナイロン樹脂をロール状に巻いた円柱形の資材、1個30～40kg）の揚げ降ろし作業をしていたところ、被災者が車体フレームとマストの間にはさまれている状態で発見された。	11409	7	100～ 299
2008	11	8 ～ 9	被災者は、リーチフォークリフト（立って運転するタイプ、最大積載荷重900kg）で荷物を取りに行こうと事業場構内を走行していた。後退で走行中、空のコンテナをフォークに載せて前が見えなかったためハンドル操作を誤り、コンクリート製の事務所の壁に激突してフォークリフトと当該壁面にはさまれて死亡した。	10101	7	300～ 499
2008	4	20 ～ 21	得意先から出庫される荷を積むために、14tトラックで入場して予め積んであった緩衝材をいったん降ろす作業を行っていたところ、出庫業務を請け負っている荷物取扱い業者の作業者が運転するフォークリフトに接触、転倒して死亡した。	40301	6	10～ 29
2008	5	10 ～ 11	一般廃棄物処理施設において、解体耐火物の入ったフレコンバッグ2袋（合計1.23t）を最大荷重1.2tのフォークリフトでつり上げ、ごみピットに投入しようとしたところ、フォークリフトが前方に傾き、運転者がフォークリフトとともに約8m下のごみピットに墜落してフォークリフトのバッテリーの下敷きになり死亡した。	150109	1	50～ 99
2008	8	14 ～ 15	被災者は事業場倉庫においてピッカーフォークリフト（フォークが運転席の後方にあるもの）を使用してパレット（幅110cm）に2段積みされた荷（844kg）を運搬するためラック間の通路をバック走行していた。2段目のパレットがラックの柱に衝突した際、パレットがずれて通路左右のラックの柱に132cmの高さで固定され通路を塞いだため、被災者は当該パレットに激突し、運転席とパレットにはさまれて死亡した。	80109	3	100～ 299
2008	4	15 ～ 16	回収センター内でフォークリフト（リーチフォーク）を用いてボックスラックを移動しているとき、固定ラックとリーチフォーク車体にはさまれ死亡した。	80401	7	50～ 99

2008	1	9 ～ 10	被災者は、回転クランプ付きリーチフォークリフト（最大荷重0.9t）を停車させ、すぐに、また別の回転クランプ付きリーチフォークリフト（最大荷重1.05t）に乗り換えて後進（フォークリフトは無負荷）させたところ、乗り換える前に乗っていたフォークリフトのクランプに身体を激突させて死亡した。	10701	3	300～ 499
2008	12	10 ～ 11	被災者はフォークリフトを無資格にて運転して冷蔵トラックから空箱を降ろす作業を行っていたところ、フォークリフトとトラックの間にはさまれて死亡した。	40301	7	10～ 29
2008	2	17 ～ 18	リーチフォーク（最大荷重1.7t）を使い、外壁材（2.16t）を約90cm持ち上げて移動していたところ、コンクリート地面に傾斜があったためリーチフォークが前のめりになり後部があがり荷物が崩れ落ちた。その時、被災者も運転台から地面に投げ出され、倒れたところに反動で戻ったリーチフォークの左後輪が被災者の上に落ちてきて、死亡した。	80201	6	300～ 499
2008	11	8 ～ 9	バッテリーフォークリフトで荷の搬送作業中、パレット上の荷崩れ状態を確認するためにフォークリフトのヘッドガードの上に乗り確認した。その後フォークリフトの運転席前部に足をかけ降りようとしたところ、足を滑らせ転落してティルト後傾の操作レバーの上に臀部が乗ったことで、運転席側に動いたバックレストとヘッドガードの間に頭をはさまれた。	80101	7	10～ 29
2008	5	15 ～ 16	被災者が丸鋸でバタ材の耳すり作業を行っていたところ、材料のバタ材がなくなったため、フォークリフトを運転して脇にあるストックヤードからバタ材を運ぶ作業を行った。フォークにバタ材40～50本（250kg）を積み込み、バックで切り返した後に前進しようとして右にハンドルを切った際に、外側（左側）に横転し、運転していた被災者がフォークリフトと地面にはさまれた。	10401	2	10～ 29
2008	11	15 ～	資材置場において、被災者がフォークリフトを使ってトラックの荷台に荷振れ防止用の発泡スチロールを積み込む作業を行っていたところ、フォークリフトのマストとヘッドガード前部のフレームとの間にはさま	40301	7	10～ 29

		16	れて負傷し、死亡した。			
2008	1	15 ～ 16	被災者は、午後の休憩後、工場構内の材料置場でフォークリフト（最大荷重2.5t）を運転し、2段重ねになっている材料（木製の梁材、41本）の下段の材料を1本抜き取る作業を行っていた。午後5時になって被災者の姿が見えなかったため上司が捜したところ、下段の材料（29本）とフォークで持ち上げた材料（12本、約200kg）の間にはさまれた状態で死亡しているのが発見された。	10401	7	30～ 49
2007	7	16 ～ 17	被災者は、ボラ土製造工場内において、ボラ土の入った荷（フレコンバック、重量約650kg）のはい付け作業をフォークリフトを使用し て1人で行っていた。8つ目（高さは2段積み）の荷を積む時に、床面に窪みがあったため、その床面へパレットを敷き込もうと荷をつり上げたままフォークリフトの運転席を離れて、パレットを設置している時に、フォークリフトが被災者の方向へ動き出し、荷の下敷きになり死亡した。	20202	6	10～ 29
2007	9	10 ～ 11	事業場敷地内の屋外の荷捌き場において、パレットの上に載っている荷を人力でトラックに積み込む作業を行っていたところ、パレットとトラックの間で作業を行っていた被災者が、同僚の運転するフォークリフトに激突され、フォークリフトのバックレストとトラックの後部バンパーにはさまれた。	40309	6	10～ 29
2007	6	8 ～ 9	工場内で看板を取り外す作業を行うため、燃料プラスチック受渡しエリアを通行していた被災者が、燃料プラスチックの運搬のため旋回したクランプフォークリフトの右前方部分に激突されて約7m引きずられ死亡した。	30203	6	10～ 29
2007	9	12 ～ 13	クレーンのグリスアップに使用したグリス缶の空き缶を廃棄するため、構内道路脇のゴミバケツ置き場に行った際、フォークリフトにひかれた。	11501	6	10～ 29
		8	フォークリフト（最大荷重1.5t）を用いて倉庫の庫内整理を行なっ			

2007	6	～ 9	ていたところ、稼動中の当該フォークリフトの後部カウンターウエイト上に置いてあった書類を取りに近づいた被災者が後進した当該フォークリフトに激突された。	80401	6	1～9
2007	5	18 ～ 19	資材置き場において、被災者と同僚1名が鉄筋の束を移動させる作業を行っていた。重さ約160kgの鉄筋の束に被災者がワイヤロープを掛け、同僚がフォークリフトの爪で鉄筋をつり上げ、フォークリフトを運転し、被災者が鉄筋の束を手でおさえるためフォークリフトの左前方を移動していた。約40m運転した地点で、被災者がフォークリフトにひかれ左前輪の下敷きになった。	30201	6	1～9
2007	5	12 ～ 13	倉庫内において、フォークリフト（最大積載荷重1.8t）を使用し段ボール箱入り商品パレット（上段16箱、下段18箱、1箱約3kg）を置き場に運搬作業中、上段の1箱が落下しそうになったため、フォークリフトを停止しマストの間に立って手直ししようとした際、当該1箱が操作レバー上に落下したため、マストが傾きマストとヘッドガードにはさまれた。	50101	7	30～ 49
2007	12	9 ～ 10	被災者1名で出荷作業をしていたところ、フォークリフトのマストとヘッドガードとの間にはさまれた。	10203	7	10～ 29
2007	5	20 ～ 21	事業場内において、日勤を終え帰宅途中の作業員（被災者）が、夜勤中の他の作業員が運転するフォークリフト（積載荷重6t）に後方から走り寄ったところ、フォークリフトの左後輪にひかれた。	50101	7	10～ 29
2007	1	12 ～ 13	港湾において粉体のカオリンをフレコンバッグに詰める作業に従事していた被災者が、昼休憩を終えて作業場所に戻るため、埠頭を岸壁に向かって斜めに歩いていたところ、岸壁と平行に走行（前進、荷の積載なし）するフォークリフトの左前輪にひかれた。	50202	7	10～ 29
2007	5	13	被災者ら3名は、排気ダクト設置のため、高さ約6mの屋根上にフォークリフトを使用して材料の荷揚げ作業を行っていた。高さ3mのところ で、ロープで荷締めをして、屋根上にいた作業員が荷を引き上げた後	30302	1	1～9

		14	に、当該リフトのフォークに乗っていた被災者が3 m下のコンクリート土間に墜落した。被災者は、ヘルメット及び安全帯が未装着であった。			
2007	9	11 ～ 12	被災者は、肥料（1袋20 kg）の袋を店頭に設置された3段式の陳列棚の2段目に陳列する作業において、フォークリフトで持ち上げられた当該肥料が積まれているパレットに乗り、陳列棚上で作業している他の作業者に当該肥料の袋を渡す作業中、当該パレットから1.5 m下の床面に墜落した。	80109	1	10～ 29
2007	12	8 ～ 9	丸鋼（鉄鋼製品の種類）を運ぶために運転していたサイドフォーク（最大荷重8 t）が、製鋼所構内の道路上にある交差点を左折した時に、サイドフォークの前方部が通勤のため同道路を通行していた被災者に激突した。	11001	6	1000 ～ 9999
2007	7	8 ～ 9	ロボットスポット溶接装置一式を客先へ納入するため、試運転場所において基礎を外し、フォークリフトにて運搬中、ロボットの架台にフォークを差し持ち上げたところ、基礎ボルト約10 cmから架台の下部が外れロボットが傾き、付近で誘導していた被災者の側へ倒れ、スポット溶接用アームが被災者を直撃した。	11301	4	50～ 99
2007	8	5 ～ 6	敷地内に仮置きしてあるH鋼材の一部を出荷するため、事業主と被災者でフォークリフトを使用し、移動及び積み込みをすることになった。フォークの運転を事業主が行い、荷の誘導を被災者が担当し作業を開始した。3本のH鋼材を横に重ねて運搬し、被災者の誘導で荷卸位置で微調整をしていたところ、突然フォーク先端側のH鋼材1本が落下し、被災者を直撃した。	40301	4	10～ 29
2007	9	10 ～ 11	事業場敷地内にある倉庫1階において、フォークリフトを使用して品出し作業を行っていた。スチール棚の3段目に積んである商品を取り出すためにフォークリフトのフォークに乗り、高さ約2 m弱の位置まで上がり作業を行っていたところ、バランスを崩し床に転落した。	80401	1	50～ 99
		17	最大荷重1.25 tのフォークリフトを使用して、被災者1名にて、倉庫内資材の整理作業中、被災者がフォークリフトのエンジンを停止せず			

2007	3	～ 18	に運転席から離れた際、フォークリフトが後方に逸走し、被災者は、倉庫前に止められていた自動車とフォークリフトの間にはさまれた。	80209	7	1～9
2007	10	8 ～ 9	積み重ねられた住宅用断熱材116枚（1.8m×0.9m×2.3m）をフォークリフトで運搬していたところ、風にあおられて断熱材が落ちそうになったため、フォークリフトを運転していた被災者がフォークリフトの運転席と断熱材との間に入り断熱材を固定しようとしたが、誤ってマストの操作レバーに触れてしまい、マストが運転席側に傾き、被災者がマストとヘッドガードにはさまれた。	80209	7	10～ 29
2007	9	14 ～ 15	構内請負業者の事務補助の勤務を終えた被災者が、工場敷地内の道路上を歩いていたところ、トレーラーから資材を荷卸していたフォークリフトが後進した際にフォークリフトにひかれた。	30309	6	1～9
2007	4	16 ～ 17	被災者は5階冷凍庫から荷をリーチフォークリフトを使用して、エレベーターに積む作業をしていた。荷を積んでいないリーチフォークリフトを運転中、エレベーターに後部から激突し、衝撃によりエレベーターの戸（左右開き）を昇降路内に押し込み、その結果、戸にできた隙間より昇降路内へ落ち、1階停止中のエレベーター搬器天井に墜落した。	50101	1	100～ 299
2007	11	11 ～ 12	バケットアタッチメントを取り付けたフォークリフトを運転し、ホッパー付近まで走行したところで同僚の合図により一時停止をした後、バケット内の不燃ごみをホッパーに投入するためさらに前進したところ、フォークリフトごとホッパー内（深さ1.3m）に転落した。	150103	1	30～ 49
2007	11	17 ～ 18	倉庫5階において、被災者が出荷業務に就いていたところ、運転席が上下するフォークリフト（ピッカータイプ）の運転席部分から約4m下に墜落した。	170101	1	100～ 299
2007	10	14 ～ 15	被災者は米粉のブレンドを行うホッパーを清掃するため、フォークにパレットを設置し、パレット上で清掃作業を行っていた。その後被災者はヘッドガードの支柱とマストの間に身体がはさまれた状態で発見された。パレットから降りる際に誤って足でマスト操作レバーを踏み、マス	80401	7	10～ 29

			トが動きはさまれたと思われる。			
2007	4	10 ～ 11	モルタルダスト製品の運送を請負い、被災者ら3名が、フォークリフトを使用してトラックに当該製品を積み込む作業中、当該製品が入ったフレコンバッグ（重さ約1 t）を一方のフォークのみでマスト上限までつり上げ、走行していた。当該フォークリフト（最大荷重1. 2 t）が横転したため、フォークリフトを運転していた被災者がその下敷きとなった。	40301	2	10～ 29
2007	3	14 ～ 15	運送先工場内のプラットホームにおいて、印刷物をフォークリフトを使用し、トラックに積み込む作業を終えたところ、フォークリフトのハンドル操作を誤り、プラットホームからフォークリフトと共に転落した。	40301	1	50～ 99
2007	9	15 ～ 16	被災者は自社の敷地内において、フォークリフトを使ってトラック上部のランプ交換を行っていた。ランプ交換を終了した後、フォークリフトのヘッドガードを経由して降りようとした際、フォークリフトのヘッドガードフレームとマストの間にはさまれた。	40301	7	10～ 29
2007	3	10 ～ 11	被災者は、工場内で高さ3. 6 mに設置してある配線を載せているレール（長さ約4 m）の汚れをバッテリーフォーク（最大荷重1. 25 t）を使用して清掃中、同フォークリフトのヘッドガードの枠と同マストの間（0. 14 m）にはさまれた。	10103	7	10～ 29
2007	2	7 ～ 8	被災者がフォークリフトを使おうとしたところエンジンがかからなかったため、別のフォークリフトにより引っ張りエンジンをかけようとベルトスリングを掛けて牽引した際、ピンが外れて被災者にあたった。	40301	6	1～9
2007	9	17 ～ 18	物流倉庫において、ピッキングフォークリフト（運転席がフォークの爪とともに上下する）で倉庫の棚の荷物をとろうとしていた作業者が、運転席部（高さ4. 35 m）より通路床面に墜落した。	10805	1	50～ 99
2007	11	13 ～ 14	被災者は、修理の依頼を受けたフォークリフトを事業場に搬送するため、フォークリフトを運転し、市道を走行していたところ、運転操作を誤り、蛇行を繰り返した後フォークリフトが横転し、運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなった。	11701	17	1～9

2007	3	14 ～ 15	被災者は、荷の運送先で、運送してきた豚の荷卸し作業を終えたことから、トラックのテールゲートを閉めるため、トラックの後輪の脇にある開閉スイッチを操作していたところ、被災者に気付かず前進してきた、運送先の作業者が運転する荷役運搬作業中のフォークリフトにひかれた。	40301	7	10～ 29
2007	3	9 ～ 10	フォークリフトで長さ2.65m、45cm角の木材（栗）を運搬中、運搬した木材を置く箇所に、木材を置くための受け台（10cm角）を置いている被災者がいたため、フォークリフトを止めたところ、木材の下に雪がついていたこともあり、止まった勢いで木材がフォークから滑り落ち、被災者に激突した。	30202	4	10～ 29
2007	12	15 ～ 16	事業場の工場兼倉庫内において、被災者がフォークリフト脇で倒れているのを同僚が発見した。フォークリフトを使用して石油ストーブを工場天井裏にある物置に収納しようとして、積み上げてある段ボールにうまを立てかけて段ボール上に上がり、そこからパレット上に乗り移って作業を行おうとし、墜落したと思われる。	10602	1	1～9
2007	11	16 ～ 17	鉄製コンテナに積まれた選果前の玉ねぎ（重量約1.5t）をフォークリフト（最大荷重2.5t）を用いて事業場敷地内に積み上げる作業中、フォークリフトが横転して運転者が運転席から投げ出され、横転したフォークリフトと地面との間にはさまれて死亡した。作業場は、雨によるぬかるみができていた。	80109	2	30～ 49
2006	12	18 ～ 19	フォークリフト運転者はパレットを移動させる業務を、被災者は梱包物の伝票と製品を確認する採寸の作業を行っていた。フォークリフト運転者がパレットが3、4枚重ねられていたところから1枚をとり、方向転換したところ、倉庫から外へ歩いてきていた被災者の足を後輪で轆き、激突した拍子に被災者は仰向けに倒れた。	11709	6	50～ 99
2006	12	10 ～ 11	肉解凍用コンテナの洗浄作業後、荷役ヤードを歩行移動中にバック走行のフォークリフトと接触して転倒、コンクリート土場で体を強打した。	10101	6	30～ 49

2006	12	9 ～ 10	事務所を出て、自社構内保税倉庫前を歩行中、倉庫内の原料パルプ（縦1590×横1700×高さ1640、約4t）を屋外に運び出していたフォークリフト（最大荷重7t、サイドクランプ型）にひかれ、荷の下に挟まれた。	50201	7	50～ 99
2006	12	11 ～ 12	フィルムロール（直径0.8m、長さ1.5m、重量約0.77t）を箱詰めするため、最大積載過重1.6tのフォークリフトの片方の爪にフィルムロールを刺して、高さ1.57mの位置から荷を下降させたところ、フィルムロールが爪から抜け落ち、前方で荷の介助をしていた被災者が、フィルムロールと鋼製の移動ラック側面に挟まれた。	10899	7	30～ 49
2006	9	10 ～ 11	フォークリフト（最大荷重1.5t）を傾斜地に止め、近くで別の作業を行っていたところ、当該フォークリフトが無人の状態です突然動き出し、それを停止させようと近づいた時にフォークリフトが横転し、被災者がその下敷きになった。	150102	6	10～ 29
2006	11	18 ～ 19	冷凍冷蔵品宅配センターの建屋内の構内において、ステンレス製箱（縦1.1m×横1.1m×高さ1.8m）の荷を積載して前進運転で走行していたフォークリフトにはねられた。	40301	6	1～9
2006	11	9 ～ 10	長さ8メートルの鉄筋（一束150本）9束（約20トン）を20トンフォークリフトを使用してコンテナに積み込む作業中、コンテナ床に置かれていた鉄筋の滑りを良くする為のベニヤ板が床に引掛かり、鉄筋が入らなくなった。被災者が、ベニヤ板を交換しようとしてコンテナ入り口に近づいた際、20トンフォークリフトで持ち上げていた鉄筋の束が崩れ、被災者が下敷きになった。	50202	4	30～ 49
2006	11	13 ～ 14	クレーンアーム付きフォークリフトにて、重さ約200kgの油圧ポンプを吊りながら搬送中、被災者は荷が揺れないよう歩いて支えていたが、途中で転倒し、フォークリフトに激突された。	40301	6	30～ 49
2006	10	17 ～	加工場内の冷蔵庫において、フォークリフトで上昇させたパレット上で作業を行ない、墜落しフォークリフトの横に倒れているのが発見され	80109	1	30～ 49

		18	た。			
2006	9	10 ～ 11	貨物船に線材コイルを船積みするため、フォークリフト1台を用いて船倉内で積みつけ作業中、岸壁から移動式クレーンを用いて船倉内に搬入した1束約2 tの線材コイル1束をフォークリフトで積み付ける近くに仮置きするために運搬していたところ、フォークリフトが切り返しのためバックをしたときにフォークリフトの後部が、壁際にいた積み付けの補助をする被災者に激突した。	50202	6	100～ 299
2006	10	15 ～ 16	被災者はしけで打ち上げられた流木・ゴミ等をフォークリフトにバケツトを取り付けトラックの荷台に載せる作業を終了後、フォークリフトのガソリンを満タンにするため、港から約500m離れた指定ガソリンスタンドで給油し、約300m町道を走行し、左カーブに差し掛かったところ道路から逸脱し、昆布干し場の砂利の上にフォークリフトが横転し、フォークリフトのヘッドガードに挟まれた。	70201	17	50～ 99
2006	9	15 ～ 16	被災者は倉庫内において、荷の積み込みのため、バッテリー式のフォークリフトを運転してバックしたところ倉庫の柱に激突した。	40301	3	50～ 99
2006	9	16 ～ 17	染色工場内に小型ボイラー（8基）を設置するため、野外通路に仮置きされていた小型ボイラーの搬入作業を4人で行っていた。5基目を搬入する際、被災者Aの指揮のもとフォークリフトとハンドリフトをボイラーの両端に差込み、持ち上げたところボイラーが傾き、ボイラーを支えようとした2名がボイラーの下敷きになった。	30302	5	1～9
2006	9	16 ～ 17	染色工場内に小型ボイラー（8基）を設置するため、野外通路に仮置きされていた小型ボイラーの搬入作業を4人で行っていた。5基目を搬入する際、被災者Aの指揮のもとフォークリフトとハンドリフトをボイラーの両端に差込み、持ち上げたところボイラーが傾き、ボイラーを支えようとした2名がボイラーの下敷きになった。	30302	5	1～9
2006	9	7 ～	屋外において、フォークリフトを運転していたところ、当該フォークリ	150102	2	10～

		8	フトが横転し、運転者がその下敷きとなった。			29
2006	2	15 ～ 16	構内において被災者がトラックを送り出す合図をしているときに、付近で別の作業をしていた労働者が運転するフォークリフトが後退し、被災者が轢かれた。	40301	6	100～ 299
2006	9	14 ～ 15	被災者がフォークリフトを使用して13トントラックに空瓶等を積込む作業を行っていた。当該作業が終了したので運転していたフォークリフトをトラックの左後方に止め、トラックの荷台（ウイング）を閉めるためにトラック後方にある押しボタンを操作していたところ、動き出したフォークリフトとトラックにはさまれた。	80401	6	30～ 49
2006	9	5 ～ 6	夜勤終了時間（午前6時）が近づき、フォークリフトに充電を行うため、充電場所に向かう際、シャッターを通常はリモコン操作で上げているが、リモコンを持っていなかったため、フォークリフトをバックさせながらフォークリフトから身を乗り出して、手動でシャッターの操作をしようとして、壁とフォークリフトのヘッドガードの支柱にはさまれた。	50101	3	10～ 29
2006	8	7 ～ 8	構内の出荷場を歩いていたところ、後退してきたフォークリフトの左後輪に轢かれた。	40301	7	10～ 29
2006	8	16 ～ 17	センターのプラットホーム上を歩行していた被災者が、後進してきたフォークリフトにひかれた。	80401	6	50～ 99
2006	8	16 ～ 17	被害者は、倉庫内において、一人で製品の入った段ボール箱を取りに行く作業を行っていたが、フォークリフトのマストとヘッドガードのフレームとの間にはさまれているのを発見された。	10805	7	10～ 29
2006	8	0 ～ 1	T字路で、被災者が歩行中に丁字路を右折しようとして前進してきたフォークリフトにひかれた。	50101	7	10～ 29

2006	8	13 ～ 14	石加工工場内で、フォークリフトの下敷きになっている被災者を同僚が発見した。	20201	2	1～9
2006	7	14 ～ 15	輸出用の発電所に使われる配管（直径0.6m、長さ3m、重量1395kg）が梱包するため仮置きしてあったが、不具合を直すために製造した工場に戻すため、梱包する会社の労働者がフォークリフトでトラックに1本目を積み込み、車体に載せたところ爪の上を転がって車体の外に落下した。転がった時にトラック運転手が抑えようとしたが、管が運転手の体の上を転がる形となり死亡した。	40301	4	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	事業場間を移動中の被災者が、隣接するグループ会社の労働者が運転する、空の段ボールを積載し、前進で走行するフォークリフトにはねられた。	10109	6	50～ 99
2006	7	0 ～ 1	最大荷重1.5トンのフォークリフトの運転者が、冷凍庫内の荷卸し作業中に、マストとヘッドガードとの間に立位の姿勢で挟まれてた。被災者は、3段（高さ3m）に積み重ねられた冷凍水産物入り段ボール箱のはいから荷卸しするため、3段目のパレット（高さ2m）にフォークを差し込んだ状態でフォークリフトを停止し、運転席を離れてマストの後側に立ち入っていた時にレバーを押し下げた。	80401	7	1～9
2006	6	14 ～ 15	コンクリートミキサー車のミキサー内に付着したコンクリートのはつり作業が終了したので、被災者は、ミキサー内に入出入りするために持ち上げていたコンクリート投入ホッパーを降ろすため、ミキサー車のステージまたはフォークリフトのフォーク部にパレットを差込み足場として使用していたところから墜落した。なお、ステージ及びパレットの高さは地表から2.6メートル。	10909	1	1～9
2006	6	16 ～ 17	倉庫内で箱物の荷積み作業を行っていたところ、バックで走行してきたフォークリフトと高さ約1.2メートルの鉄製の棚に挟まれた。	80401	6	100～ 299
			被災者らは、マンション新築工事現場で使った基礎工事用鋼矢板40枚			

2006	5	14 ～ 15	(1枚の長さ7メートル、重量420キログラム)を10枚、4組に分け、トラックに積み、自社内で荷卸しする作業に従事していた。同僚がフォークリフト(最大積載荷重8トン)で3組目の鋼矢板を卸ろそうとした時、フォークリフトのフォークの先端が4組目の鋼矢板の縁にかかり、4組目の鋼矢板がトラックの荷台より落下、トラック側面にいた被災者が被災した。	30201	4	1～9
2006	5	21 ～ 22	一階の精米工場において、パッカー作業(米の袋詰め及びロボットによるはい作り作業)を一人残業して行っていた被災者が、フォークリフトでプラスチック製パレットを15段積んだ状態で、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に体が挟まれ、積んでいたパレットの最上段が当たっているのを精米工場二階の操作室で作業をしていた作業者に発見された。	10109	7	30～ 49
2006	5	13 ～ 14	伸線工場において被災者は午後から試作品のテストを実施していたが、テスト中に西側のフォークリフトの通路へ飛び出したところ別のラインで出来上がった伸線を運搬中のフォークリフトに激突された。	11001	6	30～ 49
2006	5	8 ～ 9	被災者は4人で本船の揚貨装置で岸壁に降ろされた合板の玉掛けを外す作業に従事していた。岸壁に降ろされた合板はフォークリフトで所定の位置に移動させるため、本船横の岸壁には6台のフォークリフトが運行しており、内1台がバック走行で旋回した際、所定の作業位置から約8m離れていた被災者をフォークリフト後部で轢いた。	50202	7	100～ 299
2006	5	10 ～ 11	塩化ビニル製パイプの収納ラックの整理を行っていたフォークリフトが、後退した際に被災者に激突した。	80401	6	1～9
2006	5	10 ～ 11	被災者は、家畜飼料(1袋:500kg)の出荷のため、フォークリフトでトレーラーへの積み込み作業を行っていた(2本のツメに1袋づつ、計2袋・1トン)。その際、荷を吊った状態でツメを高さ約4mまで上げ、その状態でハンドルを左に切りながらバックしたところ、バランスを崩し転倒、地面とフォークリフトの間に挟まれた。	40301	2	300～ 499

2006	4	13 ～ 14	倉庫内において、フォークと共に運転席が上昇・下降するフォークリフト（最大荷重450キログラム）を使用して、運転者及び被災者の2名が、倉庫内の棚から商品を取り出す作業を行っていたところ、商品を載せたフォークの先端に乗っていた被災者が約2.4メートル下の床に墜落した。	80409	1	10～ 29
2006	4	16 ～ 17	被災者は、倉庫内にて、パレットラックの2段目（高さ約2.8m）に保管していたプラスチックコンテナ（重量約15kg、パン原材料）を降ろすため、フォークリフト（1.5t）の爪に差込んだパレットを作業床として作業を行っていたところ1.3mの高さから転落した。	40301	1	30～ 49
2006	3	14 ～ 15	構内において、屋根取付工事で使用するH形鋼（長さ15m、幅0.3m、高さ0.7、重量約4.21t）をフォークリフト2台で両端を吊り上げて運搬していたところ、後進しながら運搬していたフォークリフトがバランスを崩して転倒した際に、被災者がフォークリフトのヘッドガードの下敷きになった。	30203	6	1～9
2006	4	22 ～ 23	港内にて、荷役作業中、被災者が、自分の運転するフォークリフトから降りたところ他社のフォークリフトにひかれた。	50202	6	10～ 29
2006	3	18 ～ 19	被災者は、1人でフォークリフト（最大荷重1750kg、自重3900kg）を操作し、トラック荷台に左側からパレット積みの荷物を積み込む作業を行っていた。荷物を荷台奥に降ろした後、フォークリフトを降りて荷物の設置状況を確認していたところ、フォークリフトが前進で動き出し、トラック運転席の左側面との間に挟まれた。	80401	7	1～9
2006	3	14 ～ 15	A社が、災害発生事業場B社より、鉄くず回収を依頼され、B社工場内で、A社労働者のCがフォークリフトにかごを載せ、鉄くずの回収作業を行っていたが、かごに鉄くずを入れ過ぎたため、フォークリフトの後部が上がり、かごがフォークから滑り落ち、近くにいたB社の労働者の被災者がかごと作業台に挟まれた。	11409	4	10～ 29
		12	倉庫内において、フォークリフトを運転し、パレット積みした商品を出			

2006	3	13	荷場へ運ぶ作業中、高さ94センチメートルのプラットフォームからフォークリフトと共に地面へ転落した。	50101	1	1～9
2006	3	13～14	工場敷地内のコンテナスロープ前に停車した積載荷重20tのトレーラーのコンテナ内において、カウンターウエイト（重量1435kg×3台）を荷卸し中、別会社所属の労働者が運転するフォークリフトが後進し、フォークリフトと内壁の間にはさまれた。	40301	7	1～9
2006	2	9～10	トラックから建築資材を搬出するため電動式のフォークリフト（最大荷重750キログラム）を使用後停車させたところ、サイドブレーキをかけていなかったため、傾斜を後進し始めた。被災者は別のトラックの誘導のためトラック側面にいたところフォークリフトが被災者にぶつかり被災者はトラックとフォークリフト後部に挟まれた。	30309	7	1～9
2006	3	17～18	中古船展示場において、看板取付け作業を3名で行い、その後看板の取付け状況を確認するためパレット上に被災者を乗せてフォークリフトで上げたところ、被災者がそのパレット上（高さ約3メートル）から墜落した。	11501	1	1～9
2006	2	18～19	フォークリフト（リーチ形・最大荷重1.5t・立位運転）を使用し、トラックに積まれた荷（広告紙）を下ろし、倉庫に運搬する作業中、被災者が同フォークリフトを後進させたところ、同トラックの後部端に激突した。	40301	3	30～49
2006	2	18～19	出荷用の米を、翌日の出荷時に出荷しやすいように位置を替える作業をフォークリフトで行っていた被災者が、終業時間を過ぎても事務所に戻らないため同僚が様子を見に行ったところ、荷とフォークリフトに挟まっていた。	170209	6	10～29
2006	1	10～11	短辺1m長辺2m高さ2.7mの15段重ねにした金属製パレットをフォークリフトのフォークに載せ作業床とし、当該作業床に被災者を乗せ高さ約3mまで上げた状態で、長さ4.4mの木製棒を用いて高さ7.1mの倉庫の屋根の軒先の雪落とし作業を行っていたところ、落下	40301	1	30～49

			した雪が被災者に当たり当該作業床から墜落した。			
2006	1	20 ～ 21	配送を終え、最大荷重1.5tのフォークリフトを運転し、トラック荷台のパレットを倉庫(32m×41.5m)内に降ろし、倉庫内の所定駐車位置に前進で移動中、マスト部が建物柱に激突した。その弾みで、フォークリフトが横転し、ヘッドガードの下敷きとなった。	40301	3	10～ 29
2005	8	11 ～ 12	資材を保管する倉庫内においてフォークリフトに積んだ資材(合板60枚、重さ1.7トン)の一部が荷崩れにより被災者に激突した。	80109	4	1～9
2005	11	14 ～ 15	被災者がフォークリフトの前方を横断しようとしたところ、フォークリフトに激突された。	10101	6	1～9
2005	4	0 ～ 1	岸壁に接岸された船に給水作業を行った後、給水量を確認するため給水メーターを確認していたところ、背後からフレコンバッグをつって走行してきたフォークリフトにひかれた。	170209	7	1～9
2005	4	14 ～ 15	整備工場で、大型トラックの後部の水切板を修理するために、フォークリフトに木製のパレットを装着して2.5mの高さまで上げ、その上に乗って作業を行っていたところ、フォークリフトが急に前進し、バランスを崩し墜落した。	40301	3	100～ 299
2005	3	9 ～ 10	型枠資材の廃材を資材置場よりフォークリフトで焼却場へ運搬し、フォークを上下に揺すって廃材を振り落としていたところ焼却ピットへフォークリフトとともに転落した。	30201	1	50～ 99
2005	9	13 ～ 14	建設機械に使用する鉄板(1枚の重さ100kg)28枚をフォークリフトで運搬中、被災者が前方にいるのに気付いて急停止したところ、フォークリフトの後輪が浮き上がって前に傾き、鉄板が前方に崩れ被災者に激突した。	11301	6	1～9
2005	6	14 ～	産業廃棄物処理工場内において、フォークリフトを所定の場所に移動させていたところ、前方にいた被災者に気づかず激突した。	150102	6	10～ 29

		15				
2005	6	13 ～ 14	天井クレーンにてコイル状のを運搬するために無線操作しながら工場内 通路を移動中、工場内に進入してきたフォークリフトと通路交差点内で 接触して転倒し、車体下部に巻き込まれた。	11101	7	300～ 499
2005	8	11 ～ 12	岸壁において船より荷揚げされた貨物の検査業務中、走行してきた フォークリフトにひかれた。	170209	6	50～ 99
2005	1	17 ～ 18	製品を自社トラックに積み込み作業中、パレットをフォークリフトで3m の高さに持ち上げ、その上で作業を行っていたが、バランスを崩し地上 に墜落した。	40301	1	10～ 29
2005	9	15 ～ 16	メリヤスの原料を置いている倉庫内で、フォークリフトに挟まれた。	10203	7	10～ 29
2005	12	15 ～ 16	荷受作業場において貨物の個数等を点検するため待機していたところ、 コンテナを移動するため前進走行して来たフォークリフトにひかれた。	170101	7	100～ 299
2005	4	8 ～ 9	鉄製の箱を地上から高さ2mの位置でフォークリフトのフォークに載せ たままの状態の後退移動中、この箱がフォークから落下し、被災者に激 突して下敷きとなった。	150102	4	10～ 29
2005	11	10 ～ 11	フォークリフトのアタッチメントを最高位置に上げたままバックしてい たところ、当該フォークリフトが横転し、逃げようと飛び降りた被災者 が挟まれた。	10203	2	10～ 29
2005	1	16 ～ 17	パレットのはい積み作業中、フォークリフトのマストとヘッドガードの 間に挟まれた。	50101	7	30～ 49
2005	8	14 ～	工場の構内において、フォークリフトを運転中、当該フォークリフトが 横転、ヘッドガードと地面との間に挟まれた。	10902	2	300～

		15				
2005	8	14 ～ 15	フォークリフトの運転を行っていたところ、運転操作を誤りバック走行で商品棚の枠内に入り、その際、商品棚の枠とリーチフォークリフトとの間に挟まれた。	80409	7	30～ 49
2005	9	17 ～ 18	印刷インキ製品のピッキング作業において、フォークリフトの爪に挿したパレット上で、貯蔵ラックにある製品を取り出す作業をしていたところ、墜落した。	10808	1	30～ 49
2005	12	14 ～ 15	コンクリート2次製品の製造工場建屋内において、型枠へフォークリフトから下車後、逸走したフォークリフトの左側後輪でひかれた。	10901	7	50～ 99
2005	9	21 ～ 22	工場構内の敷地内で、使用済の清掃用ゴム材料等を木製パレットに載せて、フォークリフトで前進で運搬していたところ、積荷の清掃用ゴム材料のロールのうち1本が落下し、フォークリフトの右前輪が乗り上げ左側に横転した際に、被災者が投げ出されてヘッドガード支柱と路面との間に挟まれた。	10806	2	300～
2005	12	14 ～ 15	フォークリフトをセルフローダーに積み込む作業中、道板からタイヤがずれてフォークリフトが転落し、被災者がフォークリフトの下敷きとなった。	40301	1	50～ 99
2005	5	16 ～ 17	冷凍倉庫内においてフォークリフトを使用し、倉庫整理のため冷凍魚類の木箱を運搬していたところ、リフト上の荷が崩れ、パレットごと被災者を直撃した。	80401	5	10～ 29
2005	8	22 ～ 23	フォークリフトにより後進中、フォークリフトごとプラットホーム端から地上へ転落し、座席から投げ出され、直後に横転したフォークリフトの下敷きとなった。	40301	1	100～ 299
2005	11	11 ～ 12	フォークリフトで市道を走行中、道路右側の田んぼに転落し、フォークリフトの屋根の下敷きとなった。	30209	17	1～9

2005	2	10 ～ 11	事業場構内において、トレーラトラックの荷台に、荷物積載用の架台を取り付ける作業中、フォークリフトに掛けていた架台が外れて倒れ、近くで作業を行っていた被災者がトレーラトラックの荷台と架台との間に挟まれた。	40301	4	100～ 299
2005	11	9 ～ 10	空荷のフォークリフトを置場に戻すため運転中、フォークを1.7mの高さに上げたまま前進で事業場外に出て、傾斜角10度の場所で右折しようとしたところ、フォークリフトが左側面を下にして横転し、当該フォークリフトの下敷きとなった。	80109	2	10～ 29
2005	3	15 ～ 16	フォークリフトで構内道路を走行中、下りスロープとなった構内道路の路肩に寄り過ぎたため、フォークリフトごと40cmの段差を転落、横転したフォークリフトの下敷きとなった。	50101	1	10～ 29
2005	5	0 ～ 1	倉庫2階でフォークリフトを旋回しようとして後進したところ、荷物用エレベーターに衝突して、鋼製ドアを突き破り、8.4m下の1階に墜落した。	170209	1	10～ 29
2005	2	5 ～ 6	フォークリフトにより金属屑をトラックに積み込む作業を行っている最中、移動中のフォークリフトが横転し、フォークリフトを運転していた被災者がその下敷きとなった。	80109	2	1～9
2005	1	22 ～ 23	車両の交通整理中、傾斜部に停車していたフォークリフトのサイドブレーキが引かれていなかったために動き出し、被災者に激突した。	170201	6	50～ 99
2005	11	8 ～ 9	灯浮標（ブイ）から取り外された灯器を作業員2名が乗ったパレットに載せ、支えながらフォークリフトで運搬する際、パレット上の被災者が灯浮標（ブイ）を固定するための鉄製の架台とフォークリフトとの間に挟まれた。	30309	7	50～ 99
2005	11	16 ～ 17	作業場所に徒歩で向かう途中、走行中のフォークリフトの爪に引っ掛けられ、左前輪でひかれた。	50101	6	300～ 499

2005	10	13 ～ 14	構内を自転車で走行中、後進してきたフォークリフトに巻き込まれた。	170209	7	10～ 29
2005	12	17 ～ 18	分別した廃材をフォークリフトで所定の置き場まで運ぶ際、前方にいた被災者に衝突した。	150102	6	30～ 49
2005	7	13 ～ 14	ブレーキが故障したフォークリフトを勾配16度の坂道でチェーンブロックとワイヤロープを用いて下ろす作業を行っていたところ、ワイヤロープが切断したため、フォークリフトが逸走・横転し、運転していた被災者が当該フォークリフトの下敷きとなった。	80209	2	1～9
2005	7	20 ～ 21	製造装置（重さ1.2トン）をトラックに積み込むため、フォークリフトで移動中、フォークに載せていた装置が傾き、それを直そうとした被災者が、落下してきた装置の下敷きとなった。	40301	4	30～ 49
2005	2	16 ～ 17	フォークリフトを使用し、倉庫内の荷の整理を行っていたところ、運搬していた荷が荷崩れをしたため、運転台上りマストの上部から荷崩れを直そうとしたところ、マストが起伏し、マストのリブとヘッドガードとの間に挟まれた。	40301	7	30～ 49
2005	5	16 ～ 17	船底の清掃作業中、清掃作業に障害となる昇降設備をフォークリフトで移動しようとしたところ、運搬中に昇降設備がフォークから外れて倒れ、昇降設備を支持していた作業者がその下敷きとなった。	150101	4	10～ 29
2005	7	14 ～ 15	倉庫内でフォークリフトによる商品の棚換え作業中、フォークリフトの操作を誤りフォークリフトと棚の支柱との間に挟まれた。	40301	7	10～ 29
2005	9	16 ～ 17	フォークリフトからバケット（重さ310kg）を取り外す作業中、バケットの下敷きとなった。	150102	4	1～9
		4	漁船から鮮魚を荷下ろしするために、フォークリフトで事業場を出発し			10～

2005	8	5	～	河川敷沿いの道路を走行中、路肩から2m下の河川敷に転落し、フォークリフトの下敷きとなった。	70201	1	29
2005	10	15	～	工場構内において、地面に飛散したバラ古紙をフォークリフト及び人力で清掃作業中、バックしたフォークリフトが作業していた被災者に激突した。	10601	6	10～ 29
2004	2	19	～	工場内において、不要機械設備の撤去作業が終り、既設棟と新棟を仕切るために設置してあったブルーシートの復旧作業を終え、フォークリフトに設置した高所作業台を下降していたところ、高さ2.1mのところの高所作業台のバランスが崩れ、搭乗していた被災者が高所作業台とともに墜落した。	30302	1	1～9
2004	9	11	～	自社の低温倉庫の改築工事中、フォークリフトでリフトアップしたパレット上に乗り、天井部分に断熱材を貼り付ける作業を行っていたところ、バランスを崩し、約4.5m下のコンクリートの床に転落した。	80209	1	1～9
2004	6	15	～	発注者所有のフォークリフトを使用し、自社トラックで搬入してきたコンプレッサーをトラック荷台から降ろす作業を行っていたところ、トラック後部に設置してあるパワーゲートの段差でフォークリフトが傾斜したため、コンプレッサーがフォークから落下し、被災者を直撃した。	11702	4	1～9
2004	12	19	～	フォークリフトを使用した荷下ろし作業終了後、伝票を渡そうとフォークリフトの運転席を離れたところ、フォークリフトが逸走し、トラック後部とフォークリフトに挟まれた。	40301	7	10～ 29
2004	8	11	～	クレーンアーム仕様のフォークリフトで飼料500kg入りフレコンバックをつり下げ、トラックまで前進で運搬していたところ、柱の基礎ブロックにフォークリフトが接触、横転した。	170209	2	50～ 99
2004	12	13	～	フォークリフトのフォークを上げたまま、後方に急旋回して、フォークリフトが転倒した。その際、フォークリフトを運転していた被災者が、転倒したフォークリフトと地面に挟まれた。	10801	2	10～ 29
		8		工場のヒサシを取付ける工事において、フォークリフトで上昇させたパ			

2004	8 9	～	レット上でネットのワイヤロープの取外し作業を行っていたところ、被災者が墜落した。	30201	1	1～9
2004	6 15	～	最大積載荷重3.5 tのフォークリフトを運転して、本社から約100m離れた同社資材置場へ移動中、同資材置場入口付近で右折した際にフォークリフトが転倒し、同フォークリフトのヘッドガードの下敷きになった。	170209	2	50～ 99
2004	12 15	～	事業場構内の自動車保管場所でフォークリフトによる作業を終え、下り坂（勾配13度）をフォークリフトを運転して下っているときに、進行方向右側の土手に乗り上げバランスを崩しフォークリフトごと転倒した。	150102	2	1～9
2004	9 8 9	～	他の作業者がフォークリフトを旋回させた際、車体後部が半開き状態のごみ収集車用コンテナの横蓋に接触し、横蓋を支えていた鋼管式治具が外れて横蓋が閉まり、コンテナの塗装の準備を行っていた被災者がその横蓋とコンテナ本体に挟まれた。	11509	7	10～ 29
2004	2 15 16	～	工場内において圧縮梱包機での番線結合作業を終え移動中に、3段に積み上げられたパレット付籠と圧縮梱包機の支柱の間を通過した際、フォークリフトが当該3段積みのパレット付籠に接触し、その衝撃によりパレット付籠が横滑りして被災者に激突した。	10609	6	1～9
2004	7 15 16	～	トレーラーにビールの空容器の積込作業を行っていたところ、フォークリフトにひかれた。	40301	7	10～ 29
2004	8 15 16	～	トラックに段ボールを積み込む作業において、作業場を移動中、別のトラックに使用する作業用の台を運んでいたフォークリフト（バックで移動中）後部と激突した。	40301	6	10～ 29
2004	6 17 18	～	中古の業務用乾燥機（約1 t）を、2.5 tのフォークリフトでトラックの荷台から移動させようとした。しかし安定が悪かったため、いったん地面に降ろし、近くで4.5 tのフォークリフトを使用していた他の作業者に、別方向から乾燥機を持ち上げ移動するよう指示した。他の作業者がフォークリフトで乾燥機を持ち上げようと地切したところ、乾燥機が倒れ、近くにいた被災者が乾燥機とトラックの間に挟まれた。	40302	5	1～9

2004	3	15 ～ 16	ダンボール製の空容器をフォークリフトに積載して運搬中、後進したところへ、被災者が通りかかり、フォークリフトに激突された。	10805	6	1～9
2004	6	10 ～ 11	揚貨装置にて荷下ろしされた木材の束に、荷主ごとの番号をスプレーにて吹き付けて記載し、その番号に基づいて、フォークリフトが仮置き場に運搬する作業中、材木2束を積載し、前進にて走行中のフォークリフト（最大積載荷重6t）にひかれた。	170209	7	1～9
2004	1	16 ～ 17	揚貨装置により、作業に使用した4.5tフォークリフトを沿岸につり上げるための玉掛け作業をしようとした時、フォークリフトのタイヤガード（高さ約95cm）からバランスを崩して墜落した。	50202	1	50～ 99
2004	11	14 ～ 15	仮置きした荷を所定の場所に保管するため、フォークリフトを後進させていた時、走行中のフォークリフトの運転位置から離れようとした被災者が、フォークリフトの後部と倉庫の柱との間に挟まれた。	40301	7	10～ 29
2004	7	15 ～ 16	被災者は、同僚1名と建物天井部の照明器具取付け作業を行うため、ケーブルを天井に沿って引いていた。同僚がフォークリフトを操作し、被災者はフォークリフトのフォークに木製のパレット7段を積み、上昇させたフォークのパレット上（地上からの高さ4.48m）で作業を行っていたが、コンクリートの床面に墜落した。	30301	1	1～9
2004	9	8 ～ 9	砂利運搬船の船舵の取り付けのため、フォークリフトにバケットを装着し、バックレストからバケット越しにワイヤーでつり、船舵を固定した後、フォークリフトが船体から離れる際、バケットを固定していたピンが外れ、バケットが落下し、被災者に当たった。	11501	4	1～9
2004	6	17 ～ 18	台風の影響により、倉庫入口の天井に取り付けてあった蛍光灯の鎖が外れたため、被災者は同僚と2名で、フォークリフトを使用し修理作業を行っていたところ、フォークリフトの天井から運転席へ移動していた被災者がマストとヘッドガードとの間に挟まれた。	11502	7	10～ 29
		13	冷凍倉庫内でリーチフォークリフトで4段積パレットを移動させる作業			50～

2004	6	～ 14	中、上2段のパレットが崩れ、運転席側に落下してきたパレットに押し倒された。	170101	5	99
2004	10	～ 12	不定型に固められた残留ポリエチレンを運搬するため、バケットを取り付けたフォークリフトで残留ポリエチレンをすくいバケットを約2.6m上昇させるところ、帯状の残留ポリエチレンが垂れていたため、これを切断した時に残留ポリエチレンのかたまり（約300kg）が落下し、その下敷きとなった。	40303	4	1～9
2004	7	～ 16	プラスチック材料の入ったフレコンバックを巻き上げ機でつり、材料搬入用の容器上に下ろす作業において、フォークリフトに載せたフレコンバックを、材料搬入用容器の上方に置きフォークリフトの運転席と、マストとの間から身をのり出し、荷かけをしようとした際に、後傾したバックレストと運転席の枠に挟まれた。	10805	7	50～ 99
2004	4	9 ～ 10	フォークリフトに、自動車部品を入れたボックスパレットを4段積みにし、工場内の通路を作業者が後ろ向きで運転していたところ、通路に面して設けられている休憩場付近でボックスパレットが崩壊し、休憩場にいた被災者を、崩壊したボックスパレットが直撃した。	11502	5	300～ 499
2004	11	～ 17	フォークリフトのマスト下部にある油圧ホース接続部分からのオイル漏れを修理していたところ、マストを支えていた角材が外れ、マストおよびフォークが最下部まで落下し、フォーク部分に挟まれた。	80202	4	10～ 29
2004	9	～ 16	フォークリフトで倉庫から坂道を下って行き、ほぼ坂を下りきったあたりで曲がろうとした際、フォークリフトが横転し投げ出された。	80109	2	1～9
2004	9	20 ～ 21	製品（総重量約300kg）を仮置場から所定置場へフォークリフト（最大荷重1.5 t）を使用して運搬する作業中、砂地に右側車輪が脱輪した。そのため、友人に事業場のトラック（積載荷重2 t）にロープをかけて引っ張ってもらい、自らはフォークリフトの運転席に座って脱出を試みたところ、砂地から脱出したはずみでフォークリフトが車体左側に転倒し、被災者はヘッドガードと地面の間に挟まれた。	80109	2	10～ 29

2004	12	15 ～ 16	フォークリフトのフォークが上がったままになっていたため、運転者がフォークを下げようと運転席に乗らず運転席右側から手を伸ばしエンジンキーを回したところ、ギアが1速および前進に入っていたため前進し、付近で選別作業を行っていた被災者をひいた。	150102	7	1～9
2004	8	15 ～ 16	法面（のりめん）吹付用生育基盤材（50L×50袋パレット積）をフォークリフトで現場に搬入していたところ、路面に置いていたコンパネを踏んだはずみでフォークリフトがバランスを崩し、斜面を10m滑落、横転し、車体のヘッドガードと路面との間に挟まれた。	30108	2	10～ 29
2004	11	6 ～ 7	搬入されたコンテナから製品を荷下ろしする作業の準備でフォークリフトを使用し、専用パレットの用意をしていたところ、専用パレットの手すりが外れていたため、当該手すりを運転席に乗り直していたところ、右足がマストのレバーを押し下げ、被災者がマストとヘッドガードに挟まれた。	50101	7	1～9
2004	5	7 ～ 8	被災者は、精米工場内の第2計量室から第1計量室へ歩いて移動中、第1計量室内から出てきたフォークリフトに激突された。	10109	6	1～9
2004	4	9 ～ 10	冷凍倉庫内において、フォークリフトを使って荷物を移動中、荷崩れをした荷物を直そうとして運転席を乗り越え、マストと本体の間に入った際、操作レバーに衣服等が引っ掛かり、挟まれた。	80401	7	10～ 29
2004	8	17 ～ 18	清掃の終わった大根の皮むき機を台の上にフォークリフトで乗せる際、安定が悪かったので、被災者がフォークの上に乗って支えていたところ、当該皮むき機がバランスを崩し転倒・落下、被災者はそれを支えようとして当該皮むき機とともに転落した。	10109	1	100～ 299
2004	5	9 ～ 10	原料の入った金属製コンテナ（高さ149cm、重さ約1t）をフォークリフト（積載荷重2t）に積載し、上昇させながら搬入口プラットホームに向けて走行していたとき、プラットホームの直前で、プラットホーム下に被災者がいることに気づき急ブレーキをかけたところ、積載していたコンテナが約180cmの高さから滑り落ち、コンテナの一部とプラットホー	10101	4	100～ 299

			ム床の間に被災者が挟まれた。			
2004	1	9 ～ 10	構内の鋼片置場で、鋼片の出荷作業に従事していたとき、後進してきたフォークリフト左後輪にひかれた。	11001	6	100～ 299
2004	2	9 ～ 10	事業場構内にあるテント倉庫のシャッターが、前夜からの強風により壊れたのを修理するため、同僚の運転手1名とともにフォークリフトのヘッドガードを足場代わりにして作業を行っていたところチルトレバーを踏んでしまい、フォークリフトのヘッドガードとマストとの間に挟まれた。	40301	7	30～ 49
2004	10	9 ～ 10	事業場構内天井部の蛍光灯を交換する作業のため、フォークリフトに積載された18段のパレット上で作業していたところ、パレットの上でバランスを崩し、約5m下の地上に墜落した。	40301	1	10～ 29
2004	11	10 ～ 11	加工工場内で、フォークリフトの運転席前のフレームに乗り、マスト上部にある歯車にグリスを塗布していたところ、誤って足でマストに仰角を調整するレバーを動かしてしまい、マスト裏側とヘッドガードとの間に挟まれた。	80401	7	30～ 49
2004	6	15 ～ 16	パレットに乗せた製品をプラットホームに置くために前進してきたフォークリフトの直前に飛び出し、プラットホームとフォーク上のパレット部分に挟まれた。	10109	7	10～ 29
2004	10	9 ～ 10	倉庫内の出荷作業で、製品を積むパレットの上に乗って、フォークリフトで3mほどの高さに昇り、製品棚から製品を取り出す作業を行っていたところ、パレット上から3m下の床に転落した。	50101	1	10～ 29
2004	4	17 ～ 18	製品運搬作業でフォークリフトを操作中、ヘッドガード支柱と工場内の鉄骨柱との間に挟まれた。	10806	7	30～ 49
2004	11	16 ～	構内を歩行中、角材を積んで前進してきたフォークリフト（最大積載荷重4.5 t）に激突された。	10409	6	30～ 49

		17			
2004	9	17 ～ 18	がれき受入ヤード入口付近の緩やかなスロープ部で、砂利入りのコンテナバック（1m×1m円筒形、重量1.2t）をフォークリフトでつり上げて移動中、右側前輪がスロープから脱輪、バランスを崩し横転したフォークリフトに挟まれた。	150102	7 30～ 49
2004	3	15 ～ 16	貨物船から合板をおろす荷役作業中、揚貨装置運転手への誘導を行っていたところ、前進してきたフォークリフトにひかれた。	50202	7 10～ 29
2004	9	15 ～ 16	バッテリー式フォークリフトを使用して、倉庫内でパレットに乗った荷（ペーパータオルが箱詰めされたもの）を荷置き作業をしていた時に、パレット二段積みの上部が荷崩れした。このため被災者は運転席前に乗り、ヘッドガードとマストの間からこれを直そうとしたが、この時、誤ってティルトレバーに触れたためにフォークリフトのマストが傾斜し、ヘッドガードとマストとの間に挟まれた。	50101	7 1～9
2003	12	15 ～ 16	コイルフィーダー（動力プレスに材料を自動送給する機械）にコイルを装着するため、パレットに3段重ねに積んだコイルをフォークリフトで敷地外に数m移動させようとしたとき、一番上のコイル（質量約1.4t）がパレットから落下して町道（勾配約10度の坂道）を転がった。フォークリフトの運転者はコイルを押えようとしたがコイルの側面と側溝の側壁との間に頭部をはさまれた。	11502	7 1～9
2003	11	13 ～ 14	倉庫前に積まれていたパレット（一山約30枚）をフォークリフトで運び出そうとしたときに、右横のパレットに引っ掛けたため30枚の山からパレット7、8枚が落下し、1枚が顔面に当たった反動で後方に転倒し後頭部を地面に強打した。	40301	2 10～ 29
2003	11	17 ～	建築用のケイ酸カルシウム板のサンダー加工作業で、同僚が加工の済んだ製品をフォークリフトで指定の場所に移動し、2段目の荷を積んで後退した際にフォークがパレットに接触して1段目の荷から4～5cmずれたので、そのずれを直すために再度フォークリフトを前進させたときに、	10909	6 10～ 29

		18	フォークリフトと荷との間に入ったためマストと荷の間にはさまれた。 フォークリフトの運転手は無資格だった。			
2003	11	9 ～ 10	敷地に野積みされていた廃パレットを撤去する作業で、フォークリフトでトラックの荷台に積んでいたところ、地面が砂利敷きのためフォークのタイヤが潜って操作不能となった。これをトラックで牽引したときに、フォークが横転しフォークの運転者が地面とフォークとの間にはさまれた。	150102	2	1～9
2003	11	20 ～ 21	フォークリフトでトラックに青果物を積む作業で、リフトの外側からレバーを操作しようとして誤ってチルトレバーに触れたため、マストが手前に倒れてきてヘッドガードとマストの突起部分との間に頭部をはさまれた。	40301	7	30～ 49
2003	11	20 ～ 21	養鶏場付属の鶏糞肥料製造工場において、製品500kg入りのフレキシブルコンテナを2.5tフォークリフトのフォークにつり下げ、その後、フォークリフトを降りてフレコンの内容物を詰め替えるため、フレコン底面の内容物取出口を解放しようとしたときに、フレコンのつり下げ用スリングがフォークから外れて落下し激突された。	70101	4	30～ 49
2003	11	10 ～ 11	カゴ車（パチンコ台枠22個を運搬するもの）を4tトラックから降ろすため、フォークリフトの爪を差込んで上昇させ後進したときに、落下しそうになったカゴ車を押さえようとして運転席から転落し、後進するフォークリフトの後輪に巻き込まれて引きずられた。	40301	7	1～9
2003	11	9 ～ 10	工場内で、ピッキング作業（棚から指定された製品の棚卸作業）をピッカー(荷とともに運転席も上昇するフォークリフト)で行っていて、最上限（高さ3m68cm）までリフトを上げてパレット上に製品を積み込む作業を終えたときに、運転席の手すりをはずしていたため、運転席から床に転落した。	80401	1	10～ 29
		4	エンジンがかかったままフォークリフトが停車していることに気づいて現場の確認に行ったところ、フォークリフトのツメではさんだ金網バケ			

2003	11	5	ツと廃フレコンバック捨場の鋼製扉との間にはさまれている同僚を発見した。フォークリフトは約4度の下り勾配にあり、サイドブレーキがかかっていなかった。	11509	7	300～
2003	10	16	タイヤ製造用加硫機のオーバーホールで、加硫機の上半分の部分にあるトップビーム（大きさ：約225cm×約220cm×約61cm、質量：約4.5t）に上プラトン（熱板）を取付け（未固定の状態）でフォークリフト（積載荷重6t）の爪に載せて約1.2m上げて止めたところ、荷が滑り落ちてきて頭部を荷とそばの設備との間にはさまれた。	30302	4	10～ 29
2003	10	0 ～ 1	屋外作業場で、フォークリフト（積載荷重3.5t）に乗ってボックスに荷を積み運搬していたところ、通行路の縁石として地中深く埋め込んでいた円柱形のコンクリートブロックに激突し、外に放り出されて地面とコンクリートブロックとの間にはさまれた。	170101	3	10～ 29
2003	10	15 ～ 16	プレス金型（1.5t）をフォークリフトで運搬中、金型がフォークから滑り落ちて金型交換のために待機していた者に当たった。	11203	4	100～ 299
2003	9	13 ～ 14	酒造会社の敷地内で、荷待ち中のトラック運転手が酒（2.7リットル×6本×54箱）を運搬中のフォークリフトに衝突され、フォークと地面（約25cm）との間に挟まれた。	40301	6	10～ 29
2003	9	11 ～ 12	貸倉庫にコンテナで運ばれてきた板ガラス（高さ198cm、幅246cm、厚さ31cm）を束ねた荷（一束の荷の重さ約2t）をフォークリフトで移動しようとしているときに、荷のすぐ横で清掃作業をしていた者に荷が倒れ荷とコンテナの内壁との間にはさまれた。	40301	6	1～9
2003	9	8 ～ 9	機械製品置場の出入口付近にあったパレットを移動させるため、フォークリフト（1.25t）を操作していたときに操作を誤って鉄柱に激突した。	10899	3	100～ 299
2003	9	9 ～ 10	取引先でフォークリフトを運転して後進中に、事業場内にある約3m下の河川にフォークリフトとともに転落した。	40301	1	30～ 49

2003	9	7 ～ 8	フォークリフトでパレットに載っている塩ビロール（径55cm、長さ120cm、重さ約350kg）3本等（合計1132kg）を製品棚3段目（高さ286cm）から降ろすため、パレットにフォークを差し込んで持ち上げたところフォークリフトの後部が浮き上がってパレット上のロール3本が前方に滑り落ち、製品棚の反対側で製品整理を行っていた者に当たった。	10806	4	50～ 99
2003	8	11 ～ 12	倉庫のパルプを6tフォークリフトで10tトラックに積み込む作業で、2回目の積み込みを終わって次の積み込みのためフォークリフトを後進させたときに、軽自動車のある場所へ向かっていた者に激突した。	80401	6	10～ 29
2003	8	9 ～ 10	精錬棟2階の荷揚場改造工事で、2名がフォークリフトのパレット上に乗り、長さ約3m、重さ約44kgの鋼材をフォークリフトの上方にあった安全バー上に仮置きしたときに鋼材が安全バーから落ち、2名ともバランスを崩して約6m下の1階床に墜落し1名が死亡した。	10806	1	100～ 299
2003	7	15 ～ 16	花火大会のために、園内通路の各個所に移動式クレーンおよび園内所有のフォークリフトで照明機を設置し、フォークリフトを園内の保管場所へ戻すため下り坂を走行していたときに、路肩に乗り上げたためフォークリフトが横転し下敷きとなった。	170209	2	1～9
2003	7	18 ～ 19	テーブルリフターでフォークリフト（リーチ式：最大荷重3t）をプラットフォーム上へ移動する作業で、テーブルリフターをプラットホーム（高さ1.1m）の高さまで上昇させてフォークリフトを前進させたところ、運転操作を誤ったためフォークリフトが後進しフォークリフトとともに転落した。	10701	1	300～ 499
2003	6	8 ～ 9	倉庫屋上から荷物を下ろすため、フォークリフト（最大荷重1t）を高さ3.55mの屋上に上げ、その後、倉庫屋上でフォークリフトに乗り込みエンジンを掛けたが動かないため、クラッチワイヤを見ようとしたときに車体がゆっくりとバックし、ブレーキが故障していて効かず、フォークリフトとともに地面に墜落した。	80209	1	1～9

2003	6	16 ～ 17	廃棄する予定のかしめ機（高さ186cm×幅70cm×奥行き55cm、質量約400kg）をフォークリフト（最大荷重900kg）で倉庫に搬送中、フォークに載せていた機械が傾いたため、誘導していた者が機械と倉庫のシャッターの支柱との間に右肩付近をはさまれた。	11301	7	50～ 99
2003	6	11 ～ 12	フォークリフト（リーチ式フォークリフト、最大積載荷重2.5t）で倉庫内へ小麦粉袋をパレットに乗せて積み上げているときに、フォークリフトのマストとヘッドガード支柱との間にはさまれた。	80401	7	10～ 29
2003	6	16 ～ 17	冷蔵庫の改修工事において、冷蔵庫の扉のローラーがガードレール（最高部3.6m）から外れているので、フォークリフトのフォークに上がりレバーホイスト（締付機）を使用して扉を元のレールに戻したのちフォークからマストを伝わって降りようと運転席に足をかけたときに、マストの起伏レバーに触れたためマストが傾いてヘッドガードとの間に腹部をはさまれた。	30302	7	10～ 29
2003	5	11 ～ 12	フォークリフト(最大荷重2.5t)のフォークを高さ2.35mの高さに上昇させたまま走行し、左に曲がろうとしたときに横転し、運転席右上部のヘッドガードと地面との間に頭部をはさまれた。	11701	7	1～9
2003	4	19 ～ 20	納品先の工場内で、製品である架台を仮組してボルト穴の穴あけをする作業のため、フォークリフトの爪にパレットを敷いて穴あけ機とともに乗り込み高さ約2.2mの位置までパレットを上げさせたときに、バランスを崩してパレットから墜落した。	11209	1	1～9
2003	4	8 ～ 9	倉庫整理の準備作業のため、フォークリフトで袋詰め樹脂素材を移動しようとした際に、フォーク上に積載した高さ約243cmの荷（袋詰め樹脂66袋をパレット4段積みにしたもの）が崩壊し、運転席から降りていたオペレーターがその下敷きとなった。	80401	4	1～9
2003	4	10 ～ 11	パック牛乳を入れる空ケース（1パレット上に60個、2段）を、2パレットずつフォークリフトで洗浄室へ運ぶ作業において、1度に2段積みのまま運搬しようとしたところ、上段パレット上のケースが崩れそうになったので運転席から身を乗り出して直していたときに、足を滑らせて操作	40302	7	50～ 99

			レバーに触れたためマストが倒れ、運転席との間に頭部をはさまれた。			
2003	3	19 ～ 20	荷物の積み込みに行った先の駐車場入口で、運転するトラックの左サイドバンパーをぶつけて歪んだ。客先のフォークリフトで引っ張って矯正するために、フォークリフト運転手がトラック側面の手前でフォークリフトを止め運転席から離れたときに、フォークリフトが前進したためサイドバンパーにチェーンを巻き付ける位置決めをしていた者がトラックとフォークリフトとの間に胸部をはさまれた。	40301	7	100～ 299
2003	3	11 ～ 12	フェリー埠頭に接岸中のタイ船籍の貨物船内でベニヤ板（100枚1束）の荷揚げ作業中に、フォークリフトで持ち上げた荷の下に落ちていた栈木を拾おうとして入り込んだところへ荷が崩れて落下した。	50202	4	50～ 99
2003	3	8 ～ 9	集じん機を撤去するため、フォークリフトのバックレストと集じん機をロープで固定してパレットに載せる作業中に、集じん機が倒れたためパレット位置を調整していた者が下敷きとなった。	10904	5	100～ 299
2003	2	5 ～ 6	重機運送用の荷台傾斜式ローダー（トラック）に車両質量3880kgのフォークリフトを積込む作業中、一たん後向きに積み込んだのち、積直しのためにフォークリフトのハンドルを切り返したところ、機体が荷台を横滑りしながら転倒して運転席から投げ出され、ヘッドガードと地面との間に胸をはさまれた。	40301	2	10～ 29
2003	2	12 ～ 13	製鉄所の倉庫で、最大荷重8tのラムフォークリフトで金属コイルを搬入していたときに、倉庫内で作業していた他の労働者をラムフォークリフトではねた。	50101	6	10～ 29
2003	2	0 ～ 1	ガソリンスタンドでフォークリフト（1.5t）に給油を終えて店にもどる途中、歩道の縁石から車道に脱輪したフォークリフトの姿勢を戻そうとしてハンドル操作を誤り、歩道脇の用水路に転落しフォークリフトの下敷きになった。	80201	17	1～9
2003	1	7 ～ 8	埠頭で検数作業に従事していたときに、ヤードに荷を降ろして本船に向けて走行中のフォークリフトにひかれた。	170209	17	10～ 29

2003	1	8 ～ 9	配送先の労働者がフォークリフトで石膏ボードの荷降し作業中に、一旦停止するためブレーキを踏んだところ、フォークリフトに積載していた石膏ボードが前方に崩れ、横にいたトラック運転者が下敷きとなった。	40301	5	50～ 99
2003	1	14 ～ 15	フォークリフト（最大荷重1.5t）のフォークにパレットを付けて敷地内の除雪作業を行っていたところ、コンクリートの路面の凹凸にフォーク又はパレットが激突してフォークリフトが前のめりに傾き停車し、その衝撃でフォークリフトのハンドルに運転者の頭が激突し、さらに運転席からコンクリート地面に転落した。	40301	3	10～ 29
2003	1	7 ～ 8	工場のフェンス前で、停車していたフォークリフト（電気車）のマストとヘッドガードとの間に胸部をはさまれた。	10803	7	50～ 99
2003	1	14 ～ 15	旧牛舎に置かれていた餌を作るためのサイレージの缶（鉄製の箱、153cm×306cm×153cm）を別の場所に運ぶよう指示を受け、最大荷重3.5tのフォークリフトで旧牛舎に向かったが、旧牛舎前の道で横転しフォークリフトのヘッドガードに頭部をはさまれた。	70101	2	30～ 49
2003	1	14 ～ 15	敷地内で、木材を運搬するため運転していたフォークリフトが、製材工場シャッター前に仮置きしてあった板材に衝突し、運転席からフォークリフトの脇の地面に転落した。	10401	3	1～9
2002	12	9 ～ 10	フォークリフトで合板等を運搬してきて、フォーク上に荷を積載したままの状態で行っていたときに、フォーク上の荷が頭上に落下した。	80102	5	1～9
2002	12	20 ～ 21	物流センターの一階倉庫（主に酒類置場）において、フォークリフト（オーダーピッカー）を使用して商品ラック4段目にあった商品を取ろうとしていたときに、運転席（高さ3.04m）からコンクリート製の床面に墜落し頭部を強打した。	80101	1	100～ 299
2002	12	9 ～	倉庫内で棚卸作業を行うため、フォークリフトの爪にパレット差し込んでそれに乗り、高さ4.9mの棚上にある製品数を確認しているときに足	10701	1	30～ 49

		10	を踏み外して墜落した。			
2002	12	16 ～ 17	倉庫内でフォークリフトにより荷物を運搬中、メインマストとリフトブラケットとの隙間に頭部を入れて積荷の状況を確認しようとしたときに、リフトレバーに体の一部が触れたためフォークが上昇し頭部をはさまれた。	80109	7	30～ 49
2002	12	17 ～ 18	リン青銅帯（6 t）をフォークに差して前進で走行中、帰宅のため工場内の横断歩道を歩いていた者に気が付かずに轢いた。	11101	6	1000 ～ 9999
2002	4	7 ～ 8	フォークリフトでボビン入りダンボール（2列7段積み）を一度に運搬しようとしたが最上部の一箱が荷崩れを起したので、エンジンを切らずに運転席とマストの間に体を入れて荷を動かそうとしたときに、誤って運転レバーに触れたためマストが動いて運転席とマストとの間に挟まれた。	10202	7	10～ 29
2002	11	13 ～ 14	フォークリフト運転技能講習資格取得のため、社内研修を工場内ストックヤードで指導員から受けていて、フォークリフト（最大荷重1.5 t）を運転してストックヤードと構内道路の境界部分の段差（約30 cm）を避けようと左に急転回したところバランスを崩し横転し、フォークリフトのヘッドガードの下敷きとなった。	10105	1	50～ 99
2002	4	17 ～ 18	フォークリフト（最大荷重0.43 t）で入荷商品を所定の棚に収納していて、パレットと3段目棚板（高さ3.2m）を跨いで缶詰の箱（約20 kg）の積替えをしていたときに、バランスを崩してコンクリート床に墜落した。	80109	1	10～ 29
2002	11	11 ～ 12	フォークリフト（最大荷重6 t）で管廃材の運搬中、構内道路を横断中の者を右後輪で轢いた。	11101	7	1000 ～ 9999
		11	フォークリフトのパレットに縞鋼板2枚を積載してプラットホーム（幅員3.77m）上を走行してピットまで運搬し、プラットホーム上の縞鋼板残材の手前で一旦停止したのち、残材を避けながらフォークリフトを前			1000

2002	11	～ 12	進させ左旋回したときに、右後輪がプラットホームの端で脱輪し、フォークリフトごと56cm下の線路へ転落してヘッドガードと線路との間に挟まれた。	11503	1	～ 9999
2002	10	8 ～ 9	トラック（最大積載荷重15t）に古紙18個（1個の重さ700～800kg）を積込む作業で、クランプフォークリフトでトラック荷台に8列まで積み、残りの1列を荷台最後部に積込んでいたときに、荷台後方に立っていた者の頭部が古紙と支柱に挟まれた。	40301	7	10～ 29
2002	10	0 ～ 1	トラックにより電線（510kg）を配送先へ運び、フォークリフトで後進により地上高55cmの工場床面から鋼板製のスロープ（勾配8.5度）を通過して地上へ下りるときに、スロープ上でフォークリフトが転倒しヘッドガードとアスファルト地面との間に挟まれた。	40301	7	10～ 29
2002	10	11 ～ 12	フォークリフトで廃材（鉄骨材）をトラックに積み込む作業中、フォークリフトが深さ約80cmのくぼ地に後部から転落しフォークリフトの下敷きになった。	150103	1	1～9
2002	10	8 ～ 9	廃材の入った袋をフォークリフトで原料倉庫に運び、空袋を原料倉庫脇の空袋置場に持って行くため地上から2.6mの高さに上げたフォークに空袋を掛けて走行中、同様に空袋をフォークに掛けて原料倉庫内から後進してきたフォークリフトの左側マストにフォークリフトの左側のフォークが接触して転倒し、地面とサイドガードとの間に腰部を挟まれた。	50101	2	50～ 99
2002	10	13 ～ 14	ダンボール資材をフォークリフトを用いて運搬しているときに、マストとヘッドガードとの間に挟まれた。	10101	7	100～ 299
2002	6	7 ～ 8	物流センター構内で、バッテリー式フォークリフト（最大荷重0.9t）を運転中、高さ1mのプラットホームからフォークリフトとともに後方から墜落し、地面とフォークリフトのヘッドガードとの間に挟まれた。	50101	1	1000 ～ 9999
		16	倉庫における作業を終了し作業員詰所へ他の労働者と歩いているとき、			30～

2002	9	～	後方から来たフォークリフト（最大荷重6 t）に押し倒されて左前輪、	50202	7	49
		17	後輪で全身を轢かれた。			
2002	9	～	最大荷重3tのフォークリフトを運転して灰の計量を行うため後退させて	11209	6	100～
		11	いたときに、フォークリフトの後方から歩いて近づいてきた同僚を跳ね			299
		12	た。			
2002	8	～	倉庫内の床清掃に邪魔になる木材の束を2.5tのフォークリフトにより屋	80109	1	10～
		11	外へ仮置きする作業で、最初に運び出した木材の上に次の木材を載せる			29
		12	ため運転席を降りて最初の束の上に台木を置き、再びフォークリフトの			
			運転席へ乗り込もうと前輪カバーに足をかけたときに転落して頭部をア			
			スファルト床に強打した。			
2002	7	～	農協の倉庫内において、ジャガイモの入ったコンテナ（重さ1.4 t）を	10109	7	30～
		16	フォークリフトで冷蔵庫内へ運ぶため、冷蔵倉庫前に仮置きした後エン			49
		17	ジンをかけたままフォークリフトの運転席から離れてバックレストとコ			
			ンテナの間に入り名札をコンテナに取付けていたときに、無人のフォー			
			クリフトが前進してきて挟まれた。			
2002	8	～	フィルム工場内で、樹脂フィルムロールの荷造りのため最大積載荷重	10899	7	50～
		11	1.25 t のリーチフォークリフトを運転していたときに、フォークリフト			99
		12	の後部と工場内の柱との間に両肢を挟まれた。			
2002	7	～	製材で発生した木屑を鋼製の廃材箱に入れフォークリフトで焼却炉の	10401	7	10～
		15	ホッパーに投入するため、焼却炉前の道路上にフォークリフトを一旦停			29
		16	車させて、投入時に廃材箱が木屑と一緒に落ちないようにフォークリフト			
			のバックレストと廃材箱をワイヤーロープとシャックルを用いて繋ぐ作			
			業を運転席から行っていたところ、突然フォークリフトが動き出し廃材			
			箱との間に挟まれた。			
2002	6	～	フォークリフトのフォークにパレットをセットしてその上で高さ635cm	30201	1	10～
		9	の棟梁に鉄骨部材の取り合いプレートをアーク溶接し、作業を終わった			29
			ので運転者がフォークを降下させたとき作業員から安全帯を外すのを忘れ			
			たとの声がかかったので約1m下降させて停止し、作業員がフックを筋			

		10	かいから外そうとしたときに、筋かいが折れたため4m下の地面に墜落した。			
2002	7	3 ～ 4	養殖飼料を小分けするため、フォークリフトで吊上げた質量約700kgのフレコンバックの下部に立入っていたときにバックが落下して下敷きになった。	170209	4	50～ 99
2002	7	11 ～ 12	倉庫上屋前で、貨物自動車のバン木を取り除く作業を行っていたところ、プレス機械を貨物自動車へ積込むためバックしてきて旋回したフォークリフトのプレス機械が横転し、貨物自動車とプレス機械との間に挟まれた。	50202	6	30～ 49
2002	7	8 ～ 9	コンテナのメンテナンスのため普通ワゴン車で作業ヤードに停車していたときに、最大積載荷重42tのスプレッダーリフトが輸出用タイヤの入っているコンテナを積載したまま走行してきて、普通ワゴン車に気付かず普通ワゴン車の上にコンテナを降ろしたため押しつぶされた。	11209	7	10～ 29
2002	7	17 ～ 18	資材置場で、フォークリフトを使用して廃棄物の整理を行っていた者が翌朝になっても帰宅しなかったので資材置場を探したところ、フォークリフトに積載していたと思われる鉄製の箱と置いてあった大型冷蔵庫との間に体を挟まれていた。	150103	5	1～9
2002	6	9 ～ 10	フォークリフト（積載荷重1t）にガス発生装置（重さ約2t）を載せフォークを上昇させたところ、その直後にバランスを崩してガス発生装置が工場の壁に倒れかかり、その作業の補助をしていた者がガス発生装置と壁との間に挟まれた。	30302	7	1～9
2002	6	17 ～ 18	オーダーピッキングトラック（運転席と荷役装置が一緒に上下動するフォークリフト）を使用して、約4mの高さの位置で隣接する商品棚にあった商品を取ろうとしていたときに、運転席から墜落して床面に頭部を激しく打ちつけた。	40301	1	10～ 29
2002	3	13 ～	倉庫内で、フォークリフトを使用して18パレットのうち17パレット目をエレベーターに搬入したのち倉庫内をバックで走行してプラットホーム	50101	1	10～

		14	まで来たときに、プラットホームから約1m下の地面にフォークリフトとともに転落し、地面とヘッドガードとの間に頭部を挟まれた。			29
2002	5	15 ～ 16	自動車解体現場において、ドア部が外された乗用車をフォークリフトのフォークで持ち上げ、その真下に潜り込んで部品を取り外していたところ、車体が落下して下敷きになった。	80109	4	1～9
2002	3	8 ～ 9	トラックの荷台上でフォークリフトから荷を積み終えたフォークリフトのマストを伝って運転席に降りようとしたときに、マストを前傾させるチルトレバーに足をかけたためマストが前傾し、マストとヘッドガードとの間に腹部を挟まれた。	80109	7	10～ 29
2002	4	10 ～ 11	物流センターの底下（高さ約5.6m）に吊下型水銀灯取付けのため、フォークにパレット6段を積みその上に乗って作業を行い、安全帯を外してリフトが下がるのを待っていたところ、オペレーターが操作レバーを間違えフォークリフトを前進させたため、バランスを崩し墜落した。	30301	1	1～9
2002	4	16 ～ 17	フォークリフトを使用して小割材を荷積みする作業中、補助作業者がフォークリフトに接触して轢かれた。	10401	6	50～ 99
2002	2	11 ～ 12	フォークリフトのパレットに荷を乗せるためフォークリフト後部に足をかけて高さ2mの棚の上に乗リパレットに荷を乗せた後、運転席とマストの間から運転席へ降りようとしたときにマストチルトレバーに足が当たってマストが手前に動き出し、マストとヘッドガードとの間に頭部を挟まれた。	10702	7	10～ 29
2002	3	9 ～ 10	工場敷地内通路を協力会社の作業員が台車を押して歩行していたところ、親企業の作業員が運転するフォークリフトに正面から激突された。	11209	6	1～9
2002	3	8 ～ 9	フォークリフトのパレットの上でベルトコンベアーの移設作業中、ベルトコンベアーの電源を切るためマストを伝って床に降りようとした際に、足がフォークリフトのマストを操作するレバーに触れたため、マストが運転席側に動いてマストと運転席のフレームとの間に頭を挟まれ	10103	7	100～ 299

			た。			
2002	3	14 ～ 15	会社構内でフォークリフトを使用して4 tトラックに荷を積んでいたときに、フォークリフトのマストと運転席のガードとの間に挟まれた。	40301	7	50～ 99
2002	3	14 ～ 15	材木置場でフォークリフトで木材の運搬・はい積み作業中、はい積みした木材をフォークリフトに装着したウィンチで引き抜いたときに、フォークリフトの後輪が敷地境界の溝に落ちて転倒し、運転手がフォークリフトと斜面との間に挟まれた。	170209	6	1～9
2002	3	16 ～ 17	倉庫内でフォークリフトを用いて荷出し作業中、高さ3.2mの運転席から転落し頭部を強打した。	50101	1	50～ 99
2002	2	16 ～ 17	家畜の飼料用牧草倉庫において、床面に積まれていた20個の牧草（質量約1 t）を最大荷重3 tのクランプフォークリフト（アタッチメントが伸縮する）に積みバックで走行中、フォークリフトが転倒してヘッドガードと床面との間に挟まれた。	170209	2	10～ 29
2002	1	0 ～ 1	フォークリフトでフレコンバックに入ったタイル原料を原料投入口に投入中、足でマストの起伏レバーを踏んだため起伏したマストとヘッドガードの間に腹部を挟まれた。	10903	7	30～ 49
2002	1	8 ～ 9	4.5tトラックでパレット3枚を運び、それを降ろすためフォークリフトでパレットを挟んで後退しようとしたところ、フォークリフトがバランスをくずし横転し運転者が下敷きになった。	80209	2	50～ 99
2002	1	8 ～ 9	道路工事用の標識（約300kg）をフォークリフトで2 tトラックの荷台に載せる作業中、標識の荷重が偏るので3名で支えていたところ、標識が倒れ2名は逃げたが1名が標識の下敷きとなった。	30199	7	100～ 299
2002	1	11 ～ 12	工場内で道路用コンクリート二次製品（重量約2 t）を移動するため、フォークリフト（最大荷重4 t）を使用して持上げる作業中、不安定なため2～3度バランスを取る操作を行っていたときに、合図作業を行って	10901	6	30～ 49

			いた者に突然製品が倒れ掛かり頭部を強打した。			
2002	1	13 ～ 14	最大荷重2.5tのフォークリフトで、事業場敷地内の伐採した木の切り株をつり上げた状態で走行中、路肩段差（約23cm）のところでフォークリフトが転倒し、フォークリフトと地面との間に挟まれた。	80109	2	1～9
2002	1	6 ～ 7	トラック運転手として、材木（輸入材の束、1束、長さ3.68mの板を96本、約1.1t）をトラックで運送し、搬入先の従業員が3段積みの荷をフォークリフトで持ち上げその下に台木を入れていたときに、3段のうち最上段のものが落下し下敷きになった。	40301	4	10～ 29
2001	5	17 ～ 18	工事現場から出た型枠の残材をトラックからフォークリフトで荷卸しし、フォークリフトを駐車スペースに戻すため走行していたときに、フォークリフトが転倒して運転席から投げ出され、フォークリフトのヘッドガードを支える鉄枠とコンクリート地面との間に頭部をはさまれた。	30109	2	1～9
2001	10	9 ～ 10	リーチフォークリフトで荷役作業を行っていた者が、フォークリフトの後側で転落して倒れていたところを発見された。	40409	1	1～9
2001	12	17 ～ 18	作業場で倉庫荷物入力業務に従事していた者が、事務所に行くため歩いていたら、走行してきたフォークリフトに左足を左後輪にひかれて転倒し、地面に後頭部を強打した。	50101	6	10～ 29
2001	11	9 ～ 10	工場の高さ約4mの梁をペンキ塗装するため、フォークリフトのフォークに差してあるパレットに乗り、同僚にフォークを上昇させてもらってフォークリフトを前進させたときに、バランスを崩し地面に墜落した。	10801	1	30～ 49
2001	8	19 ～ 20	連休前の通常業務終了後に行われていた事業場主催の懇親行事の終了後、フォークリフトで後片付けに向かう途中の下り坂でフォークリフトが転倒し、下敷きになった。	11002	2	30～ 49
2001	11	14 ～	3.5tのフォークリフトで型枠に生コンクリートを棒状のバイブレーターを用いて型枠となじませる作業を行うため、鉄柱部分にあるコン	10901	7	10～

		15	ントにプラグを差し込もうとしていたときにフォークリフトが前進してきて鉄柱とフォークリフトとの間に挟まれた。			29
2001	10	15 ～ 16	フォークリフトで現場内の型枠材を集積場に運搬していたときに、フォークリフトが鉄板通路の端から掘削した深さ1.3mの地中梁基礎床に車両とともに転落し、掘削法面と車両との間にはさまれた。	30201	1	10～ 29
2001	10	14 ～ 15	出荷倉庫内の高さ4.5mの所にある蛍光灯の取り替えを電動フォークリフトにパレットを積んで上昇させて行き蛍光灯を交換してマスト部分から降りるときに右足がレバーに当たったためマストが傾斜し、マストと運転席のフレームとの間に腰部を挟まれた。	11203	7	50～ 99
2001	10	8 ～ 9	倉庫で、当日出荷予定の製品をピッキングトラックで移動する作業を行っていたときに、ラック4段目(高さ約5m)から荷とともに墜落した。	50101	1	1～9
2001	9	20 ～ 21	船内誘導員が貨物船内を移動中に、20ftコンテナを積んで後進してきたフォークリフトにひかれた。	50202	6	100～ 299
2001	9	11 ～ 12	自動車学校の敷地内で教習車を牽引移動の準備中に、フォークリフトがバックしてきて教習車とフォークリフトとの間に挟まれた。	80209	7	1～9
2001	9	12 ～ 13	フォークリフトの運転席の横に乗って走行中、支柱に激突したはずみにフォークリフトから落下した。	10902	3	100～ 299
2001	8	9 ～ 10	トラックで運搬してきた重さ約1tの大根洗浄機を設置場所へフォークリフトで移動しているときに洗浄機が既設の機械設備に接触してフォークリフトから落下し、フォークリフトの誘導を行っていた者が下敷きになった。	80209	4	1～9
2001	8	22 ～ 23	パッケージ製造工場において、工場内を歩行中に走行してきたフォークリフト(最大荷重2.5t)に後方から激突された。	10609	6	100～ 299

2001	8	15 ～ 16	産業廃棄物処理場において、排水のためのパイプを土中に埋める作業に用いる水準器が使用できるかどうかフォークリフトの運転者に聞きに行き、帰るときにフォークリフトを前進させたためフォークリフトの左側前輪でひかれた。	30199	7	10～ 29
2001	8	16 ～ 17	工場敷地内に置いてある金型をフォークリフトで第二駐車場に運んだのち第三工場に戻るため公道を走行中、帽子が飛んだのでそれを拾おうとして乗っていたサイドステップから飛び降りたとき、反動で転倒し頭を強打した。	11502	2	100～ 299
2001	7	23 ～ 24	木製パレットに載せた印刷用紙をリーチフォーク(最大荷重1.5t)を運ぶため、パレットにフォークを入れ持ち上げて後退運転中にヘッドガードの支柱と用紙置場の仕切り壁の柱との間に胸部を挟まれた	10701	7	50～ 99
2001	7	15 ～ 16	構内の作業長室へ班長日誌を提出するため50ccバイクで走行中、カーブを後退してきた20tフォークリフトの下部に巻込まれた。	11001	6	300～
2001	6	7 ～ 8	12tトラックの荷台にあった電線くず等の入ったフレキシブルコンテナ9個(1個約1.5t)を最大荷重3tのフォークリフトで降ろす作業で、1個目のフレキシブルコンテナに爪をかけて吊り、フォークをバックさせそのまま右回転させたところ、フォークが右に横転したためフォークの運転者がヘッドガードと地面との間に頭部を挟まれた。	50202	2	1～9
2001	6	9 ～ 10	焼却炉のストーカー(火格子)部のヨーク(ストーカーを引張り上げるアーム部品で重量528kg)をフォークリフトでトラックで目的地(炉室)まで運搬し、ヘッドガードとマストの間に乗りレバーブロックを緩めていたときに、体の一部がマストの前後レバーに触れたため、マストがヘッドガード側に傾き挟まれた。	30302	7	10～ 29
2001	6	14 ～ 15	最大積載荷重3tのフォークリフトで鉄骨(長さ7.9m、重さ約1.2t)をトレーラーに積込み作業中、トレーラーの荷台上で積込み作業の補助をしていた者がフォークから落下した鉄骨の下敷きになった。	40301	4	1～9
		10	顧客からの連絡を受け敷地内に置いてあるヒューム管の在庫確認を行っ			

2001	6	～	て、事務所へ戻る途中に生コンクリートを型に流し入れる作業を行って	10901	7	10～ 29
		11	いたフォークリフトにひかれた。			
2001	5	～	フォークリフトを運転して鉄製の容器に爪を刺して廃棄物処理施設から	150102	2	50～ 99
		9	出たごみの運搬が終わったのでフォークリフトを戻すため構内の傾斜地			
		10	(勾配8度～18度程度)を直進してしていて、右にカーブして入庫しよう			
			としたときにバランスを崩してフォークリフトが左側に横転し頭部を			
			ヘッドガードの縁に挟まれた。			
2001	4	～	フォークリフトでトランスバック(500kg)に入った原料を吊り下げて運	11709	2	50～ 99
		13	搬し、トランスバックを開けてサイロに投入後フォークリフトを後退さ			
		14	せたところ、サイロ進入路の左側に逸脱して横転し下敷きになった。			
2001	4	～	構内道路においてバキューム車のポンプから流れ出た油を除去するた	150102	7	50～ 99
		13	め、ジョーロに中和剤を入れて路面に塗布していたときに、汚泥の入っ			
		14	たボックス(重さ約1.3t)を汚泥脱水プラントから仮置場へ運搬作業中			
			のフォークリフトに接触し、荷と路面の間隙約25cmのところに頭部を			
			はさまれた。			
2001	2	～	倉庫において、フォークリフトのアタッチメント(ロールクランプ仕様)	80209	7	10～ 29
		0	を上昇させてマストの奥にあるリフト昇降用油圧ホースのバルブ調整を			
		1	行っていたところ、油圧オイルが吹き出したため下降してきたアタッチ			
			メント(自重：0.57t)と地面との間に挟まれた。			
2001	3	～	最大荷重950kgのフォークリフトで約270kgの荷を地上約2mの高さま	10309	2	10～ 29
		9	で持ち上げ、トラックの荷台に積み込むため下り坂を後進していたとこ			
		10	ろ、路面が複雑に傾斜していたためフォークリフトがバランスを崩して			
			転倒し、運転者が運転席から投げ出されてヘッドガードの下敷きになっ			
			た。			
2001	2	～	床面より高さ約5mの位置に取付けられた工場の部品置場を示す表示板	11502	1	10～ 29
		18	の取外しを行うため、パレットをフォークリフトに取付けたパレットに			
		19	乗りバックで走行していてパレットごと落下した。			

2001	3	10 ～ 11	段ボール製造販売会社の倉庫でバッテリーフォークリフトを運転していたときに、バッテリーフォークリフトとともにトラック発着場のプラットフォームから倉庫外の約1m下のアスファルト舗装地面に転落し、フォークリフトのヘッドガード端部と地面との間に胸部を挟まれた。	10602	7	1～9
2001	3	18 ～ 19	フォークリフト(最大荷重2.5t)で傾斜約8度の坂道をバックで下りている途中、右に旋回したときにフォークリフトの右側面が坂道の壁に当たり、その反動でフォークリフトが左側に倒れ運転席から投げ出されてフォークリフトの下敷きになった。	10909	2	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	フォークリフト(最大積載15t)で工場内の通路を走行中、T字路を右折する際に「ゴトン」という衝撃を感じたので、停車して後方を見たところ作業者が倒れていた。	10901	6	10～ 29
2001	2	15 ～ 16	フォークリフトで棚沿いにパレットを積んでいて、荷からフォークを抜くときに、荷が所定の位置に置かれているか否かを上半身をのりだして確認しながら後進しているときに棚支柱との間に頸部を挟んだ。	80401	7	10～ 29
2001	3	21 ～ 22	本船より岸壁にフォークリフトを用いて合板(1段76枚、重量約750kg)の荷揚げ作業で、荷を岸壁に一旦仮置をして仕分け番号をつけ、番号付けを行った(合板3段～4段積み)の山を5列まとめてフォークリフトで押していたときに、合板の山の間において挟まれた。	50202	7	10～ 29
2001	2	18 ～ 19	運搬する鉄製の部品柵(重さ145kg)を空の状態に2段に積み重ね、1.5tフォークリフトに乗せて倉庫軒下から倉庫内へ引き入れる作業を行っていたところ、2段目の柵が崩れ落ちて下敷きになった。	50101	5	30～ 49
2001	2	22 ～ 23	アルミ溶解(回転炉)で生じたアルミ灰のしぼり機の前にいたところ、他の労働者がフォークリフトを動かしたため灰しぼり機とフォークリフトのフォークに差し込まれた灰しぼり釜との間にはさまれた。	11109	7	30～ 49
2001	1	13 ～ 14	燃料ボンベ置場において、棚から空ボンベを地面に降ろす際に、フォークリフトが後進したためフォークリフトとボンベ置場の棚との間に挟まれた。	10105	6	50～ 99

2001	1	15 ～ 16	フレキシブルコンテナに入れた麦ぬか(約500Kg)をフォークリフトを用いて、トラックに積み込み中に、フォークリフトが横転し、運転者が頭部をヘッドガードに挟まれた。	10109	2	30～ 49
2000	6	8 ～ 9	自ら搬送してきた鋼製の擁壁資材を15tトラックからフォークリフトで荷降ろしするため、後進しながら方向転換をしていたときに、ダンプ等の洗車時に出る泥をためる穴(長さ3.4m、幅2.5m、深さ0.7m)にフォークリフトが転落し、その下敷きになった。	40301	2	50～ 99
2000	2	15 ～ 16	工場内において、重さ約1tのコイル状に巻かれた鋼棒をフォークリフトのフォークに掛け運搬していたところ、フォークリフトの進行方向に作業者が急に飛び出したので慌ててブレーキをかけたところ、その反動で鋼棒がフォークリフトの前方に落下し、作業者が下敷きとなった。	11502	6	100～ 299
2000	9	9 ～ 10	トラックターミナルの高さ83cmのプラットホーム上でバッテリー式フォークリフト(積載荷重1t)をバックで走行していたときに、フォークリフトとともに転落した。	40301	1	100～ 299
2000	1	13 ～ 14	物流センターの倉庫内でダンボールの抜き取り作業を行うため、1.5tのフォークリフトのパレット上で、高さ4mの位置にあるダンボール(重量:32kg)をパレットに移そうとしたときに、パレットから3m下の床面に墜落した。	50101	1	50～ 99
2000	11	9 ～ 10	倉庫内の照明用水銀灯の電球取り替え作業をフォークリフトのフォークにパレットを21段積み上げた上で行おうとして、パレット9枚とともに高さ約9mの位置から墜落した。	30203	1	1～9
2000	3	14 ～ 15	建築用ボード材原料の運搬作業をフォークリフトで行っていたときにフォークに乗せたファイバーが約2mの高さから落下し、既に積み上げられた荷の下に「りん木」を置く補助作業を行っていた者の頭部がはさまれた。	40301	4	30～ 49
2000	10	11 ～ 12	糶摺り機を客先に納品するため、フォークリフトを運転し商品を積んだトラックの先導をしながら市道を走行中、フォークリフトごと道路左側の田圃に転落した。	80209	17	1～9

2000	12	9 ～ 10	H鋼4本(12m1本と9m3本)をフォークリフトで4tトラックに積み込んで いるときに、フォークからH鋼(12m)が落下したため、トラック上で補 助を行っていた者がH鋼とともに荷台から1. 15m墜落した。	80109	1	10～ 29
2000	11	16 ～ 17	造船所構内の道路を横断していて、スクラップ箱を運搬中のフォークリ フトに接触して両大腿骨を骨折した。	11301	6	1000 ～ 9999
2000	8	14 ～ 15	最大荷重が12tと6. 9tのフォークリフト2台でコンテナをトラックシャ ーシから地上に卸ろす作業中に、軽ワゴン車が進入してきたので通行さ せるため12tフォークリフトのフォークを地上まで下げていたときに軽 ワゴン車が減速せずに走行していきフォークに激突し運転手が胸部を強 打した。	10109	3	1～9
2000	8	15 ～ 16	高さ1. 23mのプラットホーム上で、フォークリフト(最大荷重2t)を運 転してタイヤ10数本を運搬していて当該プラットホームからフォークリ フトとともに転落してフォークリフトの下敷きになった。	40301	1	1～9
2000	11	17 ～ 18	産業廃棄物処理センター内において、産業廃棄物(空缶等約40kg)の入っ た合成繊維製の袋をフォークリフトのマストを4m67cm(マスト最上部 までの高さ)伸ばして前向きに運行していたときに、作業所入り口の扉 のレール部分(レール下部までの高さ4m60cm)に接触したため、フォ ークリフトが左側に転倒し、その下敷きになった。	150102	2	30～ 49
2000	10	10 ～ 11	工務店の資材置場において、フォークリフトを用いて移動式トラックク レーン(3t)に型枠用の板材17枚3列分を積込んでいたときに、板材がト ラック後部方向に崩れたため荷とともに地面に落下し、下敷きとなっ た。	40301	5	1～9
2000	6	17 ～ 18	就業時間が終了し帰宅するため自転車で構内道路(幅員14. 4m)を通行 中、反対側より走行してきたフォークリフトと道路中央付近で正面衝突 した。	10203	6	100～ 299
		9	フォークリフトで鉄板を運ぶため鉄板の下に角材を入れていたときに、			100～

2000	12	～ 10	走行して来たフォークリフトに激突された。	170209	6	299
2000	11	14 ～ 15	資材置場等の土場へ行く途中の上り坂をフォークリフトで走行中、フォークリフトが横転し下敷となった。	10401	2	1～9
2000	9	9 ～ 10	フォークリフトで走行中、テント張り倉庫の鉄製柱とフォークリフトのヘッドガード後部の支柱との間に頭部を挟まれた。	10903	7	30～ 49
2000	8	0 ～ 1	トラックに冷凍魚を積み込むためフォークリフトに乗り市道を走行中、交差点で右折したときにフォークリフトが左側に横転し、その下敷きとなった。	40301	2	30～ 49
2000	7	10 ～ 11	ドラムクランプを装着したフォークリフトで、空のドラム缶をトラックの荷台から空缶置場に移動、整理する作業中に、フォークリフトの操作を誤ってリフトとともに転倒しリフトの屋根と地面との間に挟まれた。	50101	2	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	積載形移動式クレーン(2t)にアルミ製の渡板2本を掛けてフォークリフト(積載荷重1.8t)をバックで荷台に積み込み作業中に運転席側の渡板が外れ、フォークリフトが傾きかけたので脱出しようとしたときにフォークリフトが転落してきてその下敷きとなった。	30202	1	10～ 29
2000	3	16 ～ 17	4段ラックの前で入荷部品を選別中に、裏のラックからパレット(5個)を降ろしていたフォークリフトの荷が倒れてきて前のラックの上のパレットに激突したため、パレット(3個)が3m程度落下して当たった。	11301	4	10～ 29
2000	2	0 ～ 1	溶解用階上原材料置場で、フォークリフトによる荷降ろし作業が終了してスロープを下り終える手前でリフトが転倒し、運転席から投げ出されたところにリフトが倒れてきて屋根部分との間に胸部を挟まれた。	11002	2	100～ 299
2000	1	16 ～	9. 75tのトラックに組立家具を分割した箱14個を2tのフォークリフトで降ろそうとしたときに、荷崩れを起こしたので直すためフォークリフトの運転席からトラックに乗り移ろうとして滑って仰向けに倒れ、尻部で	40301	7	10～ 29

		17	チルトレバーを押したのでマストが運転席側に傾斜し、運転席の支柱とマストとの間に挟まれた。			
2000	3	14 ～ 15	生コン製造プラントのメンテナンス作業で、フォークリフト(2.5t)に木製パレットを乗せてその上に乗り1.45m位パレットを上げて作業を行っているときに墜落した。	10901	1	10～ 29
2000	5	14 ～ 15	フォークリフトによるパレットの整理作業を終えて倉庫上屋の定位置にフォークリフトを格納しようとして右に急ハンドルを切ったときに、左へフォークリフトが横転して投げ出され、その下敷きになった。	80401	2	10～ 29
2000	12	9 ～ 10	倉庫に積まれた樹脂パレット1t入りのフレコンバックの運搬で、フォークリフトのフォークを木製パレットの半分まで差し込んで荷を持ち上げたためパレットが破損して前方に倒れそうになったので、運転席を降りて支えようとしたが支えきれず下敷になった。	40301	5	30～ 49
2000	11	0 ～ 1	リンゴ園から収穫したリンゴをフォークリフト(最大荷重1.5t)に載せて後退させていて、市道の路肩からフォークリフトもろともリンゴ園の敷地(路肩より1.05メートル下)に転落し、フォークリフトの下敷きとなった。	60101	17	10～ 29
2000	2	15 ～ 16	フォークリフトで筒状の巻布(重さ600kg)を運搬中に、巻布の金属芯が通路の右側で2段重ねに積んであったポリプロピレン製の袋(重さ1t)の下部に接触して袋が破れ、パレットがこぼれたのでフォークリフトを降りて粘着テープで破損箇所をふさごうとしていたときに上段の袋が崩れ落ちその下敷きになった。	10802	5	100～ 299
2000	1	16 ～ 17	プラスチック製卵容器の入ったダンボール箱をフォークリフトで運搬中、高さ約4メートルの中二階の梁に積み荷が接触したため、マストが運転席側に傾き運転者がその間に挟まれた。	10805	7	10～ 29
2000	11	9 ～ 10	駐車場整備工事で、区画ロープを取り除いていたときに、土砂を運搬していた同僚が運転するフォークリフトに激突された。	30109	6	1～9

2000	10	9 ～ 10	納品先において、トラックの荷台からフォークリフトでステンレスパイプ計3本(重さ約240kg)を降ろすときに、荷台上荷のバランスが崩れ、誘導者が荷とともに落下した。	11209	4	1～9
2000	7	9 ～ 10	フレコンバックに掘削廃土を詰めてフォークリフトで運搬する作業で、廃土を積み込む指定位置にフォークリフトを移動させるため方向転換させたときに、法肩の土のう袋を乗り越え転落(90 c m)しフォークリフトの下敷きになった。	30199	1	1～9
2000	5	13 ～ 14	冷蔵室に市場に搬入された魚を入れたパレットを運ぶため、リーチフォークリフトでエレベーターにパレットを載せる作業を行っていてエレベータの傍らで入出庫管理の記帳作業をしていた者を引っかけてひいた。	80401	7	30～ 49
2000	3	10 ～ 11	ジブクレーンのホイストの取付け作業をフォークリフトに載せた木製パレットを足場として作業を行っていた者の様子を見に行き、帰るときにチルトレバーに足を掛けてしまったのでマストが運転席側に倒れてきて、マストとヘッドガートとの間に挟まれた。	11301	7	50～ 99
2000	2	11 ～ 12	倉庫内で、フォークリフトに輸入米を積んでバックで走行していたときに、他社の労働者が運転するフォークリフトの荷に激突し胸腹部を挟まれた。	50209	3	10～ 29
2000	1	4 ～ 5	2 tトラックからバナナを降ろす作業中に、トラックの横に置いてあったフォークリフトの前面マスト部と本体との間に転落し、そのときにマストの引き起こしの操作レバーを作動させてしまったためマストと本体との間に頭部をはさまれた。	80109	7	50～ 99
2000	3	8 ～ 9	取引先の製本工場で古紙のブロック(製本屑をプレスしたもので、重さ50～150kg)をフォークリフトでトラックに積み込む作業中に、荷が倒壊してフォークリフトとの間に挟まれた。	80109	5	10～ 29
2000	2	0 ～ 1	倉庫2階に置かれていた材料を2階の窓からフォークリフトを使用して搬出するために、フォークリフトのフォークに差込まれたパレット上(高さ約4m)で作業を行っていたときに墜落した。	11509	1	10～ 29

2000	8	14 ～ 15	工場内でフォークリフト(最大荷重1.5t)で荷を積むため後進していたときに、近くに居た者をひいた。	10702	6	50～ 99
2000	3	18 ～ 19	プラットホームでフォークリフトをバックで運転していたときに、高さ4cmの車止めを乗り越えて81.5cmの高さのプラットホームの端からフォークリフトごと転落し、ヘットガードに胸を挟まれた。	80101	1	100～ 299
2000	1	9 ～ 10	食品工場構内において、10tトラックの荷台の高さ(1.4m)まで上げたフォークリフトの木製パレット上で積荷(200?ドラム缶25本)の荷卸し作業中、パレットの端で体勢を崩してドラム缶と共に地面に転落した。	40301	1	50～ 99
2000	12	14 ～ 15	冷凍庫内において、フォークリフト(最大荷重950kg)のパレットに乗ってラックの最上段(3段目で高さ約4m)まで昇り、冷凍食品3個(計18Kg)をパレット上に移して下降中に誤って約3m下に墜落した。	80401	1	10～ 29
2000	11	13 ～ 14	フォークリフトを倉庫に戻すため農家の敷地内の未舗装の道路上を走行中、左側の法面にフォークリフトが乗り上げて右側に横転し、路上に投げ出されたところにフォークリフトが倒れてきたため、道路面と機体との間に挟まれた。	60101	2	1～9
2000	4	20 ～ 21	トランスバグに詰められた飼料500kgをトレーラーから10tトラックにフォークリフトで積みかえる作業で、2本のフォークにそれぞれ飼料を吊り下げて右ハンドルを切ったときに外側に横転し頭部を強打した。	40301	2	10～ 29
2000	2	9 ～ 10	トレーラー上の運搬用コンテナ(地面から1.7m)に金属棒(長さ1.9m、重さ71Kg、直径約8cm)をフォークリフトで積込む作業で、金属棒をフォークリフト(2.5t)の爪からコンテナ内に入れる作業をしている体のバランスを崩してコンテナから地面に墜落し、そのときに腹部に金属棒が落下してきた。	150103	1	10～ 29
1999	8	16 ～ 17	400tプレスの金型の取替作業で、金型台にのせてあった金型(400kg)をワイヤーチェーンに引っ掛けフォークリフトで吊り上げたときに、ワイヤーチェーンの引っ掛かりが不完全であったため金型がワイヤーチェー	11301	4	10～ 29

			ンから外れて落下し、その下敷きになった。			
1999	2	10 ～ 11	フォークリフトのフォークに作業員を乗せ天井のタッチアップ作業を行わ せていたときに、フォークリフトのマストと天井梁との間に作業者が頭部 を挟まれた。	30201	7	50～ 99
1999	12	16 ～ 17	建築現場から長椅子7束(1束約300kg)を4tトラックで運搬し、倉庫内に フォークリフトで運ぶため同僚運転のフォークリフトとトラックを挟ん で反対側にいたところ、フォークリフトで荷を持ち上げたときに荷(1 束)が倒壊してきて下敷になった。	40301	5	10～ 29
1999	12	9 ～ 10	貨物船から積荷(製材)をフォークリフトで荷降しする作業で、枕木を敷 設していたところに積荷が落下してきた。	50202	4	10～ 29
1999	12	13 ～ 14	事業主が運転するフォークリフトに作業者を作業道具と一緒にパレット に乗せ作業現場に運んでいるときに、パレットに乗っていた者がフォー クリフトの車輪に巻き込まれた。	30309	7	10～ 29
1999	12	15 ～ 16	125t天井クレーンのガーダ製作工程で、下部へ運転室を取りつけるた め、フォークリフトで運転室を運搬し、フォークリフトの爪の状態を確 認するため頭部をガーダを仮置きしたコンクリートブロックと運転室の 間に入れたときに、同僚の運転するフォークリフトが前進したため頭部 を挟まれた。	11301	7	100～ 299
1999	12	9 ～ 10	土場に積まれた丸太材をフォークリフトでトラックの荷台に積み込む作 業中、フォークリフトが転倒し、ヘッドガードの支柱の下敷きとなっ た。	10401	2	1～9
1999	11	11 ～ 12	穀物倉庫構内において、コンバインから排出される大豆をフォークリフ トで走行中、穀物コンテナに移し替える作業中、運転者がエンジンを掛 けたまま運転席を離れたときにマストが傾斜したため、ヘッドガードと の間に挟まれた。	60101	7	1～9
		20	トラックの幌の破れをテープで補修するため、フォークリフトのフォー			

1999	11	～ 21	クにパレットを入れて、作業床として使用し、パレット上からフォークリフトの運転席側に降りるときにマストのレバーに触れたためマストが動き、フォークリフトの屋根とマストとの間に胸部を挟まれた。	40301	7	10～ 29
1999	11	～ 10	トラックの荷台から2tフォークリフトでパレットに積まれた荷を降ろす作業中、パレット横の積み荷がトラックの荷台から落ちそうになったのでフォークの下側を通してこの荷を直そうとしたときに、フォークリフトの運転手も荷を直す作業を行うため、運転席を降りたためフォークリフトが前進し、トラックとの間に挟まれた。	40301	7	10～ 29
1999	11	15 ～ 16	建造中のフェリー船(6000トン)の船内において、フォークリフト(最大荷重3トン)を運転して勾配10度、距離40メートルのところを上がっていたところ、突然エンジンが止まったため、フォークリフトが下がりはじめ、船体の内壁に激突して横転したときに胸部を打撲した。	11501	2	100～ 299
1999	11	～ 10	製品であるコンクリートブロックをフォークリフトで資材置場まで運搬し、既に積まれていたブロックの上に載せるときに、ブロックとブロックの間に挟み込む紐の状態を確認しようとしてエンジンを切らずにヘッドガードとマストの間から身を乗り出したときにマストが運転席側に倒れ、ヘッドガードとマストとの間で胸部を挟まれた。	10901	7	50～ 99
1999	10	～ 19	製錬所構内でフォークリフト(最大荷重7t)で銅屑等を転炉へ運搬する業務を行っていて、T字路を左折したときに、自転車に乗って対向してきた者に気付かずひいた。	11101	6	300～ 499
1999	10	0 ～ 1	冷凍庫内の棚(4段目)の段ボール入り冷凍食品を整理するため、ピッキングフォークリフトに乗り、高さ約2.7mまで上昇して、運転台に設けられている可動式手すりを外した状態のまま作業したためコンクリート床に墜落した。	80109	1	50～ 99
1999	10	14 ～ 15	フォークリフトによる建築資材のトレーラーへの積込作業が終了し荷台から降りるのに、フォークリフトのフォークに差し込んだパレットに乗ったときに、フォークリフト運転手がフォークリフトを後進したため、パレットから2.6メートル下のアスファルト舗装面に墜落した。	10901	1	10～ 29

1999	10	9	工場倉庫内で、ハイピックリフト(運転台も昇降するフォークリフト)のフォークを地上から3.8mの高さに停止させ、台上の袋(25kg)を降ろそうとしたときに墜落した。	11403	1	100～ 299
1999	9	17 18	同僚と2名で鋼管束(6mもの50本、重量819kg及び5mもの50本、重量682.5kg)の4束をフォークリフトを使用して積み上げる作業で、最上部の輪木の位置を直していたところへ、背後から同僚運転のフォークリフトが近づきフォークを上昇させたときにフォークリフトが前のめりに転倒したため運搬中の鋼管束が落下し、その下敷きになった。	11209	4	10～ 29
1999	9	14 15	2階倉庫においてリーチフォークリフトで製品を2段ラックに製品を収納しているときに、製品がラック又は荷等に引っかかったので、フォークリフトから降車し、製品とラックの状況を確認しながらフォークリフトのマストと車体との間に入りを操作したときにマストと車体との間に胸部を挟まれた。	10602	7	30～ 49
1999	9	10 11	工場建屋内の通路の交差点で曲がろうとしたときに、バック走行で空パレット4段を運搬してきたフォークリフト(最大積載荷重2.5t)に激突されて、後ろへ転倒し、後頭部を打撲した。	10109	6	100～ 299
1999	9	15 16	大型フォークリフトが前傾したためにはずれたカウンターウエイトに足を挟まれた者を助けるために、フォークリフトでウエイトを移動させようとしたときに、大型フォークリフトにぶつかり、その衝撃で2トンフォークが転倒したため、近くにいた者が2トンフォークの下敷きになった。	170209	6	1～9
1999	9	14 15	倉庫からフォークリフトを運転して市道の向側に行くため道路を横断しているときに、道路を走行してきたごみ収集車と激突して、フォークリフトが横転し、その下敷きとなった。	11709	17	30～ 49
1999	8	9 10	油圧式ジャッキでフォークリフトを持ち上げてフォークリフトの機体の下で点検作業中、フォークリフトが前方に滑るとともに油圧式ジャッキが外れ、機体の下敷きになった。	11702	7	10～ 29

1999	8	9 ～ 10	菓子製造で使用する油を入れるコンテナ(129×100×105cm)を4段に積重ねる作業で、4段目のコンテナをフォークリフトで吊っている時にバランスを崩したため、フォークリフトが左側に横転し、その運転者が下敷きになった。	10104	2	10～ 29
1999	7	4 ～ 5	7tトラック置場で目的地に到着し、瓦を積んでフォークリフト(最大荷重2050kg)で瓦を下ろしていて、トラックとフォークリフトとの間に挟まれているのを発見された。	80109	6	10～ 29
1999	6	13 ～ 14	フォークリフトで道路を走行中、道路左側に寄りすぎ、約2.5メートル下の道路下にフォークリフトとともに転落し、下敷となった。	80109	17	10～ 29
1999	7	15 ～ 16	フォークリフトで発電機を運搬していて、下り坂に差しかけたためバックで移動していたところ、フォークリフトが横転し、その下敷きとなった。	30199	7	50～ 99
1999	8	8 ～ 9	取引先に原材を降ろし、次の会社に向かうため「あおり」を確認して、トラックに乗り込むため、土間を横断しようとしたときにフォークリフトに激突された。	40301	6	1～9
1999	4	14 ～ 15	PC板製造用の生コンをホッパーに入れてフォークリフトで運搬中、構内の通路上にいた者をひいた。	10901	6	50～ 99
1999	7	9 ～ 10	冷蔵倉庫の製品出荷用プラットホームにおいて、貨物自動車に積込む製品を荷役するため空荷のリーチフォークリフトを運転中、方向転換をしようとして倉庫壁部の火災警報ボックスに腰部を激突させた。	50101	3	1～9
1999	7	23 ～ 24	ダストボックスをフォークリフトのアタッチメントで挟んで持ち上げ汚泥ピットへダストを廃棄しようとしてフォークリフトを前進させ、ダストボックスをリフトで1.5m程上昇させた時、フォークリフトが傾き始め、汚泥ピット内へフォークリフトとともに転落した。	150102	1	50～ 99
		15	家庭用紙製品の倉庫内において、フォークリフトでダンボールを運んで			

1999	6	～ 16	いたところ、荷崩れをおこしそうになったのでフォークのマスト上にあがりこれを直し、マストを利用して降りたときに左足がフォークリフトのチルトレバーに触れたためマストとヘッドガードの間に挟まれた。	40301	7	30～ 49
1999	6	～ 16	フォークリフトでコンクリート2次製品のVS側溝を2段積んだままの状態 15 で工場から製品置場に運搬し、同型の側溝を3段に積み重ねるため、 一旦フォークリフトから降りて一番下の側溝の4隅にあて木を置いてい 16 たときに、フォークリフトが動き出してフォークリフトと側溝との間に 挟まれた。	10901	7	50～ 99
1999	6	～ 2	1. 5トンのバッテリーフォークリフトを運転して工場構内でゴムを巻き つけたボビン3本を運搬しているときにフォークリフトが転倒し、ヘッ ドガードに身体を挟まれた。	10806	2	300～
1999	1	～ 14	13 古紙回収業の作業所兼倉庫において、プレス済みのダンボール紙を フォークリフトで運搬中、ダンボール紙を運び入れるために来ていた食 14 料品店の労働者をフォークリフトの荷の下に巻き込んだ。	80209	7	1～9
1999	3	～ 21	不良品を入れたホッパーをフォークリフトで運び、ダンプカーの荷台に 20 載せる作業で、自動的にかかる筈のホッパーの固定フックが掛からな かったため、フォークリフトの右前フェンダー上に立ってフックと 21 フォークリフトの操作レバーを操作していた時に、マストとヘッドガー ドとの間に挟まれた。	10905	7	30～ 49
1999	5	～ 15	14 ダンプ置場に仮設の雨除けテントを設置するため、フォークリフトに大 根用のパレットを取りつけてその上で作業を行い、次の場所に移動させ るためにリフトを下げているときに乗っていたパレットが急に傾き、舗 15 装面にパレットとともに転落した。	10109	1	1～9
1999	5	～ 1	0 資材置場のテントが強風により飛ばされたのでフォークリフトのパレッ トを作業床にしてテントの梁を修理していたときに、誤ってフォークリ フトの車体とマストの間にはさまれた。	80409	7	1～9
1999	5	～	9 フォークリフトを運転しフレキシブルコンテナの積み込み作業のため5 号倉庫へ向かっていたときに、倉庫前のテントハウスの支柱に激突して	40301	7	1～9

		10	車外に投げ出され、倒れてきたフォークリフトに腹部を挟まれた。			
1999	4	15 ～ 16	冷蔵倉庫内で荷を出庫するため、フォークリフトのフォーク荷台上で荷の積み込み作業中に、倉庫の梁と荷との間に挟まれた。	80401	7	50～ 99
1999	5	11 ～ 12	ダンボール詰めされた製品を1. 5tバッテリーフォークリフトで運搬中、最上段の段ボールが崩れたためフォークリフトを止め運転席から操作盤に足をかけてマストとヘッドガードの間から顔を出したときに、体の一部がマストレバーに触れたためマストが後傾し、マストに押された段ボールとヘッドガードとの間に頸部をはさまれた。	10805	7	30～ 49
1999	4	10 ～ 11	配合飼料の入ったフレコンパックをフォークリフトで運搬し、空パックを回収するため走行中、配合飼料入りフレコンパックを吊下げ走行してきた同僚の運転するフォークリフトにひかれた。	11709	6	10～ 29
1999	4	16 ～ 17	フォークリフトで加工物を入れた鉄製の箱を4段積みしていたところ、上の2段が外れて傾いたため、これを修正するため、フォークリフトの運転台の前に足をかけてマストと運転台の間へ上ったところ、マストがチルトしてフォークリフトのヘッドガードとマストとの間に胸を挟まれた。	11201	7	50～ 99
1999	3	10 ～ 11	倉庫から商品の品出し、ピッカーに乗って床から2. 8Mの高さまで上昇し、商品棚の3段目に置いてあった日本酒のビンを取り出す作業を行って1階の床に転落した。	50101	1	10～ 29
1999	3	13 ～ 14	500kgトランスバック2個をフォークリフトで吊上げトラックに積み込み、フォークリフトが後退したのでトラックに乗り込み前進させたが、「バタン」という音がしたのでトラックから降りてみると、フォークリフトが倒れてオペレーターが下敷きになっていた。	11709	2	10～ 29
1999	3	16 ～ 17	ゴム素材製品入り木箱をフォークリフトで床上に下ろすため、木箱を2段積みにして後進させていたところ、上側の木箱が落下して、木箱に入った袋詰めのゴム素材製品が飛び出し、近くにいた者に激突した。	10806	4	50～ 99

1999	3	8 ～ 9	バースにおいて、空の蓄電池式フォークリフトを運転してスロープをバックで登る途中で登り切れなくなったので、サイドブレーキをかけ右足をアクセルから離れた瞬間に前に滑り、約3メートル下に停車中のトラックの左後部にいた者にトラック左後部が当たった。	40301	6	1～9
1999	3	10 ～ 11	マグロ養殖の生け簀の枠組みに使用していた鋼管6本をフォークリフトで吊り上げて、移動中、荷が天秤にならないよう支えていて、フォークリフトの右前車輪に巻きこまれた。	70209	7	1～9
1999	1	17 ～ 18	借りた足場材を土場まで2tトラックで返却に行ったところ、足場材を入れる籠の前にフォークリフトが置いてあったので、退かそうと運転したところ転倒しフォークリフトの下敷きとなった。	30209	2	10～ 29
1999	3	11 ～ 12	缶詰等の保管倉庫内で、フォークリフトをバックさせたときに、後方右側のパレット積の陰から歩いて出てきた者を右後輪でひいた。	10103	7	300～ 499
1999	3	0 ～ 1	倉庫内で、フォークリフトに積んだパレットを高さ2メートル30センチまであげ、そのパレット上でワイヤーロープをアングルにかけているときに、地面に墜落した。	30105	1	10～ 29
1999	3	13 ～ 14	回収したフライヤーをステンレスとスチールに仕分けするため、フォークリフトを後進させていたときに、運転者がペダルの操作を誤って止まらずにそのまま後進させてしまい、フォークリフトの後方で作業していた者をひいた。	11009	6	1～9
1999	1	9 ～ 10	構内で、トラックから鋼材の荷卸作業を終えてトラックのエンジンをかけようとしたがかからなかったため通りかかったフォークリフト運転手に牽引してくれるように依頼し、トラック運転手がトラックとフォークリフトのワイヤー掛けしているときに、後進で接近してきたフォークリフト運転手がブレーキとアクセルを間違えて踏み込んでしまい急発進してきたフォークリフトとトラックとの間に挟まれた。	40301	7	10～ 29
		16	倉庫の底の錆取り作業を、フォークリフトのフォークに箱型パレットを装着して地上約1.4メートルのところで行い、作業終了後、パ			

1999	2	～	レットからマスト伝いに降りようとしたときに、誤って体の一部がレバーに接触したためマストが動きマストとヘッドガードとの間に全身を挟まれた。	10903	7	50～ 99
1999	1	3 ～ 4	重さ約560kgのラミネート紙(ロール状)をフォークリフトを用いて運搬中にラミネート紙とフォークリフトのクランプとの間にはさまれた。	10602	7	100～ 299
1999	1	～	市場の構内駐車場において、青果をトラックに積込む作業を手伝っていたときに、運転手がエンジンをかけたまま運転席を離れた際、積荷のキャベツの箱が荷崩れ仕掛けしているのに気付いたので運転席とマストの間に立入って荷崩れを手で直そうとしたところ、身体がマスト起伏レバーに触れマストが起き上がり、その間に胸部を挟まれた。	40301	7	1～9

2021年、2020年の事例は新型コロナ罹患を含む。2011年の事例は東日本大震災による労働災害を含まない。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

[小起因物別の死亡災害事例（1999-2021年）](#)に戻る。

(参考) [労働災害の分類の概要](#)